

白いベールの中、空に向かってそびえるツナ

世界の山旅

刃境の旅

**海外トレッキング
特設説明会開催!**

■ 開催：14:00~16:00
 ■ 予約：☎06-6444-3033
 ✉ osaka@alpine-tour.com
 ★ 参加費 無料 (お茶代別)

ヨーロッパの山旅



●開催日：3/10(火)

ハイキングから登山まで楽しむ5日間ツアー!

カナダの山旅



●開催日：3/26(木)

ゲストスピーカー来日

ダイニミックなカナダの自然を楽しくご案内!

韓国の山旅



●開催日：4/1(発)

ゲストスピーカー来日

身近な韓国の山の情報盛りだくさん!

アメリカの山旅



●開催日：4/9(木)

ゲストスピーカー来日

多種多様なアメリカの自然を楽しくご案内!

南米の山旅



●開催日：4/16(木)

ゲストスピーカー来日

大人気の南米の山旅。参加費も豪華予定!



アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

<p>ニュージーランド 大自然満喫ハイキング 8日間</p> <p>●4/28発</p> <p>●398,000</p>	<p>ミッドウインター、日本山、3つの山旅 ハイキングと4,000m登山 10日間</p> <p>●4/28発</p> <p>●5,220 ●6/19発</p> <p>●264,000 ●276,000</p>	<p>アルプス3大山群 渓谷ハイキング 10日間</p> <p>●6/6発</p> <p>●6/13発</p> <p>●6/27発</p> <p>●428,000 ●436,000 ●458,000</p>
--	---	---

詳細のツアー案内にも多くの企画がございます。まずはホームページをご覧ください。

ALPINE TOURS 株式会社
 〒560-0003 大阪府西区京町堀1-4-3 TCビル4F
 東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
 名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1567
 札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(254)1165
 (法人様専用) 広島/☎82(2)180-655
 e-mail: osaka@alpine-tour.com

山の中でオリジナルツアーを企画してみませんか?
 山岳会、ハイキングクラブで企画
 ツアーリーダーも同行し、安心の山旅
 山岳会、ハイキングクラブなどで海外旅行、ツアーハイキング
 を企画したい、いつもの山岳会で海外の山岳会まで参加したい
 というような場合には、アルパインツアーからツアーリーダーが
 同行し、ご案内いたします。旅行プランについては、お電話
 でお問い合わせください。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングの slides を上映します。



樹齢何百年？ このような枝分かれで育った不思議な木。



登山道は芽吹きとスギの大木が霧の中に美しい。

近江の山

樹木の四季 — 陽春 —

山本 武人

鈴鹿の山・杉峠手前近江側の樹林

(東近江市水原寺、千種街道)

千草千種(越)は、昔から多くの武将や旅人が歩いた峠である。

谷間の樹林はすばらしい。シデ・ナラ・ブナ・スギなどの大木が道筋に多い。

杉峠はその中で標高が1000mを超える。

近江側の谷は、陽春には白霧が濃い、淡い芽吹きと樹林を包む。この光景を多くの旅人も見つけてきたのたろう。

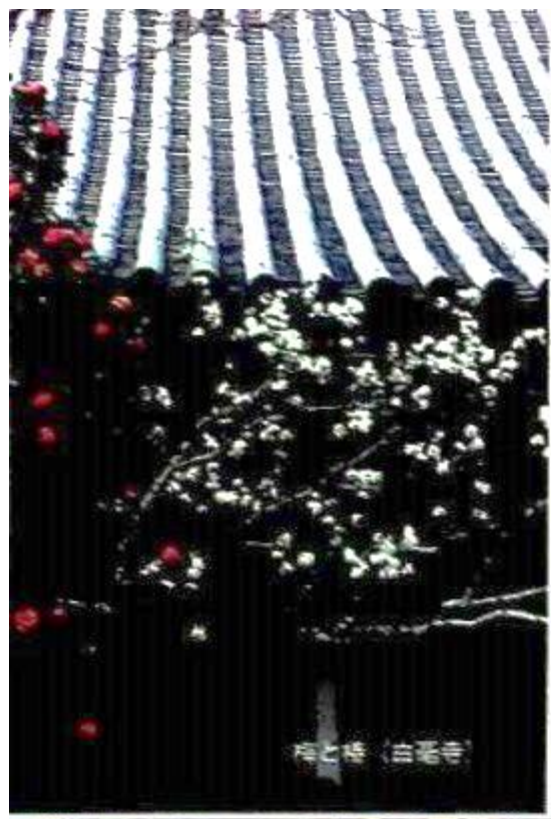
いまも、私たちに安らぎを与えてくれる風景である。

Photo essay

桜始開



撮影 中田 謙一
編集 田中 寛一
発行 杉本 浩一



高代寺（田原市）

春の第一花、桜の開花は、
春の到来を告げる。
夕陽の紅が、桜の花を照らす。
桜の香りが、春の空を漂う。
桜の葉が、春の風を切る。
桜の花が、春の空を染める。
桜の葉が、春の空を染める。
桜の花が、春の空を染める。
桜の葉が、春の空を染める。
桜の花が、春の空を染める。
桜の葉が、春の空を染める。
桜の花が、春の空を染める。



高代寺（田原市）



遠く

季節の



天を越す

実景

平野の桃源郷「奈良奥」

嵐山 武田道

四季



嵐山



百花堂



嵐山



コブシ咲く峠 (京都北山・雲ヶ畑持越峠) 山中 茂



朝日に映える白馬三山 (北アルプス・八方尾根より) 高岡 富美子



春の足音 (北アルプス・ワサビ平) 武田 誠司



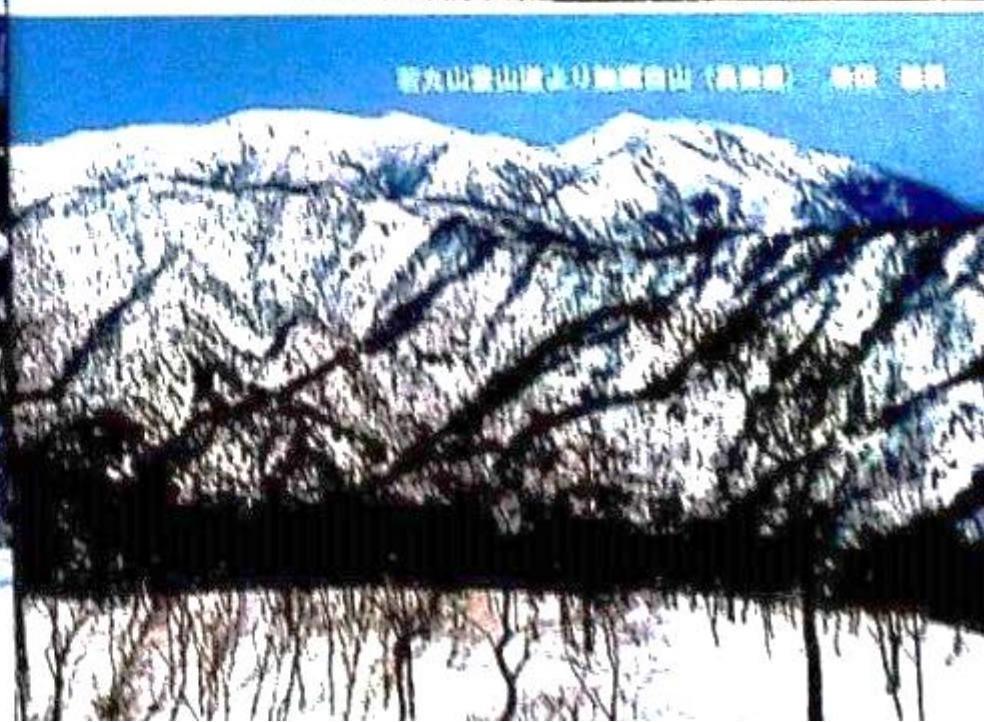
堂ヶ山 (越前) 一志 義雄



下力又より南麓野山 (奥能登) 松田 敬典



堂ヶ山附近から真名川ダム (越前) 一志 義雄



新丸山登山道より南麓野山 (奥能登) 松田 敬典

- 表紙 朝焼けの白峰三山 (南アルプス).....松田敏男
- 口絵 近江の山・樹林の四季.....山本武人
- Photo essay「桜始開」.....松永恵一
- 季節の実景「平群の桃源郷」.....武市通治
- ・武田誠司・高岡富美子・松田敏男・芝義球
- 桜の弘川寺を訪ねる.....奥田英一郎



ショウジョウバカマ
(西村文男)

桜の弘川寺を訪ねる (葛城) —西行法師入寂の地—

※本文14ページ参照 奥田 英一郎



御影堂



西行墳墓



西行桜山

紀行

連載紀行

- 西行入寂の地、弘川寺を訪ねて.....奥田英一郎
- 中仙道① 細久手宿から大湫宿.....国井 文男
- 飯沼経から難ヶ岳.....木村 太郎
- 大原山.....山形 明
- 御池岳.....長谷川雅俊
- 三条山と燗井の頭.....野木 伸人
- 権現山麓、ホンケ山直隴.....小山 國次
- 上小池から輪教寺山.....山田 明男

雑想

- 標高による山の紹介 △△0.5計の山.....松田 敏男
- 三角点を訪ねて・遠敷郡の高.....堀部 純
- 楳園登山・釜山から金井山城.....吉見 英樹
- 文学歴史ハイク・佐保路、平城宮跡を訪ねて.....松永 恵一

情報

レポート

- 仙人窟岳.....山形 明
- 山の地名を歩く・牛岳.....西尾 寿一

コースガイド

- 「明日香福源」の棚田.....長宗 清司
- 宇瓜生山と吉田山.....野木 伸人
- せせらぎ.....111
- サービステーション.....112
- 山行計画・報告.....112

巻頭言

物事が急速に世界同時に進行する時代、ある出来事や現象が急速に世界中に広まっていく。しかし、多くの人は、氾濫する情報を取捨選択し疑問をもって背景を分析し、真相を探ろうとしない。知ったことを鵜呑みにし、発信元と同じ認識を共有してしまいがちだ。IT時代の怖さである。

例えば「富士登山はすばらしい」と言われ、実際に登ってみてそれが良実かどうか自分で確かめる人はごく少数で、登らないで「富士登山はすばらしいもの」と信じこむようなものだ。

山は実際に登ってみて始めて自分流に評価したい。一度も登らないで伝え聞いた情報だけで「あうだこうだ」と言うのは止めにした。たとえ「百名山」でも自分の足で一歩一歩登ってみて、季節や天候に左右される自然や山の真実を実感し、自分が納得できた山だけを「百名山」と信じた。

新ハイキング関西(代表) 村田 賢俊

「西行と大峰の歌」について

さいぎょう
西行入寂の地、弘川寺を訪ねて

ひろかわでら
葛城山麓

奥田 英一郎

一昨年(07)の春、花で賑わう季節を避けて吉野の奥の西行庵を訪ねたのは新緑の美しい頃だった。あの時、八経ヶ岳に登るのに弥山川を廻りたいという初老の男性や、放浪の生活をしながら花の季節の吉野の旅館で働いているという、山好きの青年に会った。

その折、持って行った文庫版の「山家集」を開きながら「西行と大峰の歌」について、自分よがりな小さな感想をまとめたのだが、その後何となく気になることがあって、昨年(08)は葛城山北西麓にある弘川寺を訪ねた。



弘川寺は西行が亡くなる一年前、この寺の座主空寂上人の法徳を慕って草庵を結び、この地で入寂された所である。この寺に今回は花の季節に訪ねて「西行と大峰の歌」についてもう少し気がかりなことを考えてみようと思っただのである。

近鉄富田林駅構内の案内所に寄ると、女性ははいねいに教えてくれて、さらに「弁当は持っておられますか」と気遣ってもくれた。

バスは10分ばかりで市街地を抜けると、車窓から二上山と葛城山を結ぶ柔らかな山並が眺められた。やがて山裾の曲がりくねった道をしばらく走って間もなく、終点の河内に着いた。山里は静かなたたずまいであり、二十数軒ばかりの人家が落ち着いた感じで人影は無かった。田舎によくあるなんでも屋さんのような店はもちろん、食堂なども無かった。

右手の坂を少し上ると、新しい駐車場があるが、まっすぐ行くと再び小さ

山門前の菜の花畑と山桜

な駐車場があって山門がある。近くの黄色の菜の花が目には鮮やかであった。濃い緑の山桜には山桜が薄いピンクで彩っていた。山門の奥にも桜花が眺められた。石段を上って山門をくぐると、鐘楼があって護摩堂との間に一本のしだれ桜が満開である。高札が立っていて、「すや桜」とある。南

朝方の弘川城主であった阿屋与市正高卿は足利勢に抗しきれず、この寺に下って桜の花の下で自刃されたのである。当時の桜は無くなったが、故事にちなんで植えられた桜だということだ。西行入寂の寺として知られ、葛城二十八宿の霊場として役ノ行者の開創になると伝えられるこの寺は、楠公ゆかりの寺でもある。

ともあれ、西行の八百年忌を記念して建てられたという「西行記念館」へと本坊の受付に向かう。住職さんがおられ、西行の墳墓について話してくれられた。江戸時代中頃の「今西行」といわれる似姿という歌僧がここで西行の墓を発見されて自分もここで亡くなられたと言った。西行が執着した桜も植えられたが、住職自身も西行忌を記念して、1500本の桜を境内の裏山に植えたと言った。

本坊の長い廊下を歩いてすぐ庭の片隅に年古りた「かいとう桜」がある。三百五十年になるという天然記念物だが、朽ちかけた幹を支えるのに組まれた鉄パイプがかえって傷ましい。庭の中央にある立派な桜は今が満開だ。記念館に入ると堂々たる西行の座像が目を見張る。若い頃の顔だが、胸が厚く肩幅が広く力強さがみなぎる姿である。これが文覚上人作と伝えられると聞いて思わず思い出したことがある。



西行にしても文覚にしても残っている肖像画によると、二人ともいかにも荒法師然とした顔付きである。兩人は元武士で道ならぬ恋の経歴を経て後に出家したというところもよく似た運命をたどっている。その文覚が出家後の西行について、歌などを詠み多いてい

ることをよく思わないで、かねがね弟子たちについてか出会った時には頭を打ち割ってやると語っていたところ、西行が神護寺の文覚を訪ねてくる機会があった。弟子たちは大変なことになるな、文覚はねんごろにもてなして帰したという。何こともなくてよかったと思ふ反面弟子たちが、日頃言っていたことと違うではないかと尋ねたところ、「あれは文覚に打たれんずる者の面やうか、文覚をこそ打たんずる者なれ」と「井蛙抄」(頼阿)と言ったという。

その文覚が西行像を彫ったと伝えられていることは、人間関係のおもしろいことなのだろうか。記念館には「西

行物語」に出てくる西行についての逸話をもとにして描かれた絵画だとか、その他、似雲や西行についての膨大な数の資料や著作がぐっすりと並べられている。

意外と時間をとったあと、空が明るい境内に戻ってあらためて本堂の築師如来にお祈りしたあと、右側の石段を上った所に資舟の簡素な西行像がある。2500年ばかり昔、似雲が建てたものだという。深い木蓋に包まれたお堂の横に背丈ばかりの歌碑がある。

西行上人東国行脚の詠
年たけて又越ゆべしと思ひきや
命なりけり小夜の中山

日本芸術員会員 川田順護書
西行御成の時、二度目の平泉への旅の際の歌である。東大寺再建のため藤原氏へ資金動進のための旅であった。「又越ゆべしと思ひきや」に再び越えることになると思ってもいなかっただという道の険しさが他げられるし、「命なりけり」にこれが自分の人生なのだ

という西行の概観する気持ちを感じられる。歌人である川田順護氏のことだから西行の歌の心を自分の心として共鳴されたのだろうか。西行の数多い歌の中から特にこの歌を選び出された気持ちが、飾り気のない枯淡な筆蹟で木洩れ陽のなかに読みとれた。

お堂の右上の石段のすぐ傍にかわい

い句碑が目立たなく立っている。
意やいつの世までをさびしさに
松瀬青々

石段をさらに上って行くと、山を開いたような平らな台地に出た。桜の花びらが一面敷きつめられたように散らばっている。その中央に二基の大きな歌碑が目を引く。

願はくは花の下にて春死なむ
そのきさらぎの望月のころ
私には桜の花を奉れ

わが後の世を人とふらははば
よく知られた西行の歌である。右のは尾山篤二郎氏、左は佐々木信綱氏の筆になる。弘川寺は歌聖といわれる偉大な西行終焉の地だけに、桜の季節であ

っても観光客よりも西行の歌に心を寄せるいわゆる文人といわれる人や学者たちが多く訪れるのだとつくづく思う。奥の方に小高い塚があって近づいてみると、卒塔婆の脇に西行之墓と刻まれた小さな墓碑がある。雑木におおわれた墳墓だ。西行の塚を隔てて台地の向かいに同じような小高い塚があり、ここにも墓碑があって似雲の墓とある。そのすぐそばの木蔭にやはりかわいい歌碑が建てられていて、

尋ねて袖に涙のかかるかな
弘川寺に残る古墳

刻まれた文字は、似雲の自筆だとい

う。似雲がかねがね慕い憧れた西行の墓を発見した時、涙が出るほどしみじみした気持ちだったのだろう。

歌碑は特に無かったが、良寛もこの寺を訪ねて来て、

たおりこし花の色香はうすくとも
あはれみたまひ心ばかりは
と詠んでいる。
さらに 釈空雲こと折口信夫氏は
古つかをまかづる頃よ夕立ちぬ

イモック山行くらぶ
伊豆山行、常盤を気にせよ。
聖山・聖山・聖山を歩かぬ。
の気持に御座りませう。
詳細はお問い合わせ下さい。
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528

人気商品紹介
◆ウォーキングライト◆
オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac
クライミングからハイキングまで使えるシンプルでデザイン、トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した計画りから一泊用のノンフレームのザックです。
☆25/☆
・カラー フレーメンディビ・レッドメンディビ・フリンメンディビ・オレンジメンディビ
・容量 25L
・素材 ナイロン/リップ
・価格 ¥19,800



弘川の村をぬれてや行かむ
と詠んでいる。「古代恋愛集」とか「近代悲傷集」を読んで感じ入った若かった頃を思い出す。
葛の花踏みしだかれて色あたらし
この山道を行きし人あり
という歌が好きだった。

すっかり心ゆさぶられて時間をくってしまっただが、西行桜山に登ってみる。ジグザグの山道を登る。視界が少しずつ広がる山裾に山桜が薄っすらと眺められた。山道の脇も満開の桜である。見事な桜の花の下で中年の夫婦が弁当を食べている。少し離れた草地でも2人連れの女性が食事をしている。西行忌八百年を記念して植えられたという桜を眺めながら、さらに上がった高みのある木の根かたに腰をおろして自分もおにぎりを食べた。そばに似雲草庵跡と書かれた高札がある。

須磨明石恋より見えて住む庵の
うしろにつづく葛城の峯
似雲

気がつくと坐っているすぐ傍にもかわいいう碑がある。

いくたびの春の思い出西行忌

阿波野青歌

句碑は広いシヤガの花に囲われてい
る。4、5人の男女のグループが通り
すがりに喋っている言葉が耳に入った。
「初めて来た者にはあの意味はわから
んワ」と女性の声だった。するとやや

年輩の男性が「わたしの年くらいにな
つたら、ようわかるア」と言う。する
と別の女性が「青春時代の思い出かー」
と言うのが聞こえたが、男性のあとの
言葉は聞きとれなかった。みんなで笑
う声だけが聞こえた。

春の西行忌には西行と彼の歌を偲ん
で何度この寺にやって来たことだろう。
その度に、西行と歌について新しい発見



「すや桜」〔後ろは御影堂〕

があったなあというのが私の読みだが、
人によつては青春時代の甘美な思い出
もあるのかも、と思いつながら腰を上げた。
スミレが咲いている山道を歩いて、
朽ちかけた棧道を渡って坂を上ると草
地に出た。西行庵跡と高札がある。

龍まで唐紅に見ゆるかな

さかりしぐるる葛城の峰

訪ね来つる宿は木の葉に埋もれて

煙を立つる弘川の里

弘川の草庵にて 西行

初め、西行が入寂の寺に桜の季節に
訪ねて、「西行と大峰の歌」について、
さらに考えてみようと思つて来たのに、
桜の花は見事だったが当初の目的は全
く果たせなくなつてしまった。西行の
歌と彼を慕う人たちの心にこちらも揺
さぶられてしまつていふうちに紙数を
重ねてしまった。大峰の歌については、
次の機会にしよう。

この次に弘川寺に来るときは「葛城
山も弘川寺も唐紅に見える」時季にし
よう。そんな機会があるかどうか。

紀行

中仙道トレイル① 皇女和宮降嫁の旅

細久手宿から大湫宿

国井文男

東濃

住み慣れし都路出でてけふいくひ いそぐもつらき東路のたび

文久元年（1861）16歳で初めて京を離れ、江戸幕府第十四代将
軍徳川家茂に嫁ぐための旅路。皇族の暮らしから体験したことのない
武家への暮らしの変化、どんなに不安で辛い旅路であったことか。当
時の皇女和宮の心境を詠んだものである。

琵琶峠の頂上には今も皇女和宮顕彰歌碑が立っている。最近ではN
HKの大河ドラマや有吉佐和子の小説で見たり読んだりしてはいたが、
実際に当時の面影をいまだに残すといわれている中仙道、その歴史の
一端に触れるべく10月の中頃、会社の先輩と歴史散策の旅に出た。

細久手宿の大黒屋



大兄は中仙道歩きの人で各所の歴
史散策を経験されている。その紀行文
を讀ませていただいたり、その土地の
風土・史跡・逸話などの話を聞かせて
もらっているうちに行きたくなくなり、無
理を言つて同行していただいた。日程
は2日間、細かな時間は制約しないと
の条件で馬籠宿までを計画した。
10月というのに初夏のような日差し



中仙道・細久手宿～大湫宿付近図

が注いでくる。名鉄御嵩駅からタクシーで細久手宿の大黒屋へ向かう。本来は御嵩宿からも見所が多く、散策することも考えたが次回に回すことにしてのんびり行脚を決め込んだ。

ここからは中仙道の中でも山間を進むことになる。どの地点からでも南下すれば、JR中央本線や国道19号線が並行しているのだが、交通アクセスは少なく、事前の調べが必要である。

細久手の大黒屋は、今も昔の面影を色濃く残す唯一の旅籠だ。おかみさんの酒井房子さんが自ら記した資料によると、慶長八年(1603)当時、尾張藩が大湫宿と御嵩宿との間が長いため、中をとってこの地を定本陣(公儀の本陣、幕本陣は別のところにあった)としたとある。安政五年(1859)の大火事でこの地のほとんどが焼けてしまい、大黒屋も例外ではなかった。近年、大修理の際、縁の下から発見された木片に「安政六年十二月吉日 米九号清七」と書いてあり、築後150年以上とわかったそうだ。おかみさん

は「ただの年寄りです」と自らを言われるが、本当に素朴なお人柄でなかなかの文化人である。今も立派に旅館を経営されていて、心より「頑張ってください」と応援したくなった。中仙道を歩かれることがあったら立ち寄ってほしい。今も改装中だが、当時の雰囲気そのままだに残されるそうだ。

すぐに出発するはずが話し込んでしまい、大黒屋を出たのが8時30分。標高4300mの中仙道といえども地方主要道なので車の往来がけっこう多い。登段山歩きばかりの私にとって、平地のアスファルト道はいささかおとろえを感じ始めた脚にとって強敵だ。しばらく歩を進めると奥野田一里塚がある。今日は一里塚を五つ通ることになるがどれも北塚・南塚がほぼ完全な姿で保存されており、貴重な史跡となっている。

30分ぐらい歩いただろうか、左手の池に囲まれた弁財天を祀る小さな祠がある。ここで少し休憩する。池は弁財天池と呼ばれ、初夏にはたくさんのお花見客が訪れる。右手には清掃されたトイレ口とある。右手には休憩所とある。

この石畳は長い間、土に埋もれていて昭和45年に郷土史家渡辺俊典さんの努力によって発見された。当時、落合宿の十曲峠が発見され、ここにもきつと石畳があるに違いないとの強い信念で5年余りをかけ、やっと探し当てられたとのこと。その後の調査で残された石畳はおよそ500mもあり、日本一であることがわかった。総じて六十九次ある中仙道宿の中でも御嵩宿から大井宿までは山間に位置し、開発が遅れたことにより、自然が多く残ったとされている。

松にそよぐ風が心地のよい音を立てている。私的な感覚ではあるが妙に武満徹の音楽が合うような気がする。それにしても何と気持ちのよい空間なのか。本宮にきてよかった。八瀬沢一里塚を両手に見ながら、やがて標高5500mのやや道幅が狭くなった琵琶峠頂上に着いた。

冒頭の皇女和宮の石碑をはじめ、幾

があり、右に行くと三和之郷へ行ってしまいそうになって戻る。ここは左の道を進む。

立派な現代風の建屋があり、多くの犬が盛んに吠えている。看板を見ると犬の訓練所とある。少し進むと茶屋跡がある。ひと休みするには格好の場所だ。ここに本当の茶屋でもあればとつくづく思う。時間はゆとりと進む。北野坂の廻り塔を左に見ながら、平たい土地で甘茶屋が十数軒あったといわれる八瀬沢立湯跡に着く。そこには今度は間違いない標識のようで、左方面に中仙道と記してある。

民家の左手を進むと、所どころ苔むした石段がゆるやかな傾斜を成して続く。ゴツゴツとした登山道に比べれば本宮に人に優しい石段である。自然林にそよぐ秋の風。凜とした空気が実に心地よい。3万人とも5万人とも言われた皇女和宮の行列がしずしずと進むさまを思い浮かべる。石畳は現在の道路にいったんさえられるが、それを直進すると石碑があり、琵琶峠西上り

が見事な彩を成して咲き競うようである。心なしか車の往来も少なくなった。標高5200mの峻険を越えてしばらくすると分岐があり、「歴史の道の整備事業」による立派な標識がある。大湫は左方面を指している。大兄は「この標識に従い進んだところ、とんでもない所へ行ってしまった」と話してくれた。「多分、机上で設計され現場も見ずにつくられてしまったのではないか」と言いながら、ここは右へ進む。相変わらず現代と隔絶しない道だがやけに狭くなってきた。やがて北野神社から来る道に出会う。天神辻の地蔵様がある所だ。先ほどの標識に従えば迂回させられることになり、半里程余分に歩くことになる。ここにまた分岐



琵琶峠

つかの文学碑が建っている。故事によると西への眺望があり、一見の価値ありとされているが、今は木々にさざざられて眺めは望めない。長い下りの石段を降りて行くと森の濃さが次第に薄くなり、大湫の町が見え始める。

病院に挟まれた道を進むと、平地では実にめずらしいほどの巨岩が二つ並んでいる。一つは「烏帽子岩」もう一つが「母衣岩」と名付けられ、二つ合わせて「夫婦岩」と命名されている。歌川広重の浮世絵「木曾街道六九次之内大久手」のレリーフがあり、詳しく説明されている。

大湫宿が見えてきた。大湫宿は、慶長九年（1604）に御嵩宿から大井宿までの間に宿が無く不便だったので設けられた。町並は三町六間（約340m）の間に旅館が大五軒、中十七軒、小八軒がひしめいていた。入口の高礼場を過ぎると宿の町並に入っていく。和宮降嫁の際も、旧小学校跡に本陣があり、宿泊されたとされている。

年余の立派な杉が際立っている。同行した大兄によると、「先回来たときは上のほうにも被い茂っていたし、低くなって枯れかかっている」と言う。これも酸性雨の影響かとおもいきや、平成14年に落雷に遭ったと後に訪れた資料館で知った。地元の人によると、落雷被害に遭ったにもかかわらず今も立派に大湫の町を見守っており、「さすがわれらのご神木」と賞賛されている。

旅の無事を祈りつつ参拝を済ませ、歩を進めると左手に大湫コミュニティセンターがある。中には宿場の配置図があり、本陣を始め、膳本陣の位置等が細かく記してある。また、中仙道街道、大湫宿元禄大火、皇女和宮の資料等があり、街道を探索する人の格好な資料館となっている。

そもそもなぜこの降嫁の旅が中仙道を進んだかにはいろいろな説がある。一つは幕末の混乱期に岩倉具視らが推進する公武合体をすることで皇室安堵を図ったことに始まる。川越えをしなればならない東海道を進むより障害

が少ないこと、山中ひっそりとしていたことから尊皇攘夷派の訪者を受けにくいとし、その進路を中仙道にとつたようだ。また、自然が豊かなことから女性の道中に好まれることが多い。別名「飯街道」とも呼ばれている。

文久元年（1861）10月20日京都を出発。翌文久二年2月21日江戸に到着というから、およそ半年かけての長旅であった。（平成19年10月12日参く）

△コースタイム▽
名鉄御嵩駅（タクシー25分）頼久手「大黒屋」（20分）奥野田一里塚（25分）弁天池（1時間）琵琶峠西入口石碑（50分）夫婦岩（15分）大湫神明神社（5分）大湫宿本陣跡・大湫コミュニティセンター

△地形図▽
2万5千：武並・御嵩

参考文献
「中仙道風の旅 落合―京都編」（テレビ埼玉・群馬テレビ編集）さきたま出版会

紀行

万葉集の歌枕を訪ねて

はんのうら

飯浦越から賤ヶ岳

たけ

湖北

木村 太郎

滋賀県伊香郡木之本町と余呉町境の賤ヶ岳は、琵琶湖八景の「新雪・賤ヶ岳の大観」に選ばれ、南に琵琶湖を北に余呉湖を見下ろして展望が良い。

羽柴秀吉と柴田勝家が、織田信長の跡目争いをした賤ヶ岳合戦の古戦場でもあり、南麓の大音からのリフトを利用すれば、観光気分

で山頂に立つことができる。
賤ヶ岳の別名として、万葉集に笠金村が伊香山の名で詠んでいる。賤ヶ岳南麓に式内社伊香具神社があり、伊香山または伊香胡山と呼ばれた山は、賤ヶ岳の南嶺を指すとされている。

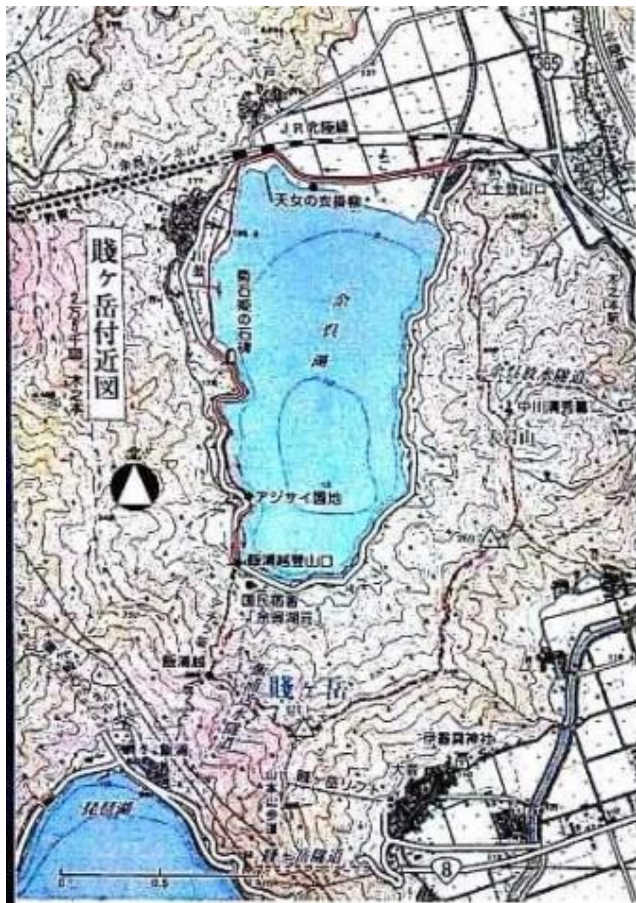
余呉湖畔から賤ヶ岳



宮廷歌人の笠金村が越前の因府（武生市）に赴く主君石上大夫に同行して、都から越前へ旅した時の歌、
伊香山野辺に咲きたる萩見れば
君が家なる尾花し思ほゆ

（巻八ノ1533）

伊香山の野道で、旅人の衣服に触れるように萩の花が咲いている。主君の



の補助事業で川並地区に出来たアササイ園地を通り抜ける。岸辺に齋部路通の句碑があり、向こう岸には雪嶺が頭を覗かせている。湖北の果ての山々は、春の杪読みには早すぎるようである。

国民宿舎「余呉湖荘」の手前に飯浦越登山口の道標を見る。塩津浜や飯浦が大津と越前を結ぶ旅の要港であった時代、余呉と飯浦を往来する土地の人が通ったアチラ坂である。坂の途中から雪が現れ、切り通しに上がるあたりで深さが増す。数日前に思いがけない寒の戻りが来て、なごり雪が山肌を白く染めている。

まっすぐぐぐれば飯浦、峠の地蔵を見て右に進めば塩津浜に通じており、賤ヶ岳へは切り通しを左に曲がる。先頭を行く友が白い山道に鹿の足跡を見つめる。雪に彩られた尾根道を直進し、急勾配の階段道を上がり、賤ヶ岳(三等421.1m)の山頂に出た。

江若国境の山、越前寄りの山、美濃寄りの山、雪嶺美しい伊吹山と、ぐるりと見渡し山々を楽しむが、樹木の無

ターセンターの前から湖畔の遊歩道をとる。水没している樹木が岸辺に見られるが、湖中では二千年前の埋没林が発見されており、余呉湖が出来た歴史の古さを証明している。

釣り人が歩いて来たので、何が釣れるのか聞いてみた。その人は袋を開け、ワカサギを見せてくれた。琵琶湖と同じ

じ第三紀の陥没湖の余呉湖は、湖底より水が湧いてくるので測れないという。飛来してきたマガモとコガモの群れが、禁漁区の湖の水面を戯れるように泳いでいる。

地道の遊歩道がいったん途切れ、湖岸道路の菊石姫と蛇の目玉石の碑前に出る。元の遊歩道へ戻り、農林水産省

邸の庭に尾花がゆれていた光景を思い出し、旅人笠金村が都の暮らしを懐かしんでいる。

万葉時代、都から北陸への旅で、船路をとる時は、奈良山、泉川、宇治川、逢坂山を経て大津に至り、志賀唐崎から湖北の上陸地へ船で渡り、伊香山や塩津山を通行した。陸路の時は、穴大



余呉湖畔からの眺め

(大津市) から和邇、三尾、柄結(マキノ町)を経て、愛発山越えをして越前に出るのが一般的であった。

奈良山から伊香山への旅で、穂積朝臣老が万葉集3240番の長歌の中に、前述した旅の通過地名を詠んでいる。おそらく同時代の笠金村一行も、穂積老が詠んだ地名の並びを同じように旅していたであろう。

塩津山打ち越え行けば我が乗れる馬ぞつまづく家恋ふらしも

(巻三1365)

賤ヶ岳の南麓大音から飯浦へは現在賤ヶ岳トンネルが通っているが、昔は峠越えをしていた。伊香山と同じ道中の塩津山の歌で、笠金村は徒歩でなく馬で旅したものががえる。峠の急坂では馬から降りて、馬を曳いて歩いたのであろう。

笠金村の万葉集への登場は元正天皇の時代で、志貴皇子へ挽歌を捧げている。聖武天皇の時代には、時々に行幸に随行したと思われる紀伊、三香原、吉野、難波、播磨の地で歌を残してい

る。

早春の賤ヶ岳を目的に、友人たちとJR北陸線の余呉駅に行く。人家の庭先には花の苗が植えてあり、雪が多い地方の来る春を心待ちしている様子が見てとれる。湖畔通りに出てみると、暖冬のためなのか路上の雪は消え失せていて、湖の雪景色は楽しめなかった。

古くに伊香小江と呼ばれた余呉湖。近江風土記逸文に、「与胡の郷に、天の八女が白鳥となって天から降り、江の南津に於いて水浴した」と天の羽衣伝説を伝えている。天女が羽衣を掛けたという、伝説の柳の木が湖畔に立つ。アカメヤナギの衣掛柳は、天に高く横に大きく枝をのびしている。

余呉湖の観光看板が建つ湖岸から賤ヶ岳が南方に見え、東西にかけて山が連なる。上空でトンビが風を描き、三方を山に囲まれた鏡湖と呼ばれる波静かな湖は、天女たちが舞い降りても不思議ではない風情がある。

天女像のモニュメントを見て、ビジ



賤ヶ岳山頂

い山頂は風が通り抜け、肌寒い。風の当たらない山頂南端の休憩地に坐り、琵琶湖を俯瞰して弁当を開いた。雪が消えない間はリフトが止まっていて観光客の気配はない。伊香具神社がある南麓大音から数人の登山者が登って来た。伊香小江で羽衣をかくされた天女が土地の伊香刀美と結ばれ、生

まれた子が伊香連の先祖になったという。伊香具神社の伊香津臣命は、伊香刀美が神に変わったものと伝えられる。

大音と西山の集落は、琴糸と三味線糸作りで知られる。リフト山上駅の近く、山本山縦走歩道とつながる尾根に生糸の染料となるクチナシの木が植わり、笠金村の万葉歌碑が建立してある。賤ヶ岳周辺の地域は、水上勉の小説「湖の琴」の舞台になっている。

若狭の炭焼きの娘さくは、糸作りの見習い工女として西山に働きに出てきた。余呉湖側の川並に出向くため、主人に連れられて賤ヶ岳へ登っている。大きな湖と小さな沼のような景色を山頂から驚きの眼で眺めていた。

小さな夢を見ていたさくに、運命が暗転し不幸が見舞う。さくは琴糸で首をくくり桑畑の小屋で命を絶つ。眠る恋人の亡骸を宇吉が糸箱に詰めて、ふたり共に余呉湖に沈む場面で、「湖の琴」の物語は終わる。

若き日に接した水上勉の小説と田坂

具隆監督の映画。賤ヶ岳からの眺めは、悲劇の恋人たちの面影を思い出させてもくれる。映画のヒロインは、佐久間良子が演じている。

小谷山（小谷城跡）のお市の方、虎姫山の虎御前、余呉湖の盲目の蛇となつてさまよう菊石姫など、なぜか湖北では美女の哀話が多く語られる。「湖の琴」のさくもまた、湖北に咲いた美しく哀しい女主人公のひとりにちがいない。

余呉湖は悲劇の顔だけでなく、富士山削出神話にかかわる誉れの顔をもっている。琵琶湖が割れて富士山が生まれた時に、少し足りなかった土を取った跡の窪地が余呉湖なのだという。科学的根拠は別にして、賤ヶ岳麓の土が富士山になったというのはおもしろい。半島が突き出した葛籠尾崎の湖岸線がきらめき、琵琶湖八景の一つ「竹生島の沈影」の竹生島が浮かんでいる。万葉集の旅人たちが見ていた風景と変わらない湖の景色を、昼食をとりながら

友人と見下ろしていた。

雪が残る山上で、ガスバーナーで沸かした熱いミルクティがおいしい。友は海津大崎の桜の見事さを話してくれ

る。葛籠尾崎そばの菅浦の里は、淳仁天皇の保良の宮があった言い伝えがあり、湖北であるのに蜜柑が実る豊穡の地といわれている。

高島の安曇の港を漕ぎ過ぎて

塩津菅浦今か漕ぐらむ

(巻九 1734)

奥琵琶湖にかくれ里のように点在する菅浦の里も塩津浜も、都から越路を目指した万葉時代の旅人たちには、長旅の途中の安らぎの光景であった。志賀唐崎で船に乗り込んだ時とはちがい、澄み切った湖の色合いに、片時旅のつらさを忘れさせたのであろう。

越前守の父に伴われて都をくだった「源氏物語」の紫式部も、塩津浜から越前を目指している。塩津浜から山を越える先の道のつらさを、賤の男から

聞いて歌を詠んでいる。

知りぬらむ往來にならす塩津山

世にふる道はからきものぞと

(紫式部集 123)

万葉時代から中世にかけての旅は、様々にきびしいものがあつた。風雨にたたられる旅の道中で目にした草花に心癒される思いになるのは現代の比ではなからう。

笠金村が賤ヶ岳で詠んだ歌は、前述した歌の他に、「伊香山にして作る歌二首」と題した別の一首がある。草を枕に野宿する心細い旅の途上、衣に色が染まるほどに咲いている萩に、花の情けを感じとっている。

草枕旅行く人も行き触れば
にはひぬべくも咲ける萩かも

(巻八 1532)

万葉の人々が衣服を染めたのは、草花を染料にする草木染めだが、香りが移り染まる薫染のことを歌にしているのだろう。

笠金村の歌は万葉集に伝わるが、国史には記されていない。旅行地で郷旅

の歌を残しているが謎の歌人である。伊香山（賤ヶ岳）の歌は笠金村晩年の歌だが、人や花など他者を思いやるあたたかな眼差しを感じとれ、読後なごやかな気分させるものがある。

昨春秋に山歩きで背骨を骨折したが、怪我が癒えて久しぶりの登山で、雪を踏むことができて幸運だった。忘れていた山の魅力、山歩きの楽しさを再び知ることができた。

賤ヶ岳山頂の三等三角点で記念写真を撮り、大岩山を経て江土登山口へくだる。余呉駅に着いてすぐに、缶ビールと落花生を売店で手に入れ、電車を待った。(平成19年3月16日歩く)

☆コースタイム☆

JR余呉駅(10分) 天女の衣掛柳(25分) 菊石姫石碑(25分) 飯浦越登山口(45分) 賤ヶ岳(1時間) 大岩山(40分) 江土登山口(7分) 余呉駅

△地形図▽
2万5千1:1木之本

十二支のやぶ山

大鼠山

山形明

飛驒

岩井谷林道から大鼠山



岐阜県神岡町山之村の天蓋山に登って東を見ると、北ノ俣岳の手に黒々とした大鼠山が見える。この姿はいかにも毛深い大鼠が背を丸めてうずくまっているようだ。

この大鼠を三匹のネズミが攻めようという事になった。私は昭和11年のネズミであとの2人は一回り下のネズミだ。

「子」は十二支の初めであり方角は北を意味し、時刻は午前零時で午前午後、子午線の意味はみな関係してくる。1月は子の月で私は1月生まれなので、この大鼠が気になってしょうがない。

「子」と「鼠」の付く山は三山しかなく、子ノ泊山と子ノ権現山は両山とも登っている。残りの一山、この大鼠山が残っているのだ。

この山を現地下見し、取付点を決めて2人を誘い込んだ。やぶ山に突入となれば、私は共同謀議の主犯格のような気になってくる。わけてもこの山の周辺には「うれ山国有林」と書かれた菅林署の看板が立ち、入山禁止の臭いもするので何やら後ろめたい。国道471号線から分かれて双六川沿いの林道に入る。林道といっても国

道並みの立派な道だ。ジグザグに走って上り着いた所が山吹峠。目の前は山々に囲まれた高原盆地が広がる山村。日本にもまだこのような所が残っているのかと思えるような山里である。キャンプ場に着くと時間通り3人の顔が揃った。久しぶりである。車一台を山吹峠から入る林道ゲート前に置き車をして岩井谷へ向かう。地蔵堂の横から右の林道に入り、砂利道を行くと最奥の民家がある所にゲートがあり、そこに駐車して出発した。

適当な地点から左の斜面を登った。尾根上に出るとやぶのなかに境界杭があった。この尾根は頂上まで通じているので、境界杭も尾根上を通していると考えてルートに選んだのだが、来てみると尾根上は切り分けがされていた。真新しい境界杭があり、古い杭の頭には真新しい赤ペンキが塗られ、尾根上を点々と上っている。やぶを覚悟でナタやカマを腰に付けて来たが、アレと拍子抜けしてしまった。ブナやク

ロベの巨木のある落ち葉の積もる急斜面を四つん這いになって登り、1時間30分程で三角点に到着した。1584.7m、三等だ。

30分程歩くと左から支沢が流れ込む所に「うれ山国有林」の看板があり、ここが取付点だ。2年前下見に来た時は、このやぶの深い支沢に沿って歩き、

山頂からは雪で真っ白な北ノ俣岳が間近かに見える。前週、樺兵衛時から登った将英頭山の山頂部も30センチの雪があり、水場は凍りつき持参した水も小屋の中でシャーベット状になった。もう冬だ、今世紀初の子年も足早に通

り過ぎようとしている。次の子年にこの山はどうなっているのだろうか。やぶ山に戻っているのだろうか。山村振興事業やパイロット事業で開発されているのだろうか。その時ネズミ三匹に山に登る元気があるか。

山頂での昼食には早すぎる。次のピクから桑崎山との鞍部を越えている林道に向かう。鞍部は大きく広がる台地状の所で湿原もある。ここで昼食。酒も欠かせない三匹のネズミだ。山吹峠までは7+の林道、紅葉を楽しみながらブラブラとくだる。峠の先からは深田久弥の「この山ほど、その名に忠実なものはない。どこから望んでも笠の形を崩さない」という笠ヶ岳が真っ白に輝いていた。

(平成20年11月2日歩く)

八鼠山付近図



山頂からは雪で真っ白な北ノ俣岳が間近かに見える。前週、樺兵衛時から登った将英頭山の山頂部も30センチの雪があり、水場は凍りつき持参した水も小屋の中でシャーベット状になった。もう冬だ、今世紀初の子年も足早に通

次の子年にこの山はどうなっているのだろうか。やぶ山に戻っているのだろうか。山村振興事業やパイロット事業で開発されているのだろうか。その時ネズミ三匹に山に登る元気があるか。

山頂での昼食には早すぎる。次のピクから桑崎山との鞍部を越えている林道に向かう。鞍部は大きく広がる台地状の所で湿原もある。ここで昼食。酒も欠かせない三匹のネズミだ。山吹峠までは7+の林道、紅葉を楽しみながらブラブラとくだる。峠の先からは深田久弥の「この山ほど、その名に忠実なものはない。どこから望んでも笠の形を崩さない」という笠ヶ岳が真っ白に輝いていた。

(平成20年11月2日歩く)

新ハイ関西105号

標高△△05mの山

- 阿弥陀岳 (2805m) 八ヶ岳
- 御池山 (1905m) 南アルプス
- 燕頭山 (2105m) 南アルプス
- 飯豊山 (2105m) 飯豊連峰

をしながら敵が来ないか絶えずきよろきよろするように、雲が湧いてこないかと忙しなく空の様子を窺った。

下山は一割慎重にゆっくり歩いた。中岳ノコルに着いた時は深い深い安堵感を味わった。

(昭和58年12月25日歩く)

△コースタイム▽

行者小屋(2時間) 阿弥陀岳(1時間30分)

△地図▽昭文社「八ヶ岳」

阿弥陀岳

初めて登ったのは、1983年の年末だから、もう25年以上前だが、単独でピッケルとアイゼンを頼りに登った初めての高い山だ。その後も単独で登った冬の高山といえは、甲斐駒ヶ岳や栗沢ノ頭くらいだから、四半世紀を経て鮮烈な印象が残っている。

宿泊した行者小屋の人が、「今日は無風の快晴だから、一歩一歩確実に登れば、岩場のない阿弥陀岳なら登れますよ」と後押ししてくれたので決心が

ついた。

中岳ノコルからの急斜面は目を溶びて雪の状態がちょうどよく、滑る心配がなかった。かなりの高度感に対してびびらないように、大丈夫、大丈夫と言いつつながら、アイゼンを突っかけないように一歩一歩歩いていって登った。

その日は誰にも会わなかった。山頂では爆発的な充足感を味わった。山頂から横岳への厳冬の表情がすばらしくった。下山を前に緊張しながら絵を描いた。絵を描き始めると我を忘れる状態になって恐いものだ。動物が食事

御池山

日本山岳会のスケッチ山行で下伊那郡上村(現在は飯田市)、いわゆる遠山郷の下栗集落から聖岳、兜岳の絵を描いた翌日に登った。遠山郷と名付けられた非常に響きのいい名前があるのに、「日本のチロル」という看板があった。大学生だった1972年1月3日、聖岳の絵を描くのと霜月祭に接するのとを兼ねて下栗の民宿「井戸端屋」に泊まった時は「日本のチベット」と書い

てあったはずだが、いずれにせよ外国の地名に擬えなくてもいいのと思っただ。

さて御池山は、しらびそ峠から南進した地点からササを刈り取った登山道をひと登りで山頂に着いた。遠山川の奥に連なる聖岳を中心とした南アルプス南部の山々は、下栗集落から見上げるよりはずっと横にワイドでダイナミックな展望だった。ただ午前中だったためか、真東の眺めになるので陰影に乏しく雪山の白い輝きが見られない山岳風景だった。

天気の良い澄んだ日の夕方ならば、さぞかし美しいことだっただろう。

(平成6年12月1日歩く)

△コースタイム▽

しらびそ林道取付点(1時間30分) 御池山往復

△地形図▽2万5千 光岳

燕頭山

御座石鉱泉から鳳凰山へ登る途中に

ある三角点で、山名があるから山といっている程度の所だ。しかし今回は積雪期での単独行だったから、十分達成感のある頂だった。

ダケカンバを主とする美しい枝ぶりの冬枯れた疎林のなかにテントを張ろうとしている私を、そつと木の陰からカモシカが観察していたのが印象的だった。

栗師岳から観音岳の優しい山容の雪の山が高く望まれた。特に明け方のダケカンバが朝日に映える姿が美しくかった。太い幹は白く、繊細な枝先はオレンジ色に光り輝いていた。

大きなコマツガにサルオガセが垂れ下がる暗い林のなかを北方へ少しラッセルして下りて行くと、三角錐形の甲斐駒ヶ岳が気高く望めた。木々が邪魔して写真には撮れなかったが、絵は描けた。一晩で雪面に動物の足跡が幾筋も出来る楽しい山頂だった。

(平成14年12月26日28日歩く)

△コースタイム▽

御座石鉱泉少し手前で雪のためタクシ

1を下車(7時間50分) 燕頭山(単独のラッセル)

△地図▽昭文社「甲斐駒・北岳」

飯豊山

飯豊連峰の最高峰は大日岳だが、飯豊神社のある飯豊山が連峰の中心といった感じだ。飯豊山の西にある御西岳への稜線では、真夏なのに雪が大量に残っていたり、その北の北俣岳方面からの道では池塔やお花畑が点在している、たいへん美しくて広大な展望の稜線歩きだった。

飯豊山は名前から連想する通り、豊かな山の自然に満ちあふれた山城だった。

(昭和60年7月31日・8月1日歩く)

△コースタイム▽

御西小屋(4時間30分) 飯豊山を経て切合小屋

△地図▽昭文社「飯豊山」

随想

山のエッセイ

「談山神社」の呼び方

柴田 昭彦

平成20年秋、紅葉真っ盛りの談山神社に出かけた。当日は勤労感謝の日、三連休の中で混雑は覚悟のうえであった。

桜井駅南口から談山神社行きの臨時バスに乗る。渋滞のため多武峰バス停まで1時間10分を要した。ここから終点までさらに1時間かかることだったので、多武峰で降りて神社まで歩いた。参道や境内では色彩がすばらしく鮮やかで、陽

光に映える紅葉・黄葉を十分に堪能することができ、大満足であった。

十三重塔(重要文化財)がすばらしい均整美を見せている。補修中の権殿の左手(西側)から登山道に入り、鞍部に出て左に登り、林道に出たら右に進む。正面の石段を上れば藤原鎌足公葬所(古墳)で、遺骨の一部が阿威山から移葬されている。ここが御破産山で、天下国家および藤原氏の上に不吉なことや異変があると、これを事前に察知して多武峰の山が鳴動し、鎌足公神像(木像)が破裂

のあとを示すと伝えられている。昌泰元年(898)以来、室町時代まで約四〇回の破裂があったという。墓所の背後に、大和平野が一望できる万葉展望台があり、北西方向に耳成山が見える。帰り道は、御破産山林道をおくんだり、車道に出て左折し、談山神社に戻った。

「角川日本地名大辞典」には「だんざんじんじや」で立項されている。しかし、談山神社のホームページを見て、「だんざんじんじや」であることを知った。しかし、「日本案内記 近畿篇下」(鉄道省、昭和8年)と「神社辞典」(東京堂出版)も「だんざんじんじや」である。「広辞苑」では「だんざん」で立項されている

が、「タンザンとも」の注記があった。「談山神社―大化改新一三五〇年―」(新人物往來社)を見ると、「だんざん」のルビであった。

バスの車内放送では「だんざんじんじや」と聞こえたが、談山神社バスの表示やパンフレットでは「だんざん」と明記されている。綱千善教「大和の古代寺院跡をめぐる」(学生社)には、次のような記述があった。

「(関内の人)は「タンザン」と読み、関東人は「タンザン」と発音する。」
談山神社に問い合わせると、社務所の佐古良男氏から次のような返答があった。
「(質問にお答えします。

ご存じのように、「談山神社」という神社名がつけられたのは明治のはじめの神仏分離令以降のことです。それまでは「妙楽寺」または「多武峰寺」と呼ばれていました。命名は当時の明治政府によってです。

想像するに「だんざんじんじや」では濁音が二カ所あるので「だん」を清音の「たん」にしたのではないかと思います。要するに発音したときの語感の問題ではないでしょうか。

関東人が「たん」と読み、関西人が「だん」と読むというの根拠がわかりません。確かに地元では大半の方が「だんざんじんじや」と発音されます。

ついでに申し上げれば、同じ桜井市内の大神神社

(おおみわじんじや)も地元では「おおがみじんじや」と呼ぶ人が多いです。大神神社の神職もさほど気にしていないようです。

そういえば、浅井(あざい・あさい)、米原(まいはら・まいばら)など、地元名と公称名で、清濁が異なる地名はよくある。

公称は「たんざん」だが、「だんざん」の読みも広く用いられていると受け止めればよいわけである。

談山神社バス停からの帰りのバスは満車であったが、行きよりも渋滞はまじで、40分ほどで桜井駅に着いた。

山と自然科学

鷺見 守康

昨年10月、新聞紙上で岐阜市の金華山に一万回登山を達成した73歳の男性が紹介されたが、金華山には「毎日登山」を目標に登っている人もいるそうである。岐阜市から東の可児市にある鳩吹山には千回登山の記念碑が立っており、都市近郊の人気の山にはこうした記録話がつきものようである。

それぞれの記録の陰には人知れぬ苦勞が察せられ、その努力に対し敬意を表するにやぶさかではない。が、そんな話を聞くたびに、せっかく回数を重ねるのなら、その山の春夏秋冬の記録を

続けていたら、と思わずにはいられないのだ。

例えば、ローカルな山の花の年間を通した記録など、まずお目にかかることはない。そんな記録が複数の山で作成されれば、それは貴重なデータとなり得るのではないか。

ある地域の一つ一つの山の動植物が丹念に記録されれば、それは地域の自然を明らかにしていく重要な資料になるのだと思う。

一つの山にこだわる歩き方だからこそ、回数だけに終わるのは惜しいと思うのである。

ところで、近年若者の山離れが進み、大学の山岳部では部員が集まらないため廃部に追い込まれたり、各

地の山岳会などでは後継者が育たず、先行きが心配されている。

この点ではわが新ハイキングクラブも同様なのだろうが、若者離れが憂慮されるのは、登山の世界だけではなく、野外科学の分野でも深刻な問題になりつつあるという。

日本の野外科学者の中には、山歩きを通して自然に親しみ、野外科学に進んだ研究者が少なくない。

岩波書店「山の世界」は、雑誌「科学」の2002年12月号に掲載された特集記事を基に単行本にしたものである。この中の梅棹忠夫氏（国立民族学博物館顧問）と山本紀夫氏（国立民族学博物館教授）の「山に学んだこと」という対談では、

「山登りという行為が多く、研究者を育ててきたし、山自体も重要な研究対象になってきた」。「みんな、科学という実践科学を思い浮かべるけれど、日本の自然科学の半分はフィールドサイエンス」であり、「動物学・植物学・地学・地球物理学と、非常に広い範囲にわたっている」ため、「相当フィールドワークが必要」であるが、「このままではフィールドワークをきちんとこなせる人が育たない」と危惧している。

そもそも、登山と博物学は起源が同じで、博物学的なものに興味をもつ人たちが盛んに山に登っていて、その延長で山登りが発展していったという感じなのだ。博物学研究から始まった

山岳研究が、植物学・動物学・地質学・地理学など、それぞれの分野で発展していったようだ。

さらに言えば、日本山岳会もスタートは博物同好会からであるという。

東京の博物同好会的な人たちの集まりから、日本山岳会が出来た。創立メンバーには、武田久吉や河野翁造ら植物学者の顔ぶれもあったという。

わが国の近代登山は、山に登ることそのものを目的とするヨーロッパのアルピニズムとは趣を異にし、山に学び、山に生きる登山の伝統が、今日まで脈々と受け継がれてきたといえるのだらう。

梅棹忠夫氏は少年時代から自然に親しみ、登山を通

して生態学から民族学へ、さらに比較文明学の道に進んだという経歴の持ち主であり、氏の研究仲間にも登山から野外科学の道に進んだ研究者が少なくないという。まさに、山に登っている間に、いろいろな学問の目が開かれていったのだ。

「学問」という大袈裟な言い方でなくとも、山に登ることでも山を歩くことで、新たな生きがいや目標をもつことはできると思うのである。

私の新たな目標の一つは、身近な山々をフィールドとした森林観察であり、そんな山の歩き方を地元の中高年の仲間たちと共に、じっくりと極めていきたい。

紀行

奥ノ平ひとりぼっち

御池岳

長谷川 雅 俊

鈴 鹿

今度の週末は「御池岳に行くぞー」と、気を引き締めていたところ、御池柚人氏から突然の電話が入る。

「入院するので、その前にみんなに会っておきたい……。万難を排して御池庵に来るように」とのこと。

ミルキーあんぱん同人として、柚人氏の御言葉とあっては、何かなんでもはせ参じねばならぬ……が、あいにくと、土曜日の名古屋は今冬一番の大雪。積雪15cmで関ヶ原より多かつたらしい。

何とか仕事を片付けて、18時前には出発する。

しかし、わずかな積雪にも関わらず大渋滞で、名古屋市内を抜けるのにひと苦労。

奥ノ平「青のドリーネ」



こんなことでは御池庵にたどり着けるのかしらん？と思ったのだが、意外と郡部は雪が少なく21時頃到着。それでも、柚人氏以外は近在の人たちばかりで、名古屋組は小生が最初であった。鈴鹿の四方山話が弾むなかで、明日は皆さん、御池岳ではなく、朝明の方へ行かれるらしい。しかし、小生

は御池と決めていたので、1人で出かけることにする。内心は、誰か1人位付いてこないかな?と期待したのだが、夜中から登ろうという奇特な方は現れなかった……がっかり。

もう少しじっくりと仲間と話をしたかったのだが、体に疲労を感じていたので、少し眠るために、23時にお暇する。

駐車場から、車を出そうとするところへちようどマヨネコさんが到着。マヨさんも暗闇の中を歩く気はなさそうなので、二言三言話してから別れを告げ、走り出す。

程なく国道306号線のゲートに到着。23時30分を回っていたが、1時に起きるとして、1時間位は眠れるかな?……少しは眠らないと、明日の行動に差し支えるから。

午前1時起床。さてこれからどうしたものかと、ゲートの中を覗き込むと雪はあまり無さそうなので、そのまま車で行くことにする。

のかつて?……実は、わたくしはこのゲートを開けるために、苦節うん十年の修行の賜物で、ついに魔法を会得したのであります。

で、タイヤにチェーンを取り着けてから「開けろゴマー」と、ひと言でゲートを抜けて走り出す。このゲートの冬季封鎖に関しては、小生も疑問に思うことがあるので、お叱り覚悟で、ひと言ここで述べたいと思う。

ゲートが封鎖されているとはいっても、当然ある一部の人たちは自由に入り込んでいます。道路を整備される方々、林業に関わる方々等、これは当然です。そうではなく、個人的に(鹿や猪狩り)をされる方々が自由に出入りしていることです。山の中で出会った何人かの猟師さんにお尋ねしたところ、普段、仕事で合鍵を使って出入りしているので、休みの日はその鍵を使って入っているとのこと……、これってチョットおかしいと思うんですけどね……。

例えて言えば(例えが無いかなあ、お

まわりさんが休日、家族とドライブに行くのに、パトカーを使うのと同じではないかと……。何となく釈然としないので、その旨を役所にメールしたのだが、返事はいただけませんでした。自由に入入りして、鹿や猪をたくさん獲れる猟師さんと、ゲートに入れずに、たくさん獲れない猟師さんがいる(当然登山者も入れない)。どこかで得をしている人がいるのかな?

この話はこれくらいにして、国道を鞍掛峠に向かって走り出す。ここで車を停めるのが問題である。下山したら車が雪が埋まっついていて帰れない何てことになったら大事である。例年の様子からすれば、犬返シ橋から急に積雪が増えるので、その手前に決定し、大畑シ谷左岸尾根を登ることにする。

車を河内谷側で頭を下向きにして停める。

3時12分出発。雪明かりでけっこう明るいのだが、またイノシシに襲われるといけないのでヘッドライトを点けて歩き出す。3時21分、犬返シ橋の上、

高度計を440mにセットする。しばらくすると、左手斜面に堰堤のある小さな谷が二つ現れる。右側が小生が勝手に錦秋の谷(黄葉のすばらしさは格別!)と呼んでいる谷である。

ここで、十二本爪アイゼンを取り着けて谷に入る。3時39分、高度473mであった。さすがに谷芯は雪が深いので、すぐに左岸尾根に取り付く。最初はかなりの急斜面なのでアイゼンの前爪を確実に雪面に打ち込みながら登るが、ピッケルはブレードを使うほど

ではないので、ピッケルをしつかりと差し込みながら体を持ち上げる。すぐに灌木が現れるので、やぶの隙間を探しながら急登する。

3時49分、尾根芯にのる。パウダースノーのかんりの積雪で、深い所では膝下まで滑るのだが、とりあえずは高みに向かって登って行くだけなので気が楽である。ただ、やぶがすこいので、避けて進むのがけっこう大変である。

ここで何と、大チョンボに気づく。……ガーン……。地形図を車に忘れてきたのである。地形図とコンパス・高度計は小生にとつては必要不可欠なアイテムである。今までも、何回か忘れたことはあったのだが、その都度、最初のルートは諦めて登山道を歩くようにしてきた。しかし、今回は新雪、暗闇の中である。撤退か? いろいろとない頭で考えを巡らしたのだが、結果、そのまま続行するこ

とにした。

コンパスを忘れてきたのなら、今までは迷わず引き返したのだが、御池岳の地形図は小生の頭の中にしっかりと刻み込まれている(たぶん……)。

4時26分、高度627mにおいて見覚えのある岩峰群(カレンフェルト)が現れる。今日は前回とは逆に、左側へ迂回して捲くことにした。そのままひたすら尾根芯を220度から270度の高みに向かって歩み続けていたが、4時42分、高度682mで今朝一番の夜明けの風が吹き始めた。これではとてもではないが、奥ノ平での夜明けは不可能である。まあ、いたしかたない。

4時46分、高度705mにて目の前を植林帯に塞がれた台地になる。ここで直角に右折して、さらに高みに向かって登って行く。左植林帯、右手二次林の間を行けばよいだけなので、地形図が無くとも問題は無い。

4時55分、高度754mにおいて再び台地になる。コグルミ谷右岸尾根を登って来ると、ここで出合う所である。





ひとりぼっちの足跡

着。ここまで来られたことにホッとして気が楽になった。今までならこれで十分満足して引き返すところなのだが、今回はそういうわけにはいかない。御池植人氏との約束で、青のドリーネの写真を撮ってこなくてはならないからである。昨年は暖冬で、植人氏に頼まれて青のドリーネの写真を撮りに来た

左折して、206度の方角へ向かうが、植林帯はここで終わり、二次林の尾根を直登することになる。なるべく雪の少ない所を歩くのだが、ズボツとはまり込むと大変である。いくら尾根だとはいつても延々と続くラッセルに多少疲れてきて、もう帰ろうかな？と、弱気虫が騒ぎ始める。
5時29分、高度814mでヤセ尾根となり、たぶん、コグルミ谷側下方がイタドリバであろうと思われるあたりを通過する。以前にも書いたのだが、このあたりまでは、左手犬返シ谷側はなだらかで、右手コグルミ谷側は急斜面でガレている所が多いので注意が必要である。ただし本流の犬返シ谷は危険なので絶対に入り込まないように。暗がりの中、犬返シ谷側に見える寒山の左手がほんのりと明るくなってきた。すると、見る間に光が差し込んできて、犬返シ谷右岸斜面に見事な段々畑が浮かび上がった。もちろんこんな所でお百姓さんが畑を耕しているはずはなく、階段状に整地された急斜

のだが、あまりの雪の少なさに全く写真にならず、愕然として帰途に着いたのであった。したがって、一年振りの今日、何が何でもというわけで、奥ノ平にたとえ屍をさらそうとも(そんなわけにはいかないが)撮ってやるぞーと意気込んで来ているのである。
四国八十八ヶ所巡りのお遍路さんの聖人様との2人旅ではないけれども、今回は、御池植人氏との2人旅でもあるのである。
と、わけのわからないことをおつむの中で思い巡らしているうちに、奥ノ谷の丸山取付点に到着。そのまま休まずに斜面を登り始める。
しかし、新雪は深い所では腰上までに達し、少なくとも股間あたりまではまり込むようになってきた。うーん……どうも表現が文学的ではないよなあ……。
新ハイの読者には女性が半分はおられると見受けられるので、もう少しお上品に、(膝上位)のほうがいいかもしれないですわね……とまたまたトロイコ

面に植林された若木が林立しているのである。あたり一面、手入れされているのかどうか定かではないのだが、(たぶんあまり手入れはされていないからだが)トゲのあるキイチゴが群生している、6月頃にはとても採り切れないほどの収穫が期待できる。このキイチゴでつくるジャムを食するのは至福のときである……と、夢の中に没っていると、突然サイレンが鳴り出して我に返った。朝6時のサイレンなのだが、高度912mであった。空もかなり白んできたのでヘッドライトを消す。
高度930mを過ぎてから、そろそろ天ガ平へ向かわねばと、右手斜面をトラバースしようとしたが、少し早すぎたようなので斜めに登り返す。6時15分、高度計は951mで天ガ平に到着。945mに高度計を修正する。周辺を歩いて足跡がないかどうか確認するが、全くのパウダースノーで全ての痕跡はキレイに消し去られていた。
ここで初めてザックを降ろし、パンを一つ食べる。6時27分出発。コグル

とを考えながら、ラッセルを続けるアホなわたくしでありました。
いくら志が高く(?)登り続けてきたとはいえ、ついにダウン!……、あまりの辛さに涙が溢れてきました。8時24分、1089mであった。だが、高度計の表示が正しければ、テーブルランドまでは後わずかの、140m程度である、ここで敗退するわけには絶対いかない。涙を拭き拭きしながら、歩を進めることにする。無雪期ならわずか30分でもたどり着けるのである。いくら時間がかかろうと新雪の中、3時間も4時間もかかるわけがないはずである。
数え切れないほどの休歩を繰り返して、10時ちょうどに奥ノ平と丸山の中間の鞍部に到着、しばらく呆然とたたずむ。快晴とまではいかなかったが、雲間から青空が差し込み、このほうが写真も絵になるのではと思われた。奥ノ平全体を見回すと、人の入った形跡はなさそう、今日が一番乗りひしひしと喜びが込み上げてくる。天狗堂や御

ミ谷源頭部を過ぎて、6時57分、七合目プレートに到着。ここまで来ると、さすがに膝上まで滑るようになり、アイゼンを装着したままカンジキを履くことにする。最近、この鈴鹿においてもカンジキではなく、スノーシューを履く登山者が増えてきたが、実に嘆かわしい……。鈴鹿の山はカンジキだ！とオマヌケな独り言をブツブツ言いながら、7時12分、出発。
ツメタミスに寄りかかったので、なるべく登山道沿いにトラバースするのことにしたが、どうしても上へ上へと無意識に行ってしまうので意思を明確にして進む。ついにツメタミスの左岸までたどり着いたのだが、無雪期と違って、意外と谷底までの落差が感ぜぬのかと思うと、途端に意気消沈……。軟弱なわたくしは前首を翻し、そのまま県境稜線へ直登するのではありません……。オソマツ！
そのおかげで、7時45分、高度1071mにて、県境稜線上の幻ノ池に到



奥ノ平ピーク付近のエビのしっぽ

在所、棉向山も少し霞んではいるが、遠望することができ、振り向けば、霊仙山・伊吹山も間近に迫っている。

ここからは、ノンビリと奥ノ平ピークに向かって歩き出すが、久し振りのエビのしっぽに感動する。昨年は出会っていないので二年振りである。以前の御池岳はササが2メートル以上も生い茂っ

ていても、積雪期には雪の下に隠れていたのだが（もちろん雪の重みでササは倒れているのだが）、現在はせいぜい腰のあたりまでしかないのに、そこら中で二ヨキ二ヨキとササが顔を出している。積雪はそんなにはないと思われる。とは言っても、カンジキを履いていても、新雪のためにくるぶしを超える所まで滑るのでけっこう辛い。奥ノ平ピーク（1241m）に10時23分到着し、そのまま南峰へと向かう。エビのしっぽの写真を撮りながら進むので、なかなかたどり着けず、10時44分南峰に着。もうフラフラなので、風を避けてエネルギーを補給するために南西に少しくだり、樹林帯を抜ける所で大休止。周りはガスっていて見渡すことができない。ちゃんとしたランチをとるとは言っても、単なるカップラーメンではあるが……

華麗なる宴？を堪能した後、11時28分出発し、ガスが切れたり覆われたりするなかに適度に彷徨い歩く。これがたぶん東池であろうと思われる深いド

リーネを左手に廻り込み、こつちかな「あつちかな」と、わけもわからず突き進む。途中、ガスの中に浮かび上がる樹林帯に胸をときめかせ、写真を撮る。まるで東山魁夷の世界のように幻想的である。

再び歩み始め、ようやくここかと思ったのだが、ドリリーネが二つも並んでいる……うーん、残念！と歩を進める。次の植林帯を越えた所に、探し求めていた「青のドリリーネ」を発見。11時57分であった。これで御池植人氏との約束が果たせるとの安堵感がひしひしと込み上げてくる。それと足踏二つ無いパウダースノーに覆われた青のドリリーネとの再会に、得もいわれぬ喜びが込み上げてくる。ただ、惜しむらくは、西に比べて、東側の空が雲に覆われていることである。

植人氏の青のドリリーネの写真は、北西から撮られている。これは植人氏がここにたどり着く時間帯が昼過ぎであり（一般的に産でもそうであり、朝早くたどり着く登山者は少ないと思う）、青

のドリリーネが青く見えるのも、午後14時から15時頃だそうである。

小生の場合には朝早いこともあり、光の関係で、北向きに撮ることが多かった。今回は植人氏と同じアングルで撮りたいので、北西から南東に向けて撮るのだが、お昼とはいってもまだ逆光である。先程、惜しむらくは……と、思ったのだが、これが幸いして、写真撮るのには都合が良かった。だが、陰影が無く、モヤッとした感じで、これで写真になるのだろうか？と、不安になる。青空が出るまで待つことにしたのだが、西から北にかけては良い天気なのに、南から東にかけては曇っており、おまけにガスもかかっている。諦めて、南から撮り東から撮りしているのだが、少し青空が出るかもと感じられたので、あわてて戻って、ファイナダーを覗いてビツクリ、そこには、青のドリリーネの周りに、小生の足跡が入り乱れているのである。ガンシーアホッ、そうなんですアホなんです。いつもの名調子で「わたしバカよねえ

、おバカさんよねえ」と、口ずさみながら帰ることにする。

途中、幸助の池にも寄ろうかとも考えたのだが、疲労も蓄積してきて果たして下山できるかどうか不安になってきた。実際、足を一歩踏み出すのも億劫になってきて、このままここで眠ろうかな……何ていう思いが頭をよぎってくる。もう一人の自分がそれを否定して歩いて行こうと、次の一歩を踏み出し続ける。延々とその繰り返しで涙が溢れてくる。朝早く（夜中から）から何でこんなトロクサイことを自分にしてやるのだろうか？ ミルキーアばんばんの仲間もそう思っているに違いない。実際、今回も誰も小生についてくる者はいなかった。

まあ、これが小生の山歩きなのである。誰にも真似できない、独自性のある山歩きである自分では思っている。百名山ツアーなんてクソクラエ……あれは深田久弥氏自身の山歩きなのだ、何も真似る必要はない。

小生の目標は、とりあえず、御池岳

の全ての尾根と谷を歩くことである。その後は全ての鈴鹿の尾根と谷を歩くことで、それが可能となるのに三百年はかかるかな？ アホラシ……、西尾寿一氏もとんでもない本を出してくれたものだ。

14時55分、天ガ平。フラフラになりながら大返し橋下の駐車地に16時26分到着。ああよかった。今日の写真とリポートを持って、御池植人氏に会いに行かねば……。

（平成20年2月10日歩く）

☆参考タイム☆

- 大返し橋の下 3・12 | 鈴鹿の谷出合
- 3・39 | コグルミ谷右岸尾根からの合
- 流点 4・55 | 天ガ平 6・27 | 真ノ谷、
- 丸山取付点 7・52 | 奥ノ平、丸山鞍部
- 10・00 | 奥ノ平ピーク 10・23 | 青のド
- リーネ 11・57 | 奥ノ平、丸山鞍部 13・
- 47 | 天ガ平 14・55 | 大返し橋の下 16・

26

△地形図▽

2万5千1:1 確立

静かな三角点峰

さんじょうさん

三條山と畑井の頭

はたいいかしら

台高

藪木伸人

三條山（三丈山）は、梅田川・宮川間にのびる山並の中にあり、麓の里から頂がわかりにくい。

伝承によれば、その昔、あたりは三丈を超す葎に覆われ、谷に棲む大蛇が人畜を害していたので、栗谷の野呂正美之助が、山上の黒岩からこれを射止めて首を刎ねたという。山頂から東に、伝承の地、三丈菅野の名を残す所がある。

東の鞍部は尾放峠（尾断峠）、西の鞍部は田引峠（栗谷峠）という。古来、伊勢国司北畠氏の居館、美杉の多気館と三瀬館とを結ぶ道筋の難所になっていた。

三條山山頂



1576年11月、織田の謀略によって三瀬館で殺された八代国司具教の首級を多気に葬るため、家臣芝山秀時、大宮多気丸らが尾放峠を目指した。馬の尾にすがって険路を登り切り、たどり着いた鞍部でようやく尾を放したことから尾放峠の名が付けられたという。秀時は峠を越えて野々口へくだる途



三條山西尾根の樹林

中、多気館から三瀬館に向かっていた父出羽守秀定と出会った。主君の死を知った秀定は兩人を具教の弟具房のもとへ急がせ、自身は主君具教の首を埋葬し、追手を退けた後、馬もろとも谷（出羽の滝）に身を投じたと伝えられている。1920年には、子孫の北畠治房氏によって高さ2・5mの五輪塔が建てられた。

私は二十数年前、この首塚を訪れ、北側から尾放峠を目指したことがあったが、道は途絶えていてたどり着けなかった。

一方、田引からの峠道も今は廃れているようだったので、今回私たちは宮川側から田引峠を経て三角点に至る最良ルートを往復することにした。

松阪を9時15分に出発。栗谷、谷口を経て林道西谷線終点には10時30分頃着いた。Ca(約)2500(谷口は、田引峠と尾放峠との分岐点である)。

10時35分、変成岩が点在する谷の左岸に指導標を認め、植林内を登り始める。30分位登った後、道が山腹を右へ

横切るあたりで峠が近いと予感した。稜線まで手入れの行き届いた植林地だった。

11時15分、田引峠に到着。Ca5100。「飯高町へ通行不可」の標識。展望もきかない。杉の木の間方に大きな石が転がっているのかと思ったら、峠の地蔵さんだった。傍の木に「三丈山登口四百米……」と書かれている。

稜線の登り始めは急だったが、間もなくゆるやかになる。アセビだけがこもり青々と茂っていた。美しい木肌のヒメシヤラとこつこつとしたアベマキの樹皮に見惚れながら進むと、落葉樹林越しに田引の集落や栗の木岳・修験堂山・三峰山が望まれた。鹿の落とし物が多くなるが、姿は見られない。

11時40分、山頂西の一角に到着。小広い平坦地になっており、南側に眺望が開けていた。眼下に栗谷の集落、宮川対岸に総門山、竜燈山、大台ヶ原まで見える。重なる山並右手遠くの平頂なスカイラインは山上ヶ岳だろうか。南斜面に突き出した露岩がランチョタイ



ムに恰好のベンチとなった。

山頂の三角点名は、「三条界」、三等、標高は663・75m。私たちが歩いたコースは、「点の記」に「約1時間、約1・8」と記載されていた。

12時17分、下山にかかる。落ち葉を踏んでの稜線歩きは楽しく、往きと同じだけ時間をかけて12時42分、田引峠に戻る。あとは植林内をただただくだるのみで、13時12分に下山を完了した。

(平成16年1月4日歩く)

☆コースタイム☆

林道終点(40分) 田引峠(25分) 三角点(25分) 田引峠(30分) 林道終点

△地形図▽
2万5千1江馬

畑井の頭は、局ヶ岳から東に連なる山並が徳田川に向かって落ちていく途中にある。この山塊のどこかを中央構造線が走っているのは間違いないと思われる。山頂に三角点はあるが、地形図に山名表示は無く、実際に登ってプレートを見るまでは、点名しかわからなかった。国土地理院の電子地図によれば、点名は「粥見」、三等であるが、古くは「桶山」、四等となっていた。標高630・50m。「畑井」はこの山の東麓にある集落名だが、古い「点の記」では北麓の

畑山からのルートが示されていた。地形図にも破線があるので、それをたどってみた。8時25分、松阪の自宅を出発。9時に畑山に到着。



畑井の頭付近図

を視界に捕えた。

10時25分、送電鉄塔下に着き、地形図で現在地を特定した。Ca510m。南西に山頂らしき高みが認められる。南北に山並が覗いている。北は高須の峠から白猪山の間にある御所野山あたりか。山頂目指して道無き急坂を登るが脚が疲れてきた。Ca575m、マコナが群生開花している斜面で小休止する。カシワバハグマはまだ蕾。あとひと息とペースを上げ、10時45分、たどり着いたピークに三角点無し。Ca605m。山頂ではない。植林下にわずかに粥見の集落が望める。

南西に尾根を3分、ゆるくくだって登り返すと、今度こそ山頂だった。きれいな三角点を眺めながら、ひとりお茶を飲む。

10時57分に下山開始。下りのルートはやはり難しい。Ca605ピークを越えた後、往きには見なかったヒオウギ数株を見て、東に振って見たことに気づく。もう少しくだってみてから北へ平行移動して行くと、往きに通じた

「熊出没注意」の立看板が気にかかる。シロバナマンジュシャゲがきれいだった。東又林道の起点に駐車し、歩き出す。Ca170m。三角点までの比高は460m位だ。

前日の雨で谷は水溜りかである。10分程で砂防ダムが見え、S字カーブの途中からつくりかけらしい道が左にのびている。林道終点では、アケボノソウがたくさん蕾を付け、左岸の岩にはイワタバコが茂り、ホトトギスも映っている。

9時22分、谷に沿って歩きやすい所を選んで登って行く。15分登ると谷が二俣になったので、その間の尾根上を歩くことにした。Ca310m。Ca410m付近では、かなりの急登となり、もう道とはいえない状態になる。

10時5分、尾根直登で目指す頂に至るとの確信はあったが、急傾斜とやぶのため断念。右は谷への急斜面。左に廻り込んで稜線に出ようと試みた。こちらも沢源頭のカレがあつて歩きづらかったが、何とか15分かかって稜線

鉄塔の上に出た。

11時28分、Ca385m。今度は、北にくだって行くべき所を西に振りすぎた。尾根をを外し、谷に寄りすぎた。足下にオモトの緑果がある。東に修正しつつくだると、Ca345mで往きに見たシログモの幼木を確認。やがて二俣の合流点を経て、沢筋を歩く道となる。11時52分、林道終点に下り立ち、12時4分、駐車地点に帰還。

なかなかワイルドなルートだった(やぶ山の好きでない妻と来なくてよかった)。国道368号線沿いの下仁徳上組あたりから、このルート上に建つ鉄塔と畑井の頭山頂付近が見えていた。

(平成20年9月22日歩く)

☆コースタイム☆

林道起点(20分) 終点(1時間) 鉄塔(15分) 三角点(55分) 林道終点(12分) 起点

△地形図▽
2万5千1江馬



下仁徳より畑井の頭
(中央奥)



畑井の頭三角点「粥見」

セバ谷南方尾根からホツケ山南東尾根

ごんげん やま

権現山直登、ホツケ山直降

比良

小山 誠次

アラキ峠道からサカ谷道の間の尾根で、本誌82号でサカサマ谷南方尾根を、100号でサカ谷南方尾根を、104号でアゼチ谷南方尾根ルートを報告した。そこで、今回はセバ谷南方尾根をたどるルートに挑戦した。

平成20年5月4日の前日の天気予報では、近畿地方全域で晴れ、降水確率は午前中はとも0%、午後になると地域によって0・10%である。滋賀県

北部では北西の風が吹き、のち南東の風で曇りとのこと。最高/最低気温は彦根で26/14℃、大津で26/13℃であ

る。なお、今朝方の降水確率は滋賀県は南北共、午前・午後0%で絶好の登山日和である。

そのため、本日は京都バスの出町柳乗車場では混雑が予想されたため、いつもよりも早い目に出かけたが、到着すると案の定、既に長蛇の列である。

殺されているだけである。また、本日も春霞がわずにかかっているが、大原では19℃。途中を過ぎて山間部に差しかかると、ウワミズザクラの花序が独特のブラシのような外観を呈していて、道端の陰地にはシヤガの白い花も今が盛りである。

8時35分、平バス停着。本日はここで降車する人が多い。バス停前の地元の人による臨時店も繁昌している。準備を整えて同41分、南方に歩き始めると、4分後にセバ谷に到着した(写真1)。ここで高度計を475mに設定し、1分後にやぶのなかに突入した。するとすぐ杉の植林帯となり、かえって広々と歩きやすくなった。ただし、地面には枝打ちされた小枝が散乱し、時に足に絡む。ここで改めて再準備のため、リュックザックを下ろした。

8時56分、これからのいよいよ本格的に登高開始である。すぐ目前には急坂が迫っているが、一歩一歩稼いで行くいつものように、直登したりジグザク登高したりするが、10分後にはやや南

(写真1) セバ谷と取付口



バスは7時46分、増便を伴って発車したが、それでも立っている人が20数人程あった。

高野川べりでのセイヨウカラシナはまだ咲き誇っているが、桜はもう完全に葉桜の状態で、ヒラドツツジは今が満開である。濃紅紫、ピンク、白と、カラフルな色調が目を楽しませてくれる。おもしろいことに、北大路通りから以北では、川沿いになった二株が植

方の明るい自然林帯にルートを選んだ。しかし、やはり元の植林帯のほうが足許が安定していると判断し、再び植林帯に戻らざるを得なかった。

さらに登ると、大小の岩が露出する危険地帯を通過することになる。このあたりは本日のルート上最も急斜面で、傾度60度位の要注意箇所である(写真2)。もし下山ルートに進んでいたなら、かなり慎重に足の位置を定めるこ

(写真2) 本日最大の急斜面





(写真3) ホッケ山南東尾根の全景

マズミの白い花でも目を休めながら、11時18分に小女郎峠を通過し、同21分に小女郎ヶ池に到着した。既に一組の幼い子どもを連れた家族が昼食中である。ゴンドラとリフトを利用してやって来たようだ。

筆者は池の周辺で、西空を向いて昼食を開始した。空はまさに快晴で、北方にはわずかに高積雲が浮かび、積雲が過ぎ立ち始めている。いつものメニューを食べ終えコーヒーを飲み終え、後片付けをしようと立ち上がって後ろを振り返ると、何と人口密度の高いところか！ いささか驚いた。

12時ちょうどに午後の部開始である。3分後に小女郎峠に引き返し、1分後にすぐ南の隆起に立ち、今からたどるホッケ山南東尾根を撮った(写真3)。先程の権現山からの眺望時よりもだいぶ雲が薄れている。また、ここからは小女郎谷両股間尾根もよくわかる。しかし、何よりも本日予定の下山路は、ほぼ全ルートにわたって植林帯が連続していることが明瞭である。従って、

下山時は常に植林帯を目にしていなければいけない。

12時22分、ホッケ山に到着した。先ず、すぐ目前に見える南東尾根の起始部をカメラに収める。いよいよ下山開始だが、大きな期待感といささかの不安感が同居している心境は否めない。山頂で休憩している人の前を横切り、滑りやすい斜面に対してはクマザサをつかみながら南東尾根に足を向けた。

何と、尾根に到るとわずかながら跡が付いている。標高1020mの平坦地を過ぎると、本格的にくだつてゆく。コンパスで方位を確認するが、自宅での計算上、磁北143度を中心として109度-1172度の範囲での方向である。143度は小女郎谷道の方角と全く一致し、さらには、本誌100号で報告した小女郎谷北方尾根とも全く一致する。即ち、これら三ルート共、完全に平行している。

当初はわずかな踏跡だったので、地形図とコンパスで絶えず確認しながら進んで行ったが、いつの間にか、赤テ

とになるだろう。あるいは、迂回ルートを採ることになるかもしれない。

9時23分、標高730mでようやく緩斜面に到達した。ここでホツとして飲水休憩をとる。地形図を取り出してルートを確認するが、本日は基本的に磁北132度を基準とし、標高900mでアラキ峠からの正規ルートと出会う予定である。本日のルートは必ずしも踏跡が明瞭でない。そのぶん、おもしろい。

4分後に出発したが、1分後には花折峠から続くピーク812が木々の枝越しに確認できる。また、標高750m位からは枯れたクマザサが疎らに生えているのにも気づいた。一般的には頂上近くになるとクマザサが目立つようになるが、まだまだ頂上は遠い。現在地はアラキ峠と標高20m程しか差らず、そういうえばアラキ峠にもクマザサがよく生えているので納得した。

9時56分、本日初めての狭い範囲だが、完全なる平地地点に到達した。高度計は標高830mを指している。改

めて地形図を読むと、ピッタリ830mの等高線が少し広くなっている。さすがに本日は天候が安定している証に気圧も変動がないようだ。ただし、筆者の体調は本日必ずしもベストとはいえない。昨夜、夢の中でガラスの破片をたくさん食べたのに象徴されるように、心路(みずおち)部が少し重たい。まさに登山でスッキリさせたい思いである。

10時5分に出発したが、3分後には右手やや上方に稜線が見え、木々の隙間から空の明るさがチラホラと瞬いて通っていると判断し、あと少しと自らを動かしつつ歩を進めると、同14分、正規ルートと出合った。標高900mで、まさにピッタリである。

アラキ峠方面を眺めると、2人の登山者が喘ぎながら登って来ている。反対側から、正規ルートと筆者のたどり着いた地点を写真に撮った。後はここから9分で権現山に到着。一時期、権現山直前のルートが不明瞭だったが、

現在はよくわかるくらいに整備されている。

権現山山頂には10人以上の登山者が休憩していて、なかなか賑やかである。春霞のため、琵琶湖大橋が隠れかけている。5分後に出発したが、本日は表題のホッケ山に到着した後、即座に下山するつもりはない。前回の3月29日、水の小女郎ヶ池で雲に降られ、積雪した同所での昼食を断念した経緯があるからで、池を眺めながらの昼食も今回の計画の内である。縦走路から少し離れた日陰ではムシカリの白い花が咲いている。

10時43分、ホッケ山谷道人口を通過し、なかなか立派なアセビの花を楽しみながら、9分後にホッケ山に到着した。さすがに本日はここでも登山者数人が談笑している。明日はもう立夏だが、この時期でこれだけの気温ならば、今夏の最盛期には熱中症に注意しないといけないようだ。

道すがら、アセビが最も目立つが、ウスギヨウラクの淡いピンクの花やガ

一ツが掲げられている。二つ目の小ピークを踏んだ所で小休止する。標高850呎。ここからは磁北10度に蓬萊山が水立の間より眺められる。

12時56分に出発したが、10分後には杉の植林帯のなかの急坂開始地点にやってきました。標高750呎。地形図上での等高線の幅よりも、実際の現場での感覚は一層急である。ただし、地面は枝打ちの小枝が散乱してないので歩きやすく、急坂の割には足の運びは軽快だった。

そして、10分後には右手や下方よりホッケ谷の溪声が聞こえてくるようになった。ここで標高640呎である。ひと安心の飲水休憩をとる。思わずながら、ずっと以前に縦走路からホッケ谷道に入り、尾根伝いにくだった後、ホッケ谷に沿う道無き道をたどった記憶が甦ってきた。このときは、赤テープのマーキングがホッケ谷左岸に導いているのを意図的に無視し、わざと右岸に沿って敵やぶを潜ぎ、何回かの堰堤を越えた所で間道に出合い、内心ホ

ッとしたものだった。

さて、現在のルートは、そのまま右手すぐにホッケ谷が流れているのを確認しながら、下りやすいルートを進ぶと、10分後にホッケ谷左岸に沿う山道に合流した(写真1)。標高480呎。合流地点にはイワカガミが群生しているが、開花しているのは一茎だけであった。特に若々しい葉が印象に残った。

溪声を聞いてからのルートは、ホッケ山南東尾根を忠実に山麓の田圃までたどるのではなく、少し右側に折れるようにして早目に山道に到着した。本来の尾根はここよりさらに100呎程くだるまで、緩斜面のままずっと杉の植林帯が続いている。

さて、たどり着いた山道を南東寄りにくだつて行く。すなわち、本来の尾根に平行する形で進むことになる。その途中で、先にホッケ谷道を下った折にたどったルートと合流したのである。が、以前の詳しいことは覚えていない。このあたりはただ広く、周

以前の記憶通り、このまま北東に向かい、小女郎谷道に合流する予定であるが、以前と異なって牧棚が設置されているので二ヶ所で開扉する必要がある。

小女郎谷道には14時7分に合流した。本日はここから急ぐ必要は全くなく、JR蓬萊駅までのんびり歩いていると、湖西道路を跨ぐ臨山橋を越えた所で突然頭上で動物の鳴き声が聞こえた。見上げると、4ヶ所程頭上の杉に一匹の狼がいる。早速デジカメで撮ろうとして構え始めると、一目散に木のてっぺんまで逃げて行ってしまい、そこでこちらの様子をじっと窺っている。止むを得ず、この状態のまま写真を撮った。やはり動物園とは違う。襲ってこないだけましというべきか。

そのまま歩き続け、15時34分に蓬萊駅に到着した。自動販売機で買った冷えた清涼飲料の美味なることよ。同43分発京都市行き普通電車で帰路に着いた。

本日はアラキ峠道からサカ谷道の間

の尾根で、四本目の非正規ルートをたどったが、ルートの一部は険路であった。しかし、そのぶんマーキングも無く、踏跡も不明瞭でもしるかかった。また、下山路のホッケ山南東尾根は、以前からホッケ山で休憩しているとき、東側の平坦な尾根がいつも気になっていたので、今回踏み込んでみることにしたものである。

ところで、権現山の登路で心齋部不快感のことを書いたが、その後はいつの間にか完全に消失していた。やはり、登山の威力はすごい。

さて、最後に本日の山行時情を七言絶句に託した。

拙作

春遊遊夏比良山
碧落無風茂幅間
権現法華詩興湧
險難幽徑覽遊閑

(意)

春が過ぎて、まさに夏を邁えようとする比良の山域である。快晴の空には風は無く、草木が繁茂している間に、

(写真4) ホッケ谷左岸の山道との合



図は見渡す限り杉の植林で、非常にゆるやかな傾斜地が続いている。また、晴天にもかかわらず、現在歩いている場所は、やや薄暗い森のなかである。13時52分、植林帯を抜け出て農業用水の溜池に行き着いた。まるで25呎プールのような池で、周囲はコンクリートで護岸されている。そこを二羽のマガモが悠然と泳ぐさまは、本日の山行と打って変わり、非常に長閑な風景である。また、田植え前の水田はまるで琵琶湖が広がっているようだ。ここでちよつと休憩するとともに、タラノメ採りにしばし時間を費した。

権現山と法華山を歩き、詩興が湧いてきた。険路、難路の幽かな踏跡を辿ったが、山麓に着くと何とも閑かな風景だ。(平成20年5月4日歩く)

☆コースタイム☆

平バス停(4分)セバ谷(4分)セバ谷南方尾根(20分)斜度60度の急坂(7分)緩斜面(11分)ピーク812眺望(18分)平坦地(9分)アラキ峠道合流(9分)権現山(13分)ホッケ谷道分岐(9分)ホッケ山(18分)小女郎峠(3分)小女郎ヶ池(3分)小女郎峠(1分)直ぐ南の隆起(16分)ホッケ山(4分)ホッケ山南東尾根の最初の小ピーク(23分)二番目の小ピーク(10分)標高750呎の急斜面(10分)標高640呎(10分)ホッケ谷左岸の山道合流(17分)農業用水の溜池(10分)小女郎谷道合流(27分)JR蓬萊駅

△地形図・地図△

2万5千「花脊・比良山
昭文社」「比良山系」

山行記録 登山道の無い山

上小池から願教寺山

越美

山田明男

寺の名前から山名が付いたと想像するが、昔のお寺か今もあるお寺がよく知らない。しかし奥深い山で、人家からも林道からも遠く離れていて、一般登山道が無いことは知っている。地図で確認してみると、残雪期に1泊2日で登るといいうのもうなずける。

無積雪期に日帰りで行けないかと探ってみる。岐阜県側の谷からなら行けなくもないが、沢を歩けない私には無理だ。福井県側から行くしかない。鳩ヶ湯の奥、上小池からなら行けそうだが、ササやぶととても急な斜面が気になった。

08年6月、銚子ヶ峰に登って上から願教寺山を眺めたが、頂上部は簡単に歩けそうな雰囲気であったものの、やぶの程度はわからない。

刈込池と三ノ峰



福井県側の傾斜はともきつそう(50度程)だが、木が生えているとわかった。木が生えてさえいれば、急登でも何とかなるだろう。

8月2日に「刈込池」に行き、願教

寺山を眺めたところ近くて行けそうに思えたし、池のある台地のやぶも問題ない程度で、ここから行くことにし、時期は9月の末、28日とした。



9月27日、夕方に集合する。体調不良で2人が欠席し、8人で挑戦する。テント泊よりも宿がよいので、大野市勝原の民宿を予約し、朝食も頼んだ。朝食を早くとり、上小池の駐車場には6時前に着き、5時50分から歩き出した。

「刈込池」へは階段道からと、林道の上部から廻り込む二通りの道がある。階段は六百八十段以上もあり、下りでも大変疲れる。昔の意見も上からだだったので、階段道避けて時間はかかるがきつくない林道を行き、上から廻ることにした。「刈込池」に行ったことがあるのは、私とかみさんだけだった。

三ノ峰が映り込んだ刈込池の写真を撮り、少し休んでから、わずかな高みをたどって願教寺山を目指す。池のある台地は1.程もある大きさで、背願教寺山の山体が崩壊して出来たとする説明があった。山が崩れて斜面はよりきつくなったと思われる。歩いて行くと、セリバオウレンが多く見られた。上小池の住人がタネを撒いて栽培して

いた名残らしい。

なおも歩いて行けば偶然、山ノ神の前に出てしまったが、今は誰も参拝に来ないようだ。写真を撮って先に進むと、ヤマブドウが成っていて、まだ酸っぱかった。次はマタタビでこちらは少し甘かった。しかし、マタタビの弦でなかなか前に進めない。体に引っかかる弦はナイフで切った。台地から斜面になってもやぶはきつくなく歩きやすかった。斜面を登り始めると良い匂いがする。それはカツラの葉が落ちて地上で発酵する匂いで、ケーキ屋さんの匂いと我々は言っている。ブナやカツラの木が多く見られ、自然林というよりも天然林である。人の手はここ50年が入っていないだろう。上小池の集落は約50年前の北美濃地震で廃村になったようだ。

傾斜がだんだんきつくなってきたので、谷状の所から右手の尾根の急斜面をよじ登る。帯りにはその場所、ルイヨウショウマの黒い実が見られた。なかなか出会わない花だ。ブナの生え

京都北山から——自然・文化・人——

京都府山岳連盟 編著

A5判 一八七頁 一八九〇円

「京都一周トレイル」を全コース詳しく案内！
 福徳山から東山・北山・西山を西寺まで、歩いて訪ねる京都の魅力を詳しく掲載。コースの付近の見所にも詳細にふれる。また京都の岳人の紹介や京都府山岳連盟の歩みも掲載。

大好評忽ち3刷!

ロープレスキュー技術

（日本ロープレスキュー協会監修） 信夫 著

A5判 二二六頁 二二〇〇円

救助・防災関係者、登山家、アウトドア関係者のほか、仕事でロープを使う人たちのために、現場で使えるレスキュー技術を、図解イラスト（七〇〇点色）入りで、その手順や方法を詳しく解説。救助・防災の必携書！

★表紙の価格は5%税込みです

ナカニシヤ出版
<http://www.nakanishiya.co.jp/>

京都府左京区一乗寺木ノ本町15
 tel 075-723-0111 〒606-8161

る急な尾根を休み休み登って行く。傾斜はほとんどきつくなつて、40度から45度にもなつてきた。左手に谷がはつきり見え、上部は崖になっているのでこの谷からは上れないだろう。

昔がれていた場所に草が生えて、今はいろいろな花も咲く所に出て上に向かうが、木が少なくて時間がかかる。最上部は滑りやすいので、初めてロープを出した。ロープはここだけで、後の出番はなかった。

さらに上に進むと、岩が出てきて乗り越えたが、数個の岩だけで終わった。もう少し上に行くと、ササがきつくなつてきた。ササを抜き分けて体を入れササをつかんで上に行くが、足元のサ

サがよく滑り、なかなか上に行けない。ササが出てくれば山頂部は近いと思われるが、どのあたりかよくわからない。ピークと思える場所を二度越せば本当のピークとなり、見晴らしが良くなつて山頂が目の前に見えた。300m程離れている。地図を見て納得。想定した西の尾根を登って来たのがよくわかった。

4人が遅れ、少し待つが来ないので私は先に行つたが、かみさんが待つていてくれた。出発して5分後に来たようだ。少し上からその姿が見えた。4時間で登れると予想したが大外れで、すでに12時間になつていて、私が先頭で山頂に出たのが12時5分前、6時間

5分もかかつてしまった。 願教寺山（1690・9）の三角点は三等で、周りだけはササは無いが草が生えている。夏場には来る人は少ないから、この三角点を見た人は少ないだろう。写真を撮るが山名板が無い。近くを探せば5分程離れた斜面の木に付いていたので外し、三角点の上に置いて写真を撮った。

15分程すると後ろも到着。最後尾のTさんが「シャリバテ」でずいぶん疲れた様子だった。ゆっくり食事をするが、見晴らしは360度、白山釈迦岳・白山・別山・三ノ峰・日照岳・二ノ峰・一ノ峰・鏡子ヶ峰・大日岳・見沙門岳・高賀三山・滝波山・美濃平家

岳・平家岳・荒島岳・経ヶ岳・赤兎山・大長山はわかったが、後は不明。

12時45分に下り始める。今日は曇天で日は差さず暑くなく、見晴らしもそこぶる良い。下りは滑るから気をつけて歩く。8人が歩いたので跡跡とササ分けもわかる。ロープを使った所は、左の林をくだる。下り始めて30分位で後ろの2人が遅れ、左手の尾根をくだ

つたようなので、呼び戻した。その後全員が見える位置でゆっくりとくだつた。登りでは、斜面が急な場所には赤い布を付けたが下りで回収した。平らになり、マタタビの所は嫌だと思つて右に避けたつもりが間違ひ、台地の中央から東側に向かつてしまったように、背の高いやぶと草やぶに突っ込んだ。目の前の林間の広場が池かと思つて進むが池でなく、川の流れが広がっている。東からやぶを滑いで通つて道に出た。

今でも使われている感じの台地の東の奥に向かう道で、どこに繋がるか機会があれば探してみたい。道を左に行けば、朝方登ってきた谷筋の上部に出た。休みながらどうするかと皆に聞えば、階段をくだるより登つて来た道がよいと言つたので、朝方の道をくだつた。上から見て駐車場に車が三台程あったが、まだ三台そのまま残っている。福井の人がいたので話をすれば、我々と出会わなかったからここに行つたのか、気になつて来たそう。願教寺山

（平成20年9月28日歩く）



山名板と三角点

△コースタイム▽
 上小池駐車場（1時間）湖込池（30分）
 台地端（4時間）尾根ピーク（30分）
 願教寺山（2時間30分）台地端（1時間20分）駐車場
 △地形図▽
 2万5千リ願教寺山・二ノ峰

三角点を訪ねて ⑤7

遠敷端の高

磯部 純

若狭

遠敷端の高全景



「根来バタノタカ」とも呼ばれる、遠敷峠から西北にのびる小浜市と元遠敷郡名田庄村（現在の大阪郡おおい町）の境界尾根にある山である。

「遠敷」とは難読な字だが、古代には「小丹生」と表記して「をにふ」と読んでいた。714年の好字二字令により「遠敷」が当てられ、読み方も「おにゅう」に変化したものといわれている。この山は、遠敷国の端に位置する高みにあることから、このように呼ばれたのであろう。

「遠敷端の高」は、以前から気になっていた三角点峰の一つである。このあたりの山は先人の記録がほとんど見付からない。

この林道が台風で決壊し、しばらく通行できなかつたが、今年になって通行可能となった。物集女のご夫婦の賛同を得て、念願の「遠敷端の高」への山行が実現できた。登るルートは、遠敷峠からの境界尾根を往復するものである。

8時に坊村駐車場へ集合。まず声を掛けたのは、物集女のご夫婦、山科の大兄、守山の彼の4人で、その他に長岡京、太秦、嵯峨の彼女たちにも案内したが、車運転の人たちに同行者の選任を任せていたので、私は人員の把握をしておらず、集まってみないと誰が参加するのかわからないという、いに加減な山行だった。8時前になると参加者が集まり、8人での山行となる。二台に分乗し、生杉へと向かう。針細川沿いの細い道を走るが、3月に入って寒さがぶり返したためか、この地域での桜はまだ蕾。川沿いのゴミを期待していたのに、川岸に緑の草は全く見られない。今年は暖冬で、花や山菜は半月は早いだろうとの噂だったが、

どうやら例年通りになるらしい。

生杉の北の広場から林道へ入り、クネクネと曲がって尾根にのる。道の両側には今まで見たことがないほどに花を付けたタムシバが並んでいる。尾根の途中に祀られている焼尾地蔵に車の中から頭を下げ、ジグザクに走って行くとき、やがて遠敷峠へ着いた。

峠は広く、広場西には開通記念の「おにゅう峠」と彫られた大きな石碑が立っている。その北には、石仏を祀った社が建てられている。峠からの展望は最高で、社前に立って北を見るとすぐ近くに多田ヶ岳が横たわり、その奥には久須夜ヶ岳が霞んでいる。右手には木地山峠の北にある標高点825坪から小栗(△722・9坪)へかけての尾根がのびている。広場の南へ行くと東方から南方を見ると、蛇谷ヶ峰・鳥谷山・比良岳が遠く連なり、その手前に白倉岳の尾根が横たわっている。さらに右手には、三国岳や三国峠が繋がって見える。今月の初めには、

山の本紹介 08年11月刊

伊澤康夫著

「山を歩いて病を治す」

白山書房刊

B6判・304ページ

定価1600円(＋税)

私も「ガン」になりました。

しかし私も一人の人間、

弱気になることもある。

心の支えが欲しかった。

だから私は歩いた。

仕事に復帰するために、

また登山ができるように、

歩いて体力を維持した。

歩いた、

歩いた、

山も委だ！

(本書カバーより引用)



ブナ林を歩く

まぎるを得ない自然の営みを目の当たりにした。尾根が幾分右下へ振ると、左斜面に杉の植林帯が現れる。開引きされ枝打ちされた杉の木が間隔を置いて立ち並び、下々ぶも刈られて、気がつくとも尾根には高い木が少なくなり、右手には藪木が増えてきて細い木を避けての下り。次第に尾根が細くな

り、目の前に立ちほだかる急斜面を登り返すと、標高点7511のピークへ着いた。ピークから方向を西南西へ変え、幾分ゆるくなった尾根をくだると、ガレ場状の細尾根を越える。二つ目のガレ場を越えた所で尾元を見るとイワウチワが群生し、幾つも花を開いている。手の届きそうな枝にクムシバが咲いていて、付近には終わりかけのダンゴウバイの花も見た。女性たちはやっと思かかった木の芽を見て、木の暫定談義にやかましい。いずれ葉が出たらわかるので、林の風景を楽しめばよいと思

見えている。やぶの多い細い急な尾根をくだり、鞍部を下りると、東斜面の木にテープが巻つけられている。おそらく、中ノ畑谷からのルートが目印だろう。鞍部から北へ細尾根を登ると、右手からの尾根に合う。二重山後の尾根で、地形図にある東へのびる傾斜のゆるい尾根である。尾根の先で急斜面を登ると、「遠敷塚の高」へ着いた。11時20分、山頂は六畳程の広場でゆるく尾根が西へのびている。山頂から南には、三回峠からのびている京都・福井の県境尾根が見えているが、北には杉林が立ち並び、展望は全くきかない。広場の中央に三角点を立てている。標高748.3は、直名は「下根老」。標石は北東向きで、北から初段東へ張っている。見た目には大きな標石だったので測ってみると、北東へ南西が16°で、北西へ南東が15.7°。欠けた角もなく美しい標石で、人があまり訪れていないと思えた。城隅の彼は、三角点の山行では、三

貴砂で、遠方の風景はモヤがかかったように霞んでいたが、この日は空気が澄んで遠くまで見通せ、申し分のない山行日和だった。坊村を出る時は、下山路は山頂から尾根を東へくだり、中ノ畑へ戻り車した車で峠まで戻ろうと提案を受けたが、

時へ立つて、概ね方面を見ると、一あんなに下までくだるのか一と思うほどの光景。これでは最後の登りが大変、やはり最初の計画通りに尾根を往復することにして、9時に出発する。時から尾根を西へ登るとすぐ、滋賀・福井の県境が南へ曲がるピークに



着く、これから進む尾根方向は見通しきかず、標高点7511の盛り上がりしか見えない。ピークから西へ1000mも歩いて、尾根なりに北へゆるくくだる。あたりは太さ30cmもあるブナ疎林で、下々ぶのはほとんど無い尾根。まだ新緑のない枯木の林は何とも言えない情緒が漂っている。方向を少し西へ振り、いったんゆるくくだって登り返すと、標高点7511のピーク、心休まるようなゆつたりした山頂で、疎林の間から老木に小葉、後方には今くだったきたC(一応)もりのりのピークや遠敷時が見通せ、前方遠くに初めて「遠敷塚の高」の山容が見えてきた。西へくだると、相変わらず尾根には情緒あるブナの林が続いている。しゃべりながら歩く彼女たちのカン高い声に驚いたのか、ヒガラの囁りも一段と高く聞えてくる。尾根を一段下りると、窪地に水が溜まり、枯れ葉の間にカエルの卵が浮いている。雨が降らなければ水は無くなり子孫は死滅してしまふのに、こんな水溜まりにも卵を生

2009年度カタログ受付中 2月下旬発送開始!

見ごたえたっぷり国内・海外の山岳と自然観察の旗、計500コース以上を掲載した総合カタログ、ハイキングから海外の高峰登山ツアーまで幅広い商品を揃えています。見るだけで楽しいオールカラーで154ページのボリュームです。そして、これから登山やハイキングを始めの方、初心者の方のための、山歩き教室カタログもあります。無料でお届けしますのでお気軽にご請求ください。



総合カタログ



山歩き教室

お電話
おはがき
FAX・HP
にて!

**送料・本体無料
ご請求ください!**

アミューストラベル(株)は山岳と自然観察専門の旅行会社です。東京を本社に札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡・沖縄に営業所を持ち、皆様をサポートさせていただきます。大阪支店には高山病対策として低酸素室を設置し、日本山岳ガイド協会のガイド資格者3名が社員として常勤勤務しております。安全、安心を第一にツアーを運営していますので是非一度カタログをご請求下さい。

大好きな山の中で働いてみませんか!
山岳添乗員・山岳ガイド募集

ご興味のある方は下記までご連絡ください。

アミューストラベル株式会社 東北支店 仙台市青葉区大森1-1-1 電話 022-233-1111
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階 電話 06-6456-3366
FAX 06-6456-3377

角点横に点標名を置き証書写真を撮っているが、彼が持ってきた点標名板には「下根木」となっている。名前が違っているかと思いきや、家に帰って平成6年度の配点図を見ると、「下根木」となっている。点名が変わることはありえないので、国土地理院近畿地方測量部へ問い合わせると、「国土地理院のホームページの基準点成果等閲覧サービスに記載されていた「下根木」は間違っていました。正しい「下根木」に訂正しました」とすぐ返事がきた。城陽の彼は古いホームページを見て、点標名を「下根木」と書いたものらしい。

三角点を囲むように坐り込んで昼食を始める。運転して坊村へやってきました3人はアルコルを口にできなかったが、車を運転しない城陽の彼はご機嫌、人に勧めることの好きな守山の彼は、男性3人が飲まないものだから、女性たちにはさかんにお酒を勧めている。断り切れなかった長岡京の彼女の頼はほんのりと紅くなっている。話は茶の間のテレビの司会者、気を遣う亭主の心

境と盛り上がりつつあるが、いつまでも切りがたくなく、ちょうど12時になったとき、「出発時間は12時30分」と期限を切る。皆は食べ終わっていたが、皆の雑談をつくって時間をとられ、米粒を食べていなかった守山の彼は、「時間が無い。せめて出発は13時にしてくれ」と文句タラタラ。それでも何とか彼女たちの助けを借りて、12時30分までにザックのバックキングを終えたが、「15分もオーバーしてしまいました。すみません」と一言、どう考えても話が合わないと思ったら、守山の彼が、自分の時計の針を15分進めていたのを忘れていたのだった。

12時35分、来た尾根を戻る。山頂から下り始めてすぐ、登りで気がつかなかったキンキマメザクラが咲いているのを二本も見た。アップダウンはあるものの、来た時と反対に、降りはおおむね登りに変わる。たった数時間前に通ったのに、後ろを見て歩いていないので前方の風景が変わり、全く別の尾根を歩いているような感覚に襲われる。

△地形図V
2万5千1:古屋

△コースタイム
①コースタイム
②コースタイム
③コースタイム
④コースタイム
⑤コースタイム
⑥コースタイム
⑦コースタイム
⑧コースタイム
⑨コースタイム
⑩コースタイム
⑪コースタイム
⑫コースタイム
⑬コースタイム
⑭コースタイム
⑮コースタイム
⑯コースタイム
⑰コースタイム
⑱コースタイム
⑲コースタイム
⑳コースタイム
㉑コースタイム
㉒コースタイム
㉓コースタイム
㉔コースタイム
㉕コースタイム
㉖コースタイム
㉗コースタイム
㉘コースタイム
㉙コースタイム
㉚コースタイム
㉛コースタイム
㉜コースタイム
㉝コースタイム
㉞コースタイム
㉟コースタイム
㊱コースタイム
㊲コースタイム
㊳コースタイム
㊴コースタイム
㊵コースタイム
㊶コースタイム
㊷コースタイム
㊸コースタイム
㊹コースタイム
㊺コースタイム
㊻コースタイム
㊼コースタイム
㊽コースタイム
㊾コースタイム
㊿コースタイム

豊臣軍朝鮮出兵ゆかりの山城壁ハイキング

連載

釜山の金井山城

韓国

ヨシミスポーツ 吉見英樹

朝鮮半島南東部慶尚南道、釜山北郊外にある山である。

登頂、そして慶長文祿の役の折に豊臣軍を防ぐために設けられた山城壁沿いを歩く、空の広いハイキング気分山の歩きである。城壁歩きだけなら、スニーカーでも歩行可能だ。

登山後は釜山チャガルチ市場で刺身を満喫し、漁港旅情も楽しめる欲張り山旅のお勧めポイントだ。



金井山城

山容
なだらかな山で山頂直下のみ多少の岩場があるが、問題はほとんどない。登頂後は、ミニ版万里の長城のような城壁沿いに尾根筋をノンビリと歩くことができる。

交通アクセス

釜山駅から地下鉄で約1時間。北東の外れ久瑞洞駅で下車。そこからタクシーで約10分、有名な梵魚寺まで行く。お寺の端から登山路が始まり、帰路は金剛公園にあるケーブルカーまで行くか、途中で東門から下山すれば、地下鉄温泉場駅から釜山市内へ直接帰ることができる。

コース

本来は、友人と韓国海鮮グルメ旅行を計画したのだが、山好きが集まっている。せっかくだから山も歩こうということになった。

山というほどのものではない山にしよう、東京在住の韓国登山の師匠イ

ルボンさんに相談した。後のお勧めが、この金井山城だったのだ。

予想に反して実際、山は802メートルあり、岩場も少しあるそれなりの山だった。昔ウォーキングシューズだったので、登頂にはかなり苦労した。

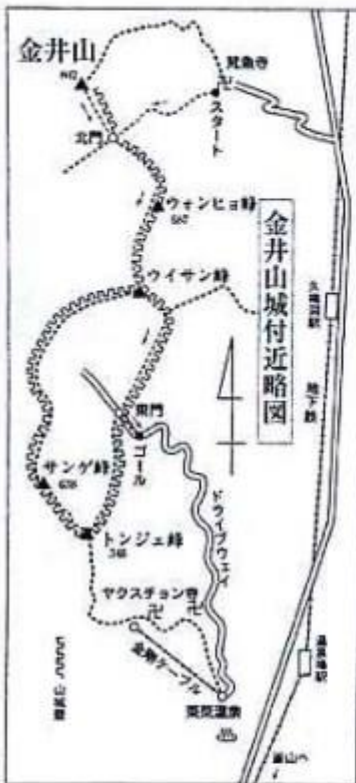
登山日は快晴。ホテルのある西面駅から地下鉄に乗り、約1時間(途中から地上を走るので景色は退屈しない)で久瑞洞駅に着き、タクシーで梵魚寺まで行く。

寺は、金井山麓にある有名な古刹で多くのお坊さんが住んでいる。韓国の

寺は日本に多くある観光系の寺院ではなく、寺に寝泊まりして修行するお坊さん尼さんが多くいる。

韓国の山門は独特の建築様式、幅が広くて見応えがある。山門前には土産物店・茶館があり、この寺の人気のほどが想像できる。

登山路は講堂の横を通り過ぎ、境内を出る所から始まっている。「金井山こちら」と道標にはっきり書いてあり、道中の分岐にもしっかりとした道標がある。道に迷うなど全く心配がない。道は木立のなかをゆるやかに上っ



金井山城付近略図

これが第一ポイントの北門樓閣である。二階に上がると、片や山頂部へのびる城壁、反対方向にも城壁がずいとい尾根筋にのびている。ここで友人の到着を待ち、揃って山頂を往復した。

上へ行くほどに勾配がきつくなり、韓国らしい岩場歩きの道となってくる。最後の15分はかなりの急勾配。ウォーキングシューズでは滑るうえ、踏ん張りが全くきかない。とにかく怖くて大変であった。登山靴の有り難さが、改めて身にしみるのだった。

格闘の末、やっと頂上。見晴らしは最高で、今来た北門を眼下に見下ろし、そこから遙かにのびる城壁を眺めながら、今日の行程はどこまでなのかな? と、楽しみやら苦しみや何ともいえない感じである。余りに行程が見えるのも善し悪しである。空は大きく広く、



金井山城の山頂

とても清々しい気持ちになる。頂上を十分堪能してのち、北門へと戻り、城壁沿いを南下することに。出発が遅かったため、北門で朝食タイムとなり、買った韓国海苔巻き(キンパブ)をほおばった。

このキンパブ、ご存じの方も多いだろうが、韓国料理のベスト3に入るほどで安くて旨くて腹持ちがよいと三拍子揃っている。山のお弁当にはもってこいである。こ存じない方に解説すると、海苔がゴマ油味、具はソーセージ・ワラビ・タクアン・卵焼き等で、日本海苔巻きより私見では数段階いい言っている。我が家では家族の強い希望で、常に韓国土産にしているぐらいである。

さて腹ごしらえを済ませ、ここからは城壁沿いを尾根歩きして行く。道幅は広く、のびやかな堂々たる道で、空は大きく開け、眼下に釜山の街並を見下ろし、気持ちまで軽やかになる。尾根の最高部には大きな岩の固まりが何ヶ所あり、それぞれウォンヒヨ峰・

ウイサン峰と名前が付いている。登れば「ヤッホー」と叫びたくなるので、私も韓国トレッカーに混じり、大声でやらせていただいた。

道中の至る所で韓国トレッカーたちが、時間を限らずそれぞれに弁当を広げ、山中食事をやっている。大変賑やかで、食事というより宴会に近く、韓国焼酎(ジンロ)をパシパシと空けているのである。この登山大路は、かなり存んでも絶対に大丈夫と保証できるぐらいに歩きやすく、迷うこと事態が難しいくらいわかりやすいのだ。

道は木立のなかをゆるやかなアップダウンを繰り返す、いつの間にか東門に到着した。後ろを振り返ると、遙か向こうから来た道や城壁が続き、金井山頂上も確認できる。木目歩いてきた行程を見ながら、「ウーン、けっこう歩いたよな」と皆納得する。東門は最近修復したサラッピン(サラン)の樓閣になっていて、風格さえ感じる。韓国ドラマ「チエオクの剣」に出てきそうな建物である。

本来はここよりさらに歩き、金剛公園ケーブルカーまで行く計画であったが、スタートが10時と遅いうえに雨模様になってきたので、「行つたことにしましょう」と即話がまとまり、下山ルートをとることにした(実は最初から考えていたコースなのだが……)。山仲間であり私のパソコン師匠の頭の中も、もうすでに焼き肉屋しかない状態だ。

20分くだると、ドライブウェイに出る。この峠で今回のハイキングは終了ということになった。

さて、駅まで帰る方法だが、バスストップの路線バス時刻表を見ると30分一回来るようであるが、ここでは登山者を送ってくるタクシィが頻繁に捕まえられる。「焼き肉スルチブ(居酒屋)へ行く前に、ひと風呂浴びてからにしよう」と話がまとまり、東葉温泉まで行くことになった。

この東葉温泉は日本統治時代に開発された有名な観光地で、大きなホテルが広範囲に点在している。ここには日

本統治時代からそのままの姿で存在し、「地球の歩き方」などガイドブックに必ず載っている〇〇温泉という超有名な銭湯がある。日本人が郷愁にかられて行くらしく、私たちもそこに行くことにした。

タクシィのドライバァに頑張って説明を試み、行つて見た。が、結果は全く違う銭湯(韓国では沐浴場)に行つてしまい、入浴している間も「おかしいな、変だな、新しい過ぎるし」とずうと思つていたので。浴後に再度調べたら真横に〇〇湯泉があり、ずっけりてしまった。山道の間違いと全く同じで、最初の思い込み違いが原因であったのだ(山でなくてよかった)。

この夜は3人で町へ繰り出し、ブルコギ食堂(バラ肉焼き肉)で食べまくり、すぐさま、テジコギ食堂(豚焼き肉)へ突撃のハシゴ。その後、屋台で腸詰め・豚足・キンパブをあてに韓国焼酎で盛り上がった。さすがの大食漢パソコン部長も「オッチャン、もうあかんわー」と根を上げるまで食べ続け

アタツテ痛い靴の中広げします

靴底張替承ります!



通販も可能です。



〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-70
http://www.yoshimisports.co.jp/



TEL. 06-6772-7231 ●営業時間/AM10:30~PM9:00/自営17:00まで

毎週木曜日定休



チャガルチ市場

たのである。

翌日は観光地の太宗台公園に遊んだ。太宗台は釜山観光では外してならないスポットで、海に突き出た小さな半島を岸壁沿いに歩く歩行公園である。道は遊覧電気自動車もあり、歩いても乗ってもどちらでもよい。歩けば一周

2時間はかかると思う。最先端の岸壁に立つ灯台からの展望は絶景と言っても過言ではなく、遠く雲間にかすむ対馬も展望できる。

近くに目をやると〇〇海水浴場、「釜山港へ帰れ」の歌詞に出てくるオリョク島が見え、遊覧船が会場を行き来する光景はまさしく歌詞通りになっている。「オリョクト、トラガスン、ヨラクソンマダグー」と自然に歌ってしまうのだ。

釜山の海は青く、空は広く澄み渡り、水平線の端まで続いていく。タクシードライバーは「釜山の海流や空気の流れはとても早いな。だから空がいつも澄んでいるんだ」と言っていた。

従って魚もとても美味しいのである。有名な魚食堂・屋台街チャガルチ市場へ繰り出しての刺身三昧は、釜山旅行のメインイベントなので、太宗台観光の後はずいぶん楽しかった。機会があれば、釜山グルメ、太宗台、釜山名所散策をハイキングツアー向けに書いてみたいと思っている。

山の情報

天然石造稀代の塔

仙人窟岳

山形 明

9月下旬、白山北方稜線上の三方岩岳と峯ヶ岳の中間地点にある仙人窟岳に登った。稜線上は猛烈なやぶで人は近づけないといわれるこの山には、修験行者が住んでいた石塔があり、山名もそのことに由来しているという。

明治27年7月25日の「岐阜日日新聞」の記事に、「天然石造稀代の塔、県下飛騨国大野郡白川村大字加順良の人家を距ること三里余の深山に一基の石造塔あり全体の高さ七丈余にして直径一丈五尺余内形にて五層となり各層と

も外面に何か彫刻しあるが如く見ゆれども青苔一面に覆ひ居りて其何たるを見分くるに由なく下層には五個二階には四個三階に四個四階五階に各三個づつの窓あり……とある。

この塔を見に行こうと6人の男が集まった。山中にある小屋に3泊してこの山を攻めようという計画で、内2人はキノコ採り名人、他は釣り名人2人と料理長1人、心強いメンバーである。

第1日目、7時出発。小屋まで道形を草刈りしながら進み、途中にマイタケを収穫して夕刻小屋に入って宴会という段取りだ。道中、キノコ名人2人は時々斜面を登って姿を消すが、「ない」と言ってお空振りして戻ってくる。そのようなことが何度かあり、草刈りの先頭も雨まである草やぶで差路を誤り、時々修正する。このようなことでは今夜の宴会は大丈夫なのか？、オレの背中にあるブタバコ肉と酒の出番はあるのか？と暗雲立ち込め、小屋まであと1.5の地点まで進んだ時「取獲あ

☆コースタイム☆
梵魚寺（1時間10分）北門（40分）金井山（20分）北門（1時間）ウイサン峠（1時間）東門（20分）ドライブウェイ（合計約4時間30分）
（オプショナルコース）ドライブウェイ（1時間）トンジエ峠（30分）金剛公園ケーブルカー山頂駅

韓国山の旅 特別説明会

4月1日(日) 14時~16時
会場 大阪科学技術センターO'STET
会場室B102(最上階)
場所 地下鉄四ツ橋線「本町駅」28番出口より北へ5分歩きつば公園北側ゲスト 韓国ヘイチョ・トラベルで活躍！
ジンセック・キム氏
★入場無料
★予約・問い合わせ先
アルバイントゥアーズピエス 大阪支店
電話 06(6444) 3033
FAX 06(6444) 3032

岐阜日日新聞 (明治27年7月25日第3841号)

天然石造稀代の塔 岐阜日日新聞 明治二十七年七月二十五日 第三千八百四十一号 飛騨国大野郡白川村大字加順良の人家を距ること三里余の深山に一基の石造塔あり全体の高さ七丈余にして直径一丈五尺余内形にて五層となり各層とも外面に何か彫刻しあるが如く見ゆれども青苔一面に覆ひ居りて其何たるを見分くるに由なく下層には五個二階には四個三階に四個四階五階に各三個づつの窓あり……とある。この塔を見に行こうと六人の男が集まった。山中にある小屋に三泊してこの山を攻めようという計画で、内二人はキノコ採り名人、他は釣り名人二人と料理長一人、心強いメンバーである。第一日目、七時出発。小屋まで道形を草刈りしながら進み、途中にマイタケを収穫して夕刻小屋に入って宴会という段取りだ。道中、キノコ名人二人は時々斜面を登って姿を消すが、「ない」と言ってお空振りして戻ってくる。そのようなことが何度かあり、草刈りの先頭も雨まである草やぶで差路を誤り、時々修正する。このようなことでは今夜の宴会は大丈夫なのか、オレの背中にあるブタバコ肉と酒の出番はあるのかと暗雲立ち込め、小屋まであと一・五の地点まで進んだ時「取獲あ

り」の無線が入り、草刈り隊一行が呼び戻される。何とサッカカーポール大のマイタケ九個をゲット。分担して運ぶがズシリと重い。

16時前小屋に到着し、早速料理長はマイタケをほぐし洗って大ナベに入れていた。ストーブに火を入れる者、風呂に火を入れる者、掃除をしてテーブルに配膳する者、二階に上って布団を敷く者とテキパキと作業が進み、オレは4日分の荷溜りだ。「出来たよ！」と料理長の一声でブタバラ肉とマイタケの味噌仕立てのマイタケ汁で宴会が始まった。

翌日の稜線までのルート工作についての議論に熱が入り、釣り名人2人には「岩魚30匹を釣って帰るよう」隊長から命がくだり、「今は魚も恋の季節なのでエサに振り向いてくれない」と2人は言い訳に一生懸命だ。台所ではマイタケご飯の炊飯器がバタバタとなり、騒がしい小屋の中、山の夜は静かに更けてゆく。

片や熊捕り名人でもある隊長は、この山城の地形をよく知っている。どちらを信頼するのだが、ここから見る地形では左に捲いた方がよさそうだが、それは口に出せなかった。結局隊長が押し切り、左に捲くことで全員が立ち上がった。

しばらく進むと、右手稜線上に「天然石遺構時代の塔」が姿を現した。円錐形のトンガリ帽子の形をした岩塔で黒く光っている。これが目に入った時「あれだ」との声に一同立ち止まり歓声を上げ、しばらく見入っている。ここからは速かった。皆心一つにして力強く押し進む。早々と到達したこの塔は急斜面の途中にそそり立つきれいな円錐形をした岩塔で、急斜面側にボツカリと人の背丈ほどの穴が空き、まるでつくられた入口のようになっていた。中は三畳程の広さの岩穴でまるで人間の住まいのようだが、人工のものではない。まさに天然石造の塔である。新聞には意があると書かれているが、裏へ廻ってみると岩に隙間があり、そ

2日目、6時起床。朝食後ソフトポール大のマイタケご飯のおにぎり二個を持って出発。「釣り名人2人は5時頃に小屋を出た」と料理長が言っている。今夜が楽しみだ。

沢を何度か渡り沢の中を歩き、尾根を乗り越えてからまた沢にくぐると、複雑な地形を登ることなく進んで高度を上げていく。時々、木登り名人でもある料理長は高木に登って進路を確かめている。適度にササを刈り払いながらテーブルを付け、稜線到達が正午であった。

本日の目的達成。あとは釣り名人が目的を達成しているか気にかかる。稜線一帯は猛烈なネマガリダケのやぶで刈り払って広場をつくり、おにぎりをほおばる。料理長は高木に登り、明日のコースどりの確認に余念がない。早々に下山開始。小屋に着いてみると釣り名人は帰っていて、成果は16匹。申し訳なきさそうにしているが、テーブルには塩漬みしたカタハとヤマブドウが山盛りになっている。夜にはマイタ

これから隙間風が噴出してくる。おそらくこれを意と見立てたのではなからうか。岩穴の中に坐して入口の方を向けば白山が真正面に見える。山籠りするにもってこいの場所に違いない。

さらに記事には「塔を離るる一丁余の所に数個の巖穴があり……」とある。隊長と料理長が探しに行くというので、我々4人は先に帰ることにするが、途中2人の付けた熊鈴の音が後ろからどんと近づいてきて、とうとう追いつかれてしまった。この2人はやぶ歩きの名人でもあるのだ。結局巖穴は見つからず、人工的に石を敷きつめたような平らな場所があったと報告した。

稜線切り開きからは、夕闇迫っている急斜面を滑ったり尻餅をついたりしてどんどんくたつていくが、沢に出る前に暗くなってしまう。ライトを点けたが目印のテーブルは全く見えないので苦労した。

小屋に入り、ストーブに火が入るとホッとすする。その夜の宴会はさらに盛り上がり、達成感で満たされた皆の明

ケと岩魚が出揃い、宴会はさらに盛り上がった。

3日目の夜が明けた。快晴である。昨日見た稜線上のやぶの状態から、どこまで進めるかわからない。日没までには刈り払った稜線まで戻る計画で行ける所まで行こうと出発する。

3時間で稜線に到着し、いよいよ激やぶに突入する。やがて前面に通称オニギリ岩と称する岩峰が間近かに迫ってくる。この岩峰はジャンクションピークで、この岩を左に捲いて行くか右に捲くかで隊長と、料理長・草刈り先頭人との間で意見が1対2で対立してしまった。2人は「右に行った方が近い」と言い、隊長は「右は危険で左の方が距離は長い時間は短い」と譲らない。オレに意見を求められたが、この山城は初めてのオレが意見を言う立場ではない。草刈り先頭人は初日小屋までの草刈り、2日目稜線までのルート工作、今日のやぶのなかを絶えず先頭に立って皆を引っ張ってきた男だ。

るい顔が拗った。

翌日4日目は朝から快晴。朝食を終えストーブの煙突をはずし室内に入れる者、布団を竿に干す者、掃除後片付けゴミの処理、さらに窓と入口を板で釘打ちして掃路につく。10月になると岩魚も禁魚期に入る。マイタケも時期が遅く崩れていたものが一個あった。山も今年が終わりのである、あとは深い雪に閉ざされるのだ。食べ切れなかったマイタケを分け合ってそれぞれに持ち帰っている。山の恵みを山でこ馳走になり、お土産まで買って来たのだ。山ちゃんいろいろありがと。

佐保路・平城宮跡を訪ねて

松永恵一

平城宮跡

あおによし奈良の都は咲く花の
にはふがごとく今盛りなり

小野老(『万葉集』巻三―328)

今から1300年程昔、奈良盆地の北端に人口千万人の大都市が出現した。唐の都長安を模してつくられた平城京は、東の春日に青龍、南に朱雀、西の生駒に白虎、北は玄武が守り、気の合一する場所。和銅三年(710)元明天皇によって都と定められた。

九条九坊の大路で構成された約4メートル四方からなる京城とその北に皇宮や役所を配した平城京のメインストリートは、羅城門から北にまっすくにのびる751の幅をもつ朱雀大路。北

端には平城宮の正門朱雀門がそびえていた。復原された朱雀門が威容を誇っている。朱雀門の西側を右京、東側を左京といい、左京には東にさらに張り出され東院庭園と名付けられている。

朱雀門をくぐると天皇の住居であり政治や国家的儀式を行う平城宮。大極殿・朝堂院、内裏、曹司、庭園、周園には大垣がめぐり、十二の門があった。現在は広々とした野原の中を近鉄・奈良線が横切つて走る。朱雀門・東院庭園に続き、遷都1300年となる2010年の完成を目指して大極殿を復原中。復原工事の過程を広く公開するとともに、関連資料を展示する施設とし

平城宮 朱雀門



て、第一次大極殿正殿復原工事一般公開施設が、復原工事現場に隣接して設置されている。

平城から都が遷される時がきた。
田辺福麻呂が詠んだ歌。

たちかはり古き都となりぬれば

道の芝草長く生ひにけり

(『万葉集』巻六―1048)

不遇寺

平安京に都が遷つた後も、桓武天皇の御子の平城上皇は奈良を愛し続け、寵愛した藤原薬子の献策により平城遷都を計画された。薬子の愛と呼ばれる反乱は、平城上皇の落髪讓位、平城の地に萱御所を営み幽閉同様の生活を送られる結果となった。萱御所は皇孫の在原業平によって寺院に改められ、業平自ら聖観音菩薩像(重文)を刻んで、不退転法輪寺と称した。

業平は『伊勢物語』の主人公、美男子の代表として名高く業平寺とも呼ばれる。

蛙股の美しい南門(重文)、池の向こうにはこぢんまりとした多宝塔(重文)。楡皮舟の上層部が壊れたのをそのままの形にしたのだという。貴族の邸宅のようなたたずまいの本堂(重文)、業平格と評ふ細かな格子が美しい。本尊の左右に不動明王、金剛夜叉明王、降三世王、軍荼利夜叉明王、大威徳明王の本造五大明王像(重文)の五代明王像がそろって安置されている。

海龍王寺

法華寺のすぐ東側に海龍王寺はひっそりとたたずんでいる。光明皇后の発願。「隔寺」「隔院」とも呼ばれた。唐で法相の教学を極めた華やかな帰朝僧玄昉は、ここに住した。聖武天皇は海龍王経にある海龍王の靈験によって、四方の海が穏やかであることを祈願し、海龍王寺の寺門勅額(重文)を与えた。

奈良時代建立の切妻造りの西金堂(重文)に五重小塔(国宝)が安置されている。薬師寺の東塔と似た様式で、天平時代の建築技法を伝える貴重なものである。本尊・十一面観世音菩薩立像(重文)は、神秘的な雰囲気を感じさせている。

金剛製舍利塔、文殊菩薩立像(伝運慶作)、絹本着色毘沙門天画像などが重要文化財に指定されている。

海龍王寺は写経発祥の寺。玄昉が持ち帰った一切経の写経が盛んに行われ、光明皇后は般若心経千巻を写経した。空海も唐に渡る前、千日回参並し般若心経千巻を写経している。

法華寺

圓照寺・中宮寺と共に大和三門跡に数えられる尼寺は、光明奈・総国分尼寺・法華寺門跡という。藤原不比等の邸宅を娘の光明皇后が、総国分寺の東大寺に対する総国分尼寺・法華寺の寺とした。造法華寺司によって造営された大寺院は、平安遷都とともに衰微したが、鎌倉時代に西大寺中興の祖、教尊が復興した。慶長年間に豊臣秀頼の母の淀殿が、片桐且元を奉行として堂塔を再建し、現在の姿を整備した。

本尊は秘仏。一本彫りの十一面観音立像(国宝)は、天然の仏師・問答師が光明皇后の姿を写したという伝承をもつ。天平美人の豊満美を受け継いだ観音像は、約1寸の比較的小さな像である。会津八一は詠んだ。

ふじはらのおほきさきさきをつつしみにあひみるごとくあかきくらびる

犬の安産守り。一体一体丹精を込めた尼僧の手づくり。護摩の灰を粘土に混ぜて形をつくり、文様彩色を施している。



法華寺

近鉄新大宮駅下車。まっすぐ北に向かっ
て歩く。佐保川に架かる大宮橋を渡る。川沿いに桜並木が続く。

佐保川の清き河原に鳴く千鳥
かはづと二つ忘れかねつも

作者未詳(『万葉集』巻七-1123)

佐保路は、大伴坂上郎女、大伴家持などの万葉歌人たちの行き来した道。若草山が見える。佐保川の水源は、春日山原始林。鶯の滝。島崎藤村は『若菜集』で「佐保姫」を詠っている。

わむれる春ようらわかき
かたちをかかすことなけれ
たれこめてのみけふの日を
なべてのひとのすぐすうち
さめての春のすがたこそ

まだ夢のまの風情なれ
一条通と国道24号線が交差する。左の奈良市立一条高等学校は、石上宅嗣が平城京に設けた我が国最初の公開図書館「芸亭」の伝承地。歩道橋を渡つて右。不退寺の標識を左に曲がる。J

R大和路線の踏切を直進すると不退寺。切妻造の南門から入る。レンギョウの

コース概観
東大寺の転宮門からまっすぐ西にのびる道が佐保路。平城京の一条大路に当たる。平城京の東にある佐保山。佐保姫は春の神。白く柔らかな春霞の衣をまとう若々しい女性。佐保川沿いは見事な桜並木。佐保姫の衣に包まれて色とりどりの柔らかな色の春がやってくる。レンギョウ、モクレン、雪柳、花の寺を訪ねて歩いてみた。

黄が葉平格子の本堂を包んでいる。多宝塔の前に在原業平の歌碑がある。ちはやぶる神代もきかず龍田川からくれなるに水くくるとは
車裡の庭に付近の古墳から出た例法式割竹形の石棺が置かれている。
不退寺から北に、J Rに沿うように進む。集落の外れを左に入るとJ Rの線路を越える橋がある。国道24号線を横切り、ウナベ古墳(宇和奈辺陵墓参考地)の周縁を西に歩いて行く。ウナベ古墳は全長25.5メートルの大型の前方後円墳で西隣にコナベ古墳がある。二つの古墳の間に、航空自衛隊奈良基地「航空自衛隊幹部候補生学校」の正門がある。南の海龍王寺に向かう。三叉路の信号を渡る。右側の土庫に沿って海龍王寺の東門がある。門をくぐると両側を築地塀に囲まれた参道が続く。大和一の雪柳が小さな小さな花弁を付けて満開となる頃、境内は白一色に彩られる。会津八一の歌碑。
しぐれのあめいたくなふりそこんだうのはしらのまそほかべにながれむ



平城京跡付近略図

海龍王寺を出て南に歩き、突き当たりを右へ曲がり西にとると法華寺。「から風呂」が残る。光明皇后は、病苦に悩む方1000人の鉢を洗ってさしあげることを発願された。1000人目に現れた人は臙ただれた老人だった。臙を吸うことを求められた皇后は、嫌がらず唇を近づけるやいなや、阿闍如来に変わったという。滝口入道との悲恋で知られる横笛が、入道との恋文で自らの像をつくったという紙子像が残る。春秋に特別公開される庭園は江戸時代初期の作庭で、仙洞御所の庭を客殿と共に移したといわれている。5月初めのカキツバタの咲く頃が美しい。

法華寺を後にして西に向かうと平城宮跡。東南隅に宇奈多利坐高御魂神社の森を取り入れて、東院庭園が整備されている。敷地の中央に複雑な形の汀線をもつ洲浜敷の池を設け、その周囲にはいくつもの建物を配していた。朱雀門に向かう。発掘調査によって明らかになった事実に基づき、現存する古代建築や明治以来百年の蓄積をもつ文化財建造物修復で得た知見などをもとに、想定を加えながらの復原が行われた。北正面に大極殿跡。大極殿の右(東)には宮内省の建物が復原されている。内裏の柱跡に木が植えられ、広大な敷地に芝生が広がる史跡公園として憩いの場となっている。都が長岡京・平安京に遷された後は田園と化した。岡野貞博士が「だいこくの芝」と呼ばれていた小高い草地在「大極殿」と推定して調査した結果、平城宮跡と判明した。その後植木職の棚田嘉十郎が、保存に生死をかけて奔走した。復原された朱雀門の門前には嘉十郎像が建てられ、指さす先には大極殿跡がある。

今も発掘が続けられ、木簡や土器、瓦などの出土品類や建物の模型を展示する平城宮跡資料館、柱穴や溝などの遺構を発掘当時の状態で保存し、公開している遺構展示館などでその成果を見ることができ。

☆コースタイム☆

近鉄新大宮駅(15分) 不退寺(15分)
海龍王寺・法華寺(5分) 平城宮跡(15分) 近鉄大和西大寺駅

△地形図V2万5千リ奈良
△費用V

近鉄難波駅→新大宮駅 540円
大和西大寺駅→近鉄難波駅 480円
不退寺 400円
海龍王寺 400円
法華寺 500円

(問い合わせ先)

不退寺 0742 (22) 5278
海龍王寺 0742 (33) 5765
法華寺 0742 (33) 2261
平城宮跡資料館 0742 (30) 6752

山のレポート

山の地名を歩く④

牛岳

西尾 寿一

越中は山田村・利賀村・庄川町の田三町村にまたがる牛岳。古くは「牛ヶ嶽」と呼ばれた(『日本山岳志』)。

牛にまつわる山名は実に数が多い。それは牛の形状・形態・性格に由来するものだろう。擬った山名の多い中でストレートに「牛」の名を表示するのは意外に少ない。

標高の最も高い越後の牛ヶ岳は1962メートルあって、ここに採り上げる越中の牛岳は987メートルと1000メートルに満たない低山の部類に入る。それでもあえて代表として採り上げる理由は、庄川と百瀬川(山田川)の深い渓谷に挟まれた独立峰であり、牛の形態・性格を最も色濃く表しているからだ。

牛を名乗る山は他に焼石連山の牛形山(1340メートル)があり、近くに駒ヶ岳もあり、この地方の農耕あるいは運送事業に牛馬が使用された頻度を示している。

越後の牛ヶ岳は巻掛山の陰にかくれて目立たないが、山名由来に二説あって、牛の背状の山容説と雪形説がある。どちらもありそうで真偽を追求するのはこのことではない。

九州南部の「牛の峰」は日南市と三股町を結ぶ峠で、牛が荷を背にして越えた峠だ。一等三角点が設置されているのでその筋では人気のある山だ。

伊勢の「牛草山」は草刈場という。紀州の「牛廻山」は1207メートルあって関西では有力な山であるが、おそらく峠名・川名から付けられたものだろう。荷の運送や親牛と仔牛の交換が行なわれたらしい。近くに「引牛越」もある。

京都の「牛松山」は、雨乞で牛を生贖としたらしいが、大堰川の豊富を水に思われたこの地で雨乞とは奇異な印

象をもつが、下流域の早稲(こむぎ)畝(うら)から水源地を訪ねて儀礼を行なった可能性は否定しがたい。

「十二支の山」(石井英造著)には牛の山をたくさん挙げていますが、北海道の「ウシ」は牛ではなく、アイヌ語のウシ(場所)なので除外すべきだろう。また、各地にある「赤牛」の地名は、吉田茂樹氏(地名学書)によると「赤石」からの転が相当あるらしいから、北アルプスの赤牛岳もひよつとすると考えたが、実物を見た印象と改めて地形図をながめてみて、これはやはり有峰の人が赤茶色の牛の背状の山と見たのが妥当ではないかと思う。「日本山岳志」には有峰からの登路を示している。

以上、牛の山を概観してみると、牛をよく利用した地方と雪国に多いことがわかる。牛は馬より雪に強い抵抗力を発揮したが、物資の輸送には馬より劣るものの、海岸地方から塩を内陸へ運んだのは牛だったし、南部藩のように塩や鉄器を関東へ運び、牛ごと処分

して焼くという合理的な方式もあった。さて、越中の「牛岳」である。この山は地元の登山者にとってポピュラーな山で登路はたくさんある。東の山田村のスキー場から頂上近くまで車道があるが登山道としては安直すぎる。庄川側から何本かある中で、最も登られているのが湯谷からのものだ。

広域林道が牛岳トンネルに入る手前より北にのびる尾根上の二本松に登り尾根を南下すると、牛岳ヒュッテから登るものがあるが、両者は一周コースとして利用されている。

小生が登ったのは1985年初冬で、鉢伏山から長駆尾根通しだった。誰にも会わず自分たちだけの山だった。山頂の牛岳大明神の祠の脇で大休止してこの山の魅力を存分に味わったつもりだった。しかし、この山はこんな通り一帯の出逸ですまされるほど単純な山ではないことに気づいたのだ。

北方に越中の大平野のなだに波片がなびき、南には重々たる山並が打ち続くなかで、特に意外なほどの車直さ

で目に付いたのは、牛岳から一直線に横む細い尾根が利賀村の鞍部に至り、さらに金剛堂山など飛騨の山々へ続いている姿だった。これはまさしく「牛首」の形状である。牛岳はその頭に相当していたのである。我々はその牛の額の口元から登って来たと考えることが可能である。

牛首も牛額の地名も各地にあるが、これは完全な形で、しかも口先から頭、そして首の長さの先にはこれこそよく肥えた牛の巨体が続いている。

この山に牛岳大明神(山田村に里宮がある)を祭祀した人々は、この山の形状を熟知してのことであつたとしたら、その感性と想像力に感動を覚えずにはおかない。

利賀川と百瀬川をへだてる細長い樹木状の尾根上に点在する利賀村こそ、山村(栗村)といつてよい姿である。牛岳の周辺には数十の村が牛岳の山体にしがみつく態で生活の糧を得ているのだが、利賀村が最も厳しい環境に置かれていた。加賀藩時代の政治的な処

置によるものと考えられるが、後日この利賀村から牛岳へ登ってみたいと考えるようになった。

07年の晩秋、東北からの帰路に牛岳周辺の山に来たところ、駒谷から先が山崩れで不通とのこと、トンネルを抜けて庄川から脇谷、高沼を経て利賀村に入るつもりが、何ヶ所かの土砂崩れで立派な道路が通れなくなっていた。

08年秋、今度は下梨から利賀村に入り、押場、草嶺へ北上するつもりだったが土砂崩れで通行不可。越道時もなく、で仕方なくトンネルを抜け、百瀬川から八尾へ抜けざるを得なかった。

利賀川筋の道(牛の首の部分)は機能的に山崩れの多発地帯のようで、「押場」の地名がそれをよく物語っている。残念ながら牛岳の南側からの登頂を果していないが、おそらく小生が登った北方尾根の次におもしろいルートではないかと考えている。

今年(十二支の丑)年で、登山者を自認する人なら、ぜひ南北のルートから登られることを望みたい。

（里山シリーズ49 明日香村） 農村の原風景を展望 あすか いなぶち たなか 明日香（稲淵）の棚田

一般コース（★★★）
長宗 清司

明日香路には名所・旧跡が多く点在するが、今回は中心から少し南外れの稲淵地区の棚田を訪ねることにした。

近鉄京都駅から特急に乗車。終点の橿原神宮前駅で乗り換え、吉野線の飛鳥駅で下車する。駅前はずっかり都会風に変貌している。国土地理院の古い地形図には全く記載されていない道路が出来ている。

私は昔、この駅を一、二度、飛鳥めぐりの帰りに利用した程度なので、田舎っぽい雰囲気しか記憶になくて少々面くらう。駅前の大雑把な案内板では心もとないので、コンパス片手に「高松

塚古墳」を目指す。展望台や公園がやたら多い。テレビなどで見覚えのある古墳への道に入り、小高い公園に立ち寄ったあと壁面館前を通過した。残念ながら「高松塚古墳」の入口付近は囲いに覆われていて何も見られない。立派な東屋のある所の「文武天皇陵」「岡寺」への道標で現在地を確認し、上平田への道を進む。ブドウ畑やミカン畑の中を通る。上平田の中ほどにある変則十字路に「朝風峠を経て稲淵へ」の道標があり、狭い道筋をいぶかりながら峠に向かう。かなりの急勾配が続き、スギ林の木蔭で涼をとる。

暑い日であれば通過してしまいたいようなやせ尾根上の朝風峠には、横断する昔の道が切り通し状に残っていて、この道と交差している。本日のコース内で一番高い地点の日陰で昼食をとる。風も吹き抜けていた。

峠を越えた先には「神南備の郷・稲淵の棚田」がワイドに展開している。さすが関西の自然百選「里山・棚田」に選ばれただけの価値はある。棚田の

稲淵の棚田



一番高所を目指して登ると、飛鳥川を中心とするゆるやかな谷間に棚田が広がっている。予想をはるかに超えたスケールの大きさに圧倒された。

稲淵は、1999年後半、NHK放映の朝の連続ドラマ「あすか」の主人公が少女時代を過ごした所、春は一面のレンゲ畑に、初夏はホテルが飛び交い、秋にはヒガンバナが咲き、日本の農村の原風景が展開する。
この稲淵地区は棚田保全のため、い



ち早く棚田オーナー制度を取り入れた所で、次の土曜日にはオーナーたちが田植えに来るといふことで、まだ全部は稲田になっていない。所どころ名札のある田は、まだ代掻きもされていない。視野いっぱい広がるみどりの世界は圧巻だった。

稲淵集落の上手にある浄土宗「天徳山龍福寺」の境内には、竹野王の碑と

いわれる奈良時代の層塔がある。これは、わが国石塔塚中、在銘年代の最古のものとして注目されている。古の景観はとも想像できないが、それでも古代から残っていると云い伝えられている稲淵足らずの飛鳥川の流れを越える「飛び石」を渡った。

棚田の用水は全て飛鳥川から取り入れている。稲淵集落の上流500mにある神社あたりから導水され、二段構えに飛鳥川の水を一滴も無駄にしないように工夫されている。川中には数百個に石を積み上げた堰があり、長年利用しているため土砂が埋まり、川の流れが滞りとなって流れ落ちている。

先ほど田んぼで早苗を植えていた「お姉さん」に声を掛けたが、稲り道に寄った勤惰梅のもとでは野菜を売っていて、一回びっくり。地元の人との会話を楽しむ。

午後一番暑い時間帯にアスファルト道を歩くのは辛い。今年の梅雨時、晴れた日の曇りは異常である。汗を拭き拭き歩き、石舞台古墳広場の木蔭で

大休止する。そのあとは、カンカン照りのバイパス道を歩いて西国巡礼第七番札所の「岡寺（毘盧寺）」に向かう。バスの時間に合わせ、岡寺を拝観する者と茶屋の水あずきで涼をとる者とに分かれる。

定期に来たバスは、飛鳥寺や飛鳥博物館などを巡って終着は橿原神宮前駅東口だった。（平成20年6月14日歩く）

☆コースタイム☆

- 近鉄飛鳥駅（15分）高松塚壁面館前（30分）上平田（20分）朝風峠（15分）
- 棚田上部（20分）稲淵・龍福寺（30分）
- 石舞台古墳（20分）岡寺（10分）岡寺バス停（バス30分）近鉄橿原神宮前駅東口

△地形図▽

2万5千1:50,000 峠傍山

（問い合わせ先）

飛鳥総合案内所 奈良交通バス
☎0744(54) 3624
☎0742(20) 3100

北白川から

うりやう

瓜生山と吉田山

よしだ

一般コース(★)

藪木 伸人

秋の日に京都を歩くのが恒例となりつつある。10月13日(体育の日)に、東山の瓜生山から吉田山を巡ってきた。約七千万年前、マグマの貫入によって出来た瓜生山は、比叡山と大文字山との間でその双方よりも高くそびえていたという。表面の古生層は、その後崩壊流失していったが、ここで採掘されてきた美しい花崗岩は「白川石」として、礎石・敷石・灯籠・庭石・石仏・鳥居などに供された。風化粉砕された砂さえ「白川砂」として、枯山水に欠かせない化粧材料となった。瓜生山の別名は、將軍山・勝軍山・

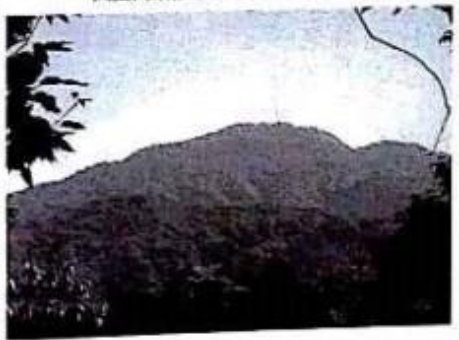
鐘山・情延山・將軍地藏山。京と近江を結ぶ峠道には、境神(蜀の神)が祀られていたが、この神の梵語名「ジャグジ」に「將軍」の字が当てられ、境神と習合した地藏菩薩は將軍地藏と呼ばれるようになった。また「勝軍」の字が当てられて、武士たちの信仰を集めたといわれている。

瓜生山は応仁の乱の戦場ともなった。山頂は磐跡でもある(瓜生山城・北白川城・勝軍山城)。1520年代には、足利義晴、義輝がこの城に拠り、信長の叡山焼討ちに際しては、明智光秀が駐在したそうである。

また、祇園八坂神社の祭神である牛頭天王が降臨した山といわれ、この神が好んだ「胡瓜」に因む山名なのだろう。瓜好きの神が生まれた山→瓜生山というわけだ。後付けの伝承だろうが、おもしろい謂れである。牛頭天王は除疫神なので、塞の神と利益が一致する。

さて、今回私たちは、叡山電鉄一乗寺駅から北白川通りに向かって歩を進

瓜生山頂直下より大比叡を望む



めた。詩仙堂前を過ぎて、ナギナタコウジュの花を見る頃には、中心部の町並は随分下になっていた。

歩き始めて30分、狸谷不動院参道の石段が視界に入る。昼なお暗い朱塗りの鳥居の列を潜り10分も上ると、舞台造の見事な本殿が姿を現した。右手には宮本武蔵修業の滝というものがある。1605年、吉岡一門との決闘に際して、この滝に打たれ、剣の極意を感得

したとある。曰く「敵への憎悪ではなく、己の恐怖、傾軋に打ち克つことと悟った」。今では、沐浴できる程の水量は無かった。ノウマクサンマングバザラタン センダマカロシヤダ ソワタヤ ウンタラタ カンマンの真言が記されている。

本殿からは京都の町が少しだけ見えた。私にわかったのは、五山送り火の舟形だけだ。右手の山道に入ると、三十六童子の像が次々に出てくる。途中で左上の稜線に出たら、瓜生山頂と曼珠院への標識、京都一周トレイル東山59-5の標柱、地藏谷への標識が立つ



ている。ここから5分足らずで山頂に着いた(一乗寺駅から約1時間)。

かつては見晴らしが良かったであろう山頂も木々が茂り、狸谷不動院のお堂が建つのみ。その裏手にある古墳の石室内には、宝暦十二年まで勝軍地藏が安置されていたようである。

北白川仕伏町への下りにかかると、樹間から大比叡が望まれた。清沢口石切場の案内板を過ぎ、下山路中間地点も越えると、地形図通り谷道の様相を呈してくる。しみ出した水が徐々にせせらぎを生み、ゆるやかに白川砂の上を滑ってゆく。立て札に「丹波陣」の文字を見る。小沢吉庵は江戸期の歌人で、「歌はただ今思ふことを、人のわかるように詠むべき」と、「ただこと歌」を提唱した。簡単なようで、実は難しいことだ。

右手に大山祇神社を見ると、間もなくパブテレスト病院横に出た。ちょうど昼になったが、妻が「鴨川近くの出町柳で食事ができる」と言うので、次の目的地である吉田山を目指す。

街は夏のような暑さだった。吉田山東山腹から大文字山がよく見えたが、天辺は、こちらも木々に覆われて見通しはきかない。小公園西側にある三等三角点、そばの三高道通歌の碑を見てから、吉田神社側にくる。ちなみに、吉田山も北白川扇状地の一部で、古代には瓜生山と繋がっていたらしい。

京都大学正門前を過ぎ、百万遍を経て出町柳に着いたのは13時15分。昼食後、妻が楽しみにしていた豆大福を求めて鴨川を右岸に渡り、老舗の「出町ふたば」に至る。妻の念願叶って豆餅と黒豆大福を買うことができた。

瓜生山もみじの中になく鹿の声は恋とも聞こえけるかも(古歌)

(平成20年10月13日歩く)

☆コースタイム☆

- 叡山電鉄一乗寺駅(40分) 狸谷不動院本殿(20分) 瓜生山(30分) 御陰通(30分) 吉田山(30分) 出町柳駅
- △地形図▽
- 2万5千=京都東北部

山行計画
(3・4月)

※ハイキングクラブ専用

山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ(夫婦は一枚)往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認の上申し込んでください。電話・FAXでの申し込みもお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の山行運営費として400円をお支払いください。申し込み後、参加できなかった場合は必ず申込み先に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発点の断、係に保険料日額50円と救護対策費日額50円合計100円(飛行日場りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと契約)

- ・死亡・後遺障害保険 金額 1000万円
- ・入院保険金 日額 5000円
- ・通院保険金 日額 3000円

保険の対象は集合時から解散時まで、事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・水禽等は安全を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

血液型

電話番号・FAX番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

山行計画の実際と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので必ず実施日の7日前までに、「往復ハガキ」で申し込んでください。人数によっては事前バスやタクシーをチャーターする必要がある場合があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日など必ず記入ください。
- ② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはつきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するが大変だからです。早くから申し込みになった場合はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信します。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断ください。
- ④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 - (中級向き) かなり連続を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
 - (上級向き) 距離が長く、つらい急登り、危険な岩場、谷の渡渉(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください(※一歩から先路はしません)。降雨山行の嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようにお願いします。

3月	4月	行先	定員	マイカー
1回	3回	南山城・原山・重仙坊・大原	26	*
2回	4回	鈴鹿・雨乞岳	26	*
3回	5回	紀泉・ポンデン山・城ヶ崎	26	*
4回	6回	生駒・枚岡梅林・鳴川峠	26	*
5回	7回	美濃・雁生山・天王山	26	*
6回	8回	朽木・水無山・能内山	26	*
7回	9回	美濃・雁生山・天王山	26	*
8回	10回	北摂・太郎道	26	*
9回	11回	京都北山・判官坂・貫船山	26	*
10回	12回	京都北山・清冷山	26	*
11回	13回	伊勢・観音岳・城坂山	26	*
12回	14回	鈴鹿・御池岳奥の平	26	*
13回	15回	北摂・刺尾山	26	*
14回	16回	北摂・蓮葉山・梅原山	26	*
15回	17回	但馬・来日岳・大郎山	26	*
16回	18回	敦賀・朝影山	26	*
17回	19回	京都北山・花背峠・大見原	26	*
18回	20回	台高・高見山	26	*
19回	21回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
20回	22回	京都東山・第28峰・第38峰	26	*
21回	23回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
22回	24回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
23回	25回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
24回	26回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
25回	27回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
26回	28回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
27回	29回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
28回	30回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
29回	31回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
30回	32回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
31回	33回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
32回	34回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
33回	35回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
34回	36回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
35回	37回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
36回	38回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
37回	39回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
38回	40回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
39回	41回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*
40回	42回	伊賀・サイクリング月ヶ瀬梅林	26	*

3月	4月	行先	定員	マイカー
4回	3回	奥比叡・横尾山・大尾山	26	*
5回	4回	南山城・笠置・大御生・円成等	26	*
6回	5回	鈴鹿・聖仙山・西原原	26	*
7回	6回	室生・比丘尼谷・笠能堂山	26	*
8回	7回	京都北山・ハナノ木段山	26	*
9回	8回	敦賀・井ノ口山	26	*
10回	9回	湖南・臥竜の森	26	*
11回	10回	鈴鹿・カクレクラ(水谷谷)	26	*
12回	11回	京都東山・第5峰・第14峰	26	*
13回	12回	大峰・松葉山	26	*
14回	13回	奥美濃・倉見	26	*
15回	14回	鈴鹿・鍋原山	26	*
16回	15回	京都北山・井ノ口山・鍋谷山	26	*
17回	16回	若狭・遠敷峠・遠敷端の高	26	*
18回	17回	京都北山・電ヶ岳・愛宕山	26	*
19回	18回	湖西・愛宕越・黒河峠	26	*
20回	19回	志摩・重島大山	26	*
21回	20回	信州安曇野・光城山・徳川源流	26	*
22回	21回	室生・サイクリング・三多気の森	26	*
23回	22回	比良・細川・武蔵ヶ岳	26	*
24回	23回	京都北山・小野谷口・獅子山	26	*
25回	24回	大峰・黒尾山	26	*
26回	25回	台高・テント・池木屋山・遠巻	26	*
27回	26回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
28回	27回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
29回	28回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
30回	29回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
31回	30回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
32回	31回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
33回	32回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
34回	33回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
35回	34回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
36回	35回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
37回	36回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
38回	37回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
39回	38回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
40回	39回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
41回	40回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*
42回	41回	韓国・雪岳山・北瀨山	26	*

*各計画の概要は次ページ以降に紹介している。

いいとこ 東海自然歩道①
南山城
原山から霊仙房・大河原
(一般向き)

3月1日(日) 日帰り
集合 JR加茂駅 8時40分
行程 加茂駅(タクシー)和
東原山―霊仙房―野殿
―押原―大河原駅(解
散16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千―笠置山・島
ヶ原
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
茶畑を見ながらのどかな山
村を伝う。ウオーキングシ
ューズ可。小雨決行

鈴鹿を歩く306
残雪の雨乞岳(健脚向き)
3月1日(日) 日帰りマイカー
集合 大河原「かもしか荘」

地図 2万5千・美濃・岩佐
係 ◎鷺見守康
申込 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1
の19の5
鷺見守康まで
*定員20名(申込状況に
より減員あり)
里山二山の縦走です。
小雨決行

近江の山シリーズ19
朽木・水無山と能内山
(一般向き)
3月8日(日) 日帰り 貸切バス
集合 JR京都駅八条口7時
30分
行程 京都駅(バス) 古屋上
―榎橋―弓坂峠―水無山
―(往路)―古屋上垣
橋(バス) 犬丸大谷橋
―榎橋―能内山―林道
―大谷橋(バス) 京都
駅(解散17時頃)
費用 約3000円(京都駅
からバス代)

行程 広場8時30分
かもしか荘(車) 清水
平谷林道広場―清水の
頭―雨乞岳―雨乞岳
―シヤクナゲ尾根―林
道広場(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・霊
仙・伊吹」
係 ◎岩野 明◎山田景三
◎後藤康幸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
毎年恒例の残雪の雨乞岳で
す(62号ページ参照)。
小雨(雪) 決行

紀泉
ボンデン山から城ヶ峰
(一般向き)
3月5日(日) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄富田林駅北口8時
05分
行程 富田林駅(バス) 堀河
ダム(青少年村)―ボ
ンデン山から城ヶ峰

地図 2万5千・古屋・久多
昭文社「京都北山」
係 ◎森脇貞義
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名
岡山共三角点の山。植林が
大きくなり展望は良くないが、
自然林のなかですばらしい。
雨天中止

展望の山54
美濃・誕生山と天王山
(一般向き)
3月8日(日) 日帰り
集合 JR西岐阜駅 8時00分
行程 西岐阜駅(車) 極楽寺
―誕生山―天王山―極
楽寺(車) 西岐阜駅
(解散)
費用 交通費各自(車代等)1
500円
地図 2万5千・美濃・岩佐
係 ◎山田明男
申込 〒503-0535

ンデン山―立石谷分岐
―城ヶ峰―カマ尾根―
ササ峠―堀河ダム(バ
ス)富田林駅(解散17時)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千・岩出
係 ◎西上利和
◎前川和世子
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名
智教尾根から381.6m峰に
取り付き、ボンデン山を目指
します。対峙するお菊山の稜
線を見ながら城ヶ峰まで歩き
ます。雨天中止

3月6日(日) 日帰り
集合 近鉄枚岡駅 8時30分
行程 枚岡駅―梅林―神津嶽
―府民の森ほくらの広
場―鳴川峠―千光寺―

美濃市中心部に近い500
m程の2山を巡ります。天王
山の展望は良い。雨天決行
19
山田明男まで
*定員10名
地図 美濃み山行90
北摂・太閤道(一般向き)

3月8日(日) 日帰り
集合 JR高槻駅改札口前9
時30分
行程 高槻駅―野手橋―金龍
寺跡―梶原山―若山神
社―桜井駅跡―阪急水
無瀬駅(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千・滝
係 ◎塚元一彦◎中村 登
申込 〒536-0008
大阪府城東区関目4の
14の9の901
塚元一彦まで
新ハイキング関西支部合同
地形図とコンパスのことがわ

伊古麻山口神社―元山
上口駅(解散16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千・生駒山・信
貴山
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
梅林を見て万葉の道からほ
くらの広場へ登り、鳴川峠か
ら千光寺へくだる。雨天中止

自然観察山行264
美濃・誕生山から天王山
(一般向き)
3月7日(日) 日帰り 貸切バス
集合 JR岐阜駅 9時15分
行程 岐阜駅(バス) 極楽寺
―極楽寺中野―林道終
点―誕生山―送電線鉄
塔―天王山―大矢田神
社駐車場(バス) 岐阜
駅(解散)
費用 約4500円(岐阜駅
からバス代等)

かると山座同定がピタリとき
まります。シルバード型コン
パスを持参ください。初心者
歓迎。雨天中止
火曜ハイク54
京都北山
判官坂から貴船山
(一般向き)
3月10日(火) 日帰り
集合 京阪出町柳駅 8時
20分
行程 出町柳駅(バス) 大岩
―P697―判官坂―
貴船山―電電貴船口駅
(解散15時頃)
費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎仲谷礼司◎沖 伸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで

地図には名前の記載もない
山(P697)ですが、この
道を判官坂と呼ぶらしい。歩
行線はありませんが昔に歩か

れた趣ある道です。前雨雨
中止の再挑戦です。雨天中止

紀州・清冷山(初級向き)

3月12日(木) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄富田林駅北口8時

05分

行程 富田林駅(バス) 林道
波瀬登山口479
峠峠清冷山(往路)
登山口(バス) 富田
林駅(解散16時30分)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千。寒川
係 ◎西上利和

申込 前川和住子
〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで

*定員26名
なだらかな山容をもつ日高
の名峰。近畿百名山にも選ば
れ、山頂からは矢筈岳を一望。
雨天中止

伊勢・観音岳と堀坂山
(二校向き)

3月15日(日) 日帰り 貸切バス
集合 JR京都駅八条口7時

40分

行程 京都駅(バス) 松阪森
林公園東屋敷登台
観音岳 堀坂峠 堀坂
山 東尾根 雲母谷林
道 松阪森林公園(バ
ス) 京都駅(解散18
時)

費用 約3000円(京都駅
からバス代)

地図 2万5千。大河内
係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
*定員25名
観音岳から近畿百名山の堀
坂山へ一周する。下山は東尾
根を伝って起点の森林公園へ。
堀坂山からは展望がよい。
小雨決行

鈴鹿を歩く307
残雪の御池岳・奥の平
(健脚向き)

3月15日(日) 日帰り マイカー
集合 御池林道小又谷分岐広

場8時30分

行程 広場 小又谷林道ノ
タノ坂 土倉岳 奥の
平 ポタンブチ 雨峰
丁字尾根 御池林道
広場(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲
仙・伊吹」

係 ◎岩野 明◎山田景三
◎後藤康幸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
毎年恒例の残雪の奥の平を
楽しむ御池岳山行です(24号
49ページ参照)。
小雨(雪) 決行

平日ふれあいハイク70
北摂・剣尾山(二校向き)

3月19日(木) 日帰り
集合 能勢電鉄山下駅8時20

分

行程 山下駅(バス) 能勢の
郷 横尾山 国界石柱
 剣尾山 行若山 能
勢の郷(バス) 山下駅
(解散15時20分)

費用 約1200円(山下駅
からバス代)

地図 昭文社「北摂・京都
西山」

係 ◎寺井恒夫
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
歩くには物足りないですが
展望は良い。雨天中止
比叡を歩く73
蓬萊山から権現山
(中級向き)
3月20日(金) 日帰り

集合 JR志賀駅9時00分

行程 志賀駅(バス) びわ湖
パレイ前(ロープウェ
イ) 打見山 蓬萊山
小女郎ヶ池 ホッケ山
水分神社分社 権現
山 スゴパン 雲仙山
妙道会聖地または栗
原(バス)

費用 約2700円(京都か
ら)

地図 2万5千 比良山
昭文社「比良山系」
係 ◎秦 康夫

申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
残雪の後継歩き。雪の状況
によっては途中から引き返す
場合もあります。雨天中止

但馬・来日岳と大師山
(二校向き)

3月21日(出) 日帰り 貸切バス
集合 JR新大阪駅正面口7

行程 新大阪駅(バス) 来日
岳登山口 P304
中間点 来日岳 芝生
平 紅葉平 大師山
大師堂 城崎温泉薬師
橋(入浴) 城崎駅
(バス) 大阪駅(解散19
時30分)

費用 約3000円(新大阪
駅からバス代)

地図 2万5千 城崎
係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
*定員40名
一等点来日岳からの大展望
を楽しみ、城崎温泉の外湯で
汗を流す。小雨決行

数賀の山
朝影山(二校向き)

3月21日(出) 日帰り
集合 JR新田駅9時00分
行程 新田駅(車) 刀根

行程 朝影山(往路) 刀根
(車) 新田駅(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千 中河内
係 ◎高島伸浩

申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
登山ルート無し。やぶ漕ぎ
愛好者向けの山。新ハイ初登
場。雨天決行

北山ちよつと歩き107
花背峠から大見尾根
(中級向き)

3月25日(木) 日帰り
集合 京阪出町柳駅7時50分
発広河原行きバスに乗
車(北大路駅8時02分)

行程 出町柳駅(バス) 北大
路駅(バス) 花背峠
大見尾根 流谷山 P
877 小野谷峠 P
690 P655 尾
根散策道 交流の森
(バス) 北大路駅(解散)

費用 約1500円(バス代)

地図 昭文社「京都北山」
係 ◎金谷 昭◎磯部 純
◎谷 守

申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
花背峠より北にのびる大見
尾根を行き、小野谷峠よりさ
らに北にのびる交流の森の尾
根散策道に至る長い後継歩き。
途中の流谷山にも立ち寄りま
す。雨天中止

台高・高見山(二校向き)

3月26日(木) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千・高見山・菅野

○西上利和
○前川和佳子
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名

サイクリング&登山19
伊賀・月ヶ瀬梅林散策
(一般向き)

3月29日(日) 日帰り
集合 近鉄名張駅東口9時00分
行程 名張駅(サイクリング)→夏見中央公園→鹿原公園→蜀山→広瀬橋→五月橋→月ヶ瀬梅林→広瀬商店前(庭園)→梅林散策道→月ヶ瀬山

展望の山55
能登・猿山と奥獅子吼山
(一般向き)

4月3日(金)夜5時5日(日)
前夜発泊2日
集合 (3日) JR関ヶ原駅 19時00分
行程 (3日) 関ヶ原駅(車)→白山市民宿(泊)→(4日) 民宿(車)→輪島門前町深見→猿山(往路)→深見(車)→白山市民宿(泊)→(5日) 民宿(車)→加賀一宮→奥獅子吼山(往路)→加賀一宮(車)→関ヶ原駅(解散)
費用 約20000円(宿泊・車代等)
地図 2万5千・能登黒島・鶴来・口直海
係 ○山田明男
申込 〒503-0535
海津市南濃町松山624の19
山田明男まで

ロマンチックな月ヶ瀬
山舞台→梅林散策道
→広瀬商店前(サイクリング)→月ヶ瀬橋→中峰山→片平→吉田→葛尾(夏秋)→名張駅(解散15時)
費用 交通費各自(サイクリングは保険対象外)
地図 昭文社「都市地図」伊賀・名張市
係 ○山口敏明
申込 〒518-0755
名張市緑が丘中144
山口敏明まで

月ヶ瀬梅林までサイクリングを楽しみ(往復約35分)、梅林散策道(坂道あり)を3歩み、梅の開花はどうか?
*MTBレンタル(3000円)は3名まで。雨天中止

*定員10名
能登半島の雪割草(スハマソウ)の名所猿山を訪ねます。奥獅子吼山はカタクリの名所ですがまだ早く、ツバキは見頃か? 雨天決行

週末ハイク90
奥比叡・横高山から大尾山
(一般向き)

4月4日(土) 日帰り
集合 JR京都駅中央改札口 8時10分
行程 京都駅(バス)登山口→横川越→横高山→水井山→御木峠→大尾山→伊香立峠→大原バス停(解散16時頃)
費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
係 ○狩野東彦
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
大比叡の北にのびる峰々を歩きます。雨天中止

火曜ハイク55
私の東山36峰(第5回)
第28峰・第36峰
(一般向き)

3月31日(日) 日帰り
集合 京阪伏見稲荷駅9時00分
行程 伏見稲荷駅→稲荷山→恵日山→光明峰→泉山→今熊野山→阿弥陀ヶ峰→清閑寺山→清水山→鳥辺山→西本願寺本願(解散16時頃)
費用 交通費各自、資料代1000円
地図 1万・国土地理院「東山」
係 ○仲谷礼司○沖 伸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員23名(会費に際る)少しやぶ消ぎがあります。神社巡りも入りますので変則な歩き方になります。最終のコースです。雨天中止

春のロングコース
いとこ東海自然歩道②
南山城
笠置から大槲生・円成寺
(一般向き)

4月5日(日) 日帰り
集合 JR笠置駅8時30分
行程 笠置駅→笠置山→柳生芳徳寺→照明寺→円成寺→峠の茶屋→首切地蔵→白滝寺→奈良公園→近鉄奈良駅(解散17時30分頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千・槲生・奈良
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで

桜満開の笠置山から芳徳寺へ。さらに里山道を円成寺か奈良公園へたどる。好天なら公園で花見します。ロングコースになる方は円成寺まで。ウォーキングシューズ可。小雨決行

全羅里山ハイキング16
湖南・岩塚山(十二坊)
(初級向き)

4月3日(金) 日帰り
集合 JR甲西駅9時20分
行程 甲西駅→甲西大橋→板橋→正福寺林道板並木→十二坊林道→展望台→岩根山→十二坊温泉「ゆらら」(入浴)→勝屋山→花園林道→甲西駅(解散15時30分頃)
費用 交通費各自(入浴600円)
地図 2万5千・野洲・三雲
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで

桜並木を通り、かつての市場十二坊へ登る。山頂からは大パノラマ。帰路、温泉で汗を流してからのおんびりくだる(温泉からはバス便あり)。小雨決行

鈴鹿を歩く308
花の霊山山西南尾根
(健脚向き)

4月5日(日) 日帰りマイカー
集合 河内線甲津倉登り口広場8時00分
行程 広場(車)→今畑→笹峠→近江展望台→雨霧岳→霊仙山→西峰→おさる岩→行ふき峠→今畑(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・霊仙・伊吹」
係 ○岩野 明○山田景三
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
毎年恒例の花いっぱい霊山山西南尾根を登る。早春の花福寿草が待っています。雨天中止

生
比丘尼谷から学能堂山
(中継向き)

4月9日(水) 日帰り 日切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分
行程 橿原神宮前駅(バス)
比丘尼谷—比丘尼尾根
—白土山—東俣山—学
能堂山—登山口—水谷
林道—杉平(バス) 樺
原神宮前駅(解散17時)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 菅野
係 ◎西上利和
◎前川和佳子
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名(全員に履き)

三峰山北尾根の東側支尾根
から白土山に取り付き、ササ
が刈られ、山頂広場から展望
抜群の学能堂山を目指します。
雨天中止

京都北山歩き131
佐々里からハナノ木段山
(二較向き)

4月11日(土) 日帰り 日切バス
集合 JR京都駅八条口7時
40分
行程 京都駅(バス) 佐々里
八幡神社—道ノ谷—尾
根取付点—ハナノ木段
山—東尾根—最勝寺—
八幡神社(バス) 自然
文化村「河鹿荘」(入
浴・バス) 京都駅(解
散18時頃)

費用 約3000円(京都駅
からバス代) 入浴料別
途
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
村田智俊まで
*定員40名

佐々里の三角点峰ハナノ木
段山へ登る。静かな山頂でゆ
っくりできる。雨天中止

敦賀の山
井ノ口山(二較向き)

4月11日(土) 日帰り
集合 JR敦賀駅9時00分
行程 敦賀駅(車) 野坂—井
ノ口山—(往路)—野
坂(車) 敦賀駅(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千 敦賀
係 ◎高島伸浩
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
ハイキング関西まで
野坂山の西隣にある山。新
ハイ初登場。雨天決行

野坂山の西隣にある山。新
ハイ初登場。雨天決行

近江の山シリーズ20
鈴鹿・カクレグラ(水谷世
中継向き)

4月12日(日) 日帰り 日切バス
集合 JR京都駅八条口7時
30分
行程 京都駅(バス) 佐目登
山口—水谷ヶ岳—カク
レグラ—尾根分岐—樋
ノ谷—若宮八幡宮—佐
目登山口(バス) 京都
駅(解散17時頃)

費用 約3000円(京都駅
からバス代) 入浴料別
途
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
村田智俊まで
*定員40名

新ハイキング関西支部合同
隊の森は森林浴百選に選ば
れた山です。地形図とコンバ
スの勉強をしながら散策しま
す。シルバード型コンパスを
持参ください。初心者歓迎。
雨天中止

費用 約3000円(京都駅
からバス代)

地図 2万5千 日野東部
昭文社「御在所・靈
仙・伊吹」

係 ◎森脇貞義
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名

巡視路のコースを行います。
カクレグラは二等三角点で展
望は良い。*コース変更あり。
雨天中止

火曜ハイク56
私の東山36峰(第2回)
第5峰と第14峰
(二較向き)

4月14日(火) 日帰り
集合 飯沼修学院9時00分
行程 修学院駅—薬山親音
(薬山)—一乗寺山—
瓜生山—北白川山—茶
山—銀閣寺(月待山)
—法然院(普賢山)—

費用 約3000円(京都駅
からバス代)

大文字山—銀閣寺(解
散15時30分頃)

費用 交通費各自、資料代1
00円

地図 1万 国土地理院「岩
倉」(京都御所)
係 ◎仲谷礼司・沖 伸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
*定員23名(全員に履き)

12月に雨で流れた分です。
神社巡りも入りますので変則
な歩き方になります。
雨天中止

大峰・松葉山(初級向き)

4月16日(木) 日帰り 日切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分
行程 橿原神宮前駅(バス)
杖持登山口—展望所—
松葉山—(往路)—登
山口(バス) 洞川温泉
(入浴・バス) 橿原神宮
前駅(解散16時30分)

費用 約3000円(バス代)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千 弥山
◎西上利和
◎前川和佳子
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名

三等三角点・点名松葉。整
備され歩きやすい尾根道で陽
春のワンデイハイイクに最適で
す。帰路に洞川温泉で汗を流
します。雨天中止

自然観察山行265
奥美濃・倉見(二較向き)

4月18日(日) 日帰り 日切バス
集合 JR大垣駅9時00分
行程 大垣駅(バス) 道の駅
「うすずみ桜の里」ね
お駐車場—尾砂谷林道
登山口—倉見—林道登
山口—道の駅駐車場
(バス) 大垣駅(解散)
費用 約4500円(大垣駅
からバス代等)

費用 約4500円(大垣駅
からバス代等)

費用 約3000円(京都駅
からバス代)

地図 2万5千 樽見・能郷
◎鷺見守康
申込 〒504-0828
各務原市藤原村1の19
の5
鷺見守康まで
*定員20名(申込状況に
より減員あり)

樹林の世界に遊ぶ山です。
小雨決行

鈴鹿を歩く309
鍋尻山(健脚向き)

4月19日(日) 日帰り マイカー
集合 河内線寺院前広場8時
30分
行程 広場—あけん原—岳の
峠—岳の畑—鍋尻山—
保月—権現谷—あけん
原—広場(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・靈
仙・伊吹」
係 ◎岩野 明◎山田景三
◎後藤康幸
申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
ほとんど通らなくなった古
道を岳の煙に登り、鍋尻山、
保月、権現谷へと早春の花々
を訪ねて巡ります。雨天中止

京都北山歩き132
井ノ口山と鍋谷山
(一般向き)

4月19日(日) 日帰り 貸切バス
集合 JR京都駅八条口7時
40分
行程 京都駅(バス) 原地中
の町→ナベ谷峠→井ノ
口山→鍋谷山→倉谷→
下の町(バス) 京都駅
(解散17時)
費用 約3000円(京都駅
からバス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
*定員25名

井ノ口山の芦生大杉の群落
地を訪ねる。雨天中止

北山ちよっと歩き108
若狭
遠敷峠から遠敷端の高
(やや健脚向き)

4月22日(水) 日帰り 貸切バス
集合 JR京都駅八条口7時
40分
行程 京都駅(バス) 遠敷峠
→P820→P761
→遠敷端の高→中ノ畑
谷→中ノ畑(バス) 京
都駅(解散18時30分頃)
費用 約3000円(京都駅
からバス代)
地図 2万5千「古屋・遠敷
峠」◎金谷 昭◎磯部 純
◎谷 守
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名(全員に履る)
遠敷峠より北西にのびるア
ナ林尾根を歩き、地形図に山

名記入の無い遠敷端の高(△
748・3)に登り、遠敷川
の中ノ畑にくぐります(本号
56ページ参照)。*マイカー参
加も可。その旨明記ください。
雨天中止

平日ふれあいハイク71
京都北山
電ヶ岳から愛宕山
(一般向き)

4月23日(木) 日帰り
集合 清滝バス停9時00分
行程 清滝→梨ノ木谷→首無
地蔵→電ヶ岳→愛宕山
→木尾別れ→つじ尾
根→JR保津駅(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎寺井恒夫
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
裏道を歩き、つじ尾根
をくだります。
雨天中止

週末ハイク91
高島トレイル①
湖西・愛発越から黒河峠
(一般向き)

4月25日(土) 日帰り 貸切バス
集合 JR京都駅八条口7時
40分
行程 京都駅(バス) 四境ス
キー場→愛発越→乗鞍
岳北尾根→乗鞍岳→電
波塔→芦原岳→嶺ヶ馬
場→黒河峠→マキノ林
道→白谷(バス) 京都
駅(解散18時30分頃)
費用 約3000円(京都駅
からバス代)
地図 昭文社「比良山系」
(SIMAPP版)
係 ◎狩野東彦
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名
昨年10月例会で歩いた朽木
の三国岳を終点とする高島ト
レイルを、始点の愛発越から

歩きます。雨天中止

三重の山102
志摩・重島の大山
(一般向き)

4月25日(土) 日帰り
集合 近鉄鳥羽駅9時00分
行程 鳥羽駅→佐田浜港(船)
豊島港→水道タンク→
紅つげ餅生地→大山→
灯台→監的跡跡→しろ
んご浜→豊島港(船)
佐田浜港→鳥羽駅(解
散15時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千「浦村・鳥羽
係 ◎稲垣逸夫
申込 〒519-0311
鈴鹿市大久保町206
5 稲垣逸夫まで
乗船時間は片道約20分。展
望良。雨天決行

信州安曇野
光城山と姫川源流温泉
(初級向き)

4月25日(土) 26日(日)
1泊2日
集合 (25日) JR京都駅八
条口7時30分
行程 (25日) 京都駅(バス)
豊科インナー(バス)
光城山登山口→光城山
→天平の森→長峰山→
天平の森(バス) 安曇
野市「ほりで」ゆい四
季の郷(泊)
(26日) 宿(バス) 姫
川源流自然探勝園(バ
ス) 神城とおみカタク
リ園(バス) 十部の湯
(入浴・バス) 京都駅
(解散19時頃)
費用 約20000円(宿
泊・バス・入浴代等)
地図 2万5千「明科・豊科
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10

村田智俊まで
*定員26名

山麓から山頂へ桜満開の下
を歩く。長峰山からは北アル
プスが大展望。姫川源流では
ミスパシヨウなど、早春に咲
く花々が楽しみ。雨天決行

サイクリング&登山20
室生
比奈知ダムと三多気の桜
(一般向き)

4月26日(日) 日帰り
集合 近鉄名張駅東口9時00
分
行程 名張駅(サイクリン
グ)→夏見中央公園→比
奈知ダム→太郎→敷津
→三多気の桜入口
(駐輪)→三多気の桜
道散策(サイクリン
グ)→往路→名張駅
(解散16時)
費用 交通費各自(サイクリ
ングは保険対象外)
地図 昭文社「赤日・俱留

尊高版(旧版)
◎山口敏明

比奈知ダム湖畔をサイクリ
ングして三多気の桜道を散策
します。ゆるやかな坂道があ
ります。*MTBレンタル
(300円)は3名まで。
雨天中止

比良を歩く74
細川から武家ヶ岳
(中級向き)

4月26日(日) 日帰り
集合 JR堅田駅8時40分
行程 堅田駅(バス) 細川→
標高点706m→北西
稜→北稜出合→武家
ヶ岳→イブルキノコバ
→北比良峠→(ダケ道
またはシンジ谷道)→
イン谷口→比良駅(解
散)
費用 約2200円(京都か

ら

地図 2万5千=比良山

昭文社「比良山系」

係 ◎桑 康夫

申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
北西から武奈ヶ岳に登り
ます。雨天中止

火曜ハイイク7
京都北山
小野谷口から菅子山
(一般向き)

4月28日(火) 日帰り 行初バス

集合 J.R京都駅八条口7時

40分

行程 京都駅(バス) 小野谷口 小野谷峠 前坂峠

西尾根 菅子山 東尾根 平(バス) 京都駅(解散17時30分頃)

費用 約3000円(京都駅からバス代)

地図 昭文社「京都北山」

係 ◎仲谷礼司◎沖 伸

申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10

新ハイキング関西まで

*定員40名

ササがあるとき歩みにくい西尾根も今の時期なら歩けます。ササの無い山頂は広々としています。菅子山を西から東へ縦走して平にくだるコースです。雨天中止

大峰・黒尾山(一般向き)

4月30日(水) 日帰り 行初バス

集合 近鉄橿原神宮前駅中央

口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス) 五色谷林道 登山口

奥ナイバ谷 珍草峠 黒尾山 切抜峠 99

3尾峰 笠木峠(バス) 橿原神宮前駅(解散16時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千=中戸

係 ◎西上利和

◎前川和佳子

申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10

新ハイキング関西まで

*定員26名(会員に限る)

残雪が消え芽吹きが始まるこの時期が適期。春風を感じながらのんびりと歩く。雨天中止

テント泊山行
台高・池木屋山から迷岳
(健脚向き)

5月2日(土) 5日(祝)

3泊4日

集合 (2日) 近鉄大和上市

駅11時00分

行程 (2日) 大和上市駅(タクシー) 北股川林道 車止 林道終点 源流テント場(泊)

(3日) 源流テント場 千里峠 小屋池 池木屋山 東尾根 水越

野江股ノ頭テント場(泊)

(4日) テント場 白

倉山 大熊谷の頭テ

ント場(泊)

(5日) テント場 迷

岳 山の神 運ダム

スメール(入浴・バス)

松阪駅(解散)

費用 交通費5000円(タク

シー・バス代)

地図 昭文社「大台ヶ原」

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10

村田智俊まで

池木屋山から東尾根をたどり、白倉山からは北尾根を迷岳までテント3泊で縦走する。ブナ・ヒメシャラの林、シヤクナゲが見事です。雨天決行

特別企画

韓国の山旅シリーズ①

雪岳山と北漢山ハイキング

(一般向き)

6月3日(水) 6日(土)

3泊4日

集合 (3日) 関西空港7時

40分(9時40分発)

行程 (3日) 関西空港(飛行機) 仁川空港(バス) 東草(ホテル泊)

(4日) 東草(バス) 龍大理(シャトルバス)

百潭寺 水廉洞溪谷 風頂庵 小背峰 中背山荘(泊)

(5日) 中背山荘 雪岳山主峰 大背峰 喜雲閣 退避所 千仏洞溪谷

雪岳山 神興支(バス) 尺山温泉(入浴・バス)

ソウル(ホテル泊)

(6日) ソウル(バス) ヨンドク寺登山口 雲峰 白雲台山荘 白雲台 山荘 道鏡寺(パ

ス 牛耳洞(入浴・バス) 仁川空港(飛行機) 関西空港(20時45分着・解散)

費用 約11万円(決定後送金)

地図 申込者に配布(資料共)

係 ◎村田智俊

*現地ガイドあり

申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10

村田智俊まで

*定員15~20名

*4月20日まで

手配 アルバインツアー

ビス楠 大阪支店

韓国への山旅の初回。雪岳山は一度は訪ねたい一級登山。登山路の新緑と溪谷が美しく、山頂付近は春の花がいっぱい。帰路はソウル近郊の北漢山ハイキング。韓国料理もふんだんに楽しめます。4日間専用バスで移動。日本語の話せる現地ガイドが案内します。*参加者には詳細を連絡。雨天決行

新ハイキング関西 ◎山行係(リーダー)紹介 (平成21年3月現在・五十音順)

氏名	例金名	〒	住所	電話(FAX共)
橋垣 逸夫	三重の山	519-0311	鈴鹿市大久保町2065	0593-71-0246
岩野 明	鈴鹿を歩く	523-0041	近江八幡市中小箕町666-15	0748-33-7215
金谷 昭	北山ちよっと歩き	607-8166	京都市山科区御止香所ヶ口町3	075-581-7947
狩野 東彦	週末ハイイク	617-0006	向日市上植野町番地9-9	075-933-1458
古賀 慶二	兵庫周辺の山	675-0112	加古川市平岡町上之山684-33	17A-403 0794-26-1890
阪上 義次	神戸北部の山	574-0017	大東市津の辺町9-15	072-878-6818
須藤岡 精	兵庫周辺の山	671-1262	姫路市余部区上余部50-2-11	079-273-3037
鷺見 守康	自然観察山行	504-0828	各務原市藤原村南町1-19-5	0583-83-3978
高島 伸浩	若狭周辺の山	914-0076	敦賀市元町14-29	0770-23-2443
塚元 一彦	地図読み山行	536-0008	大阪市城東区岡目4-14-9-901	06-6933-4125
寺井 恒夫	平日ふれあいハイイク	604-8874	京都市中京区壬生天池町30	075-811-5231
仲谷 礼司	火曜ハイイク	617-0817	長岡京市福ノ町1-6-4	075-952-1577
西上 利和	奈良周辺の山 大阪南部の山	586-0043	河内長野市清見台4-19-1-409	0721-63-7196 FAX 0721-63-5988
桑 康夫	比良を歩く	603-8211	京都市北区紫野上石竜町22	075-491-2373
村田 智俊	火曜ハイイクほか	610-0121	城陽市寺田大町10-10	0774-53-2754
森脇 貞義	近江の山	520-1602	高島市今津町桂451-1	0740-22-5088
山口 敏明	サイクリング&山	518-0755	名張市緑が丘中144	0595-64-0107
山田 明男	展望の山	503-0535	海津市南濃町松山624-19	0584-56-1466

山行報告
(11・12月号)
新ハイキングクラブ開会

森本 勝 森本淳子 石田眞由美
谷 守 櫻田勝利 網木美恵子
北村正美 金谷 昭 居原田幸弘
栗岡克子 市井ユリエ
○後藤康幸 ○山田敦三
○岩野 明 (計34名)

両山共に紅葉がとてきれいだ
った。平家岳では送電線の後線に
出てくだった所でクマの声を聞い
た。分岐で往路をくだる組と岐阜
県頭へくだる組と分かれて下山し
た。洞の天井はどこから登っても
時間がかかるが、今日は8時間30
分かけて往復した。

比較的歩きやすい唐谷ルートから
登る。葉を落とした山頂からは眺
めが良く、台高の峰々を望むこと
ができた。
〔参加者〕 渡部和美 佐藤優美子
小谷和子 塚原香織 久保田玲子
岩村春子 林 正義 野末あや子
関田孝敏 志水明美 井上まち子
木村 豊 須藤浩子 佐々木輝子
多田 徳 山口光代 船木裕巳子
堀内眞智 小栗大直 池田美恵子
池田 茂 下郷正年 高木忠夫
大西篤郎 ○前川和佳子 (計26名)
○西上利和

霧ヶ岳・四方草山・三子山
(鈴鹿を歩く298)

11月2日(日) 晴れ

(集合) 鈴鹿峠燈籠広場7・55
(車) 安楽越8・20―霧ヶ岳10・
00―四方草山10・35―四方草山南
峰10・50(昼食)12・50―三子山
13・30―鈴鹿峠14・35(解散)
爽やかな秋晴れのなか、ガレ横
の岩場急登から急斜面の下り、キ
レットの岩場へ。アツブダウン連
続の尾根は、色づき始めた初秋の
山々と大パノラマが続き、思い出
深い山行となった。
〔参加者〕 西村文明 宮村信夫
武村千鶴 神野孝允 森 美香子
森村 守 岩本彰子 市 智恵子
池田隆一 栗本敏夫 中澤典司
木下朝子 服部 裕 奥野太一郎
磯部 純 一芝義雄 一芝美知子
大西篤郎 貴堂雅路 小寺三木夫

11月2日(日)3日(月) 1泊2日
(2日 晴れ)(集合) J.R.勝川駅
7・00/J.R.西岐阜駅7・15(車)
面谷登山口9・30―巡視路尾根
10・30―岐阜県分岐11・50―井岸
山12・10―平家岳12・30(昼食)
13・00―岐阜県分岐13・30(面谷
側下山)―尾根分岐14・45―面谷
登山口15・30(日帰り組解散) *
(岐阜側下山) 岐阜側分岐13・30
―岐阜側登山口18・10(車) 椋取
川温泉入浴) 民泊19・10(宿泊
(3日 雨) 川湯温泉民泊 民宿
7・30(車) 用波渡谷駐車場7・
50―オオツケ谷尾根末端8・00―
尾根上11・00―洞の天井12・00
(昼食)12・35―巡視路分岐13・
15―駐車場16・30(車) 飯取川温
泉入浴) 西岐阜駅18・50(解散)

三重・連絡
11月6日(木) 晴れ
(集合) 近鉄橋原神宮前駅8・05
10(バス) リフレッシュパーク
跡10・00―唐谷林道―二の滝―尾
根出合12・00―迷途12・45(昼食)
13・25―尾根出合14・00―二の滝
―リフレッシュパーク跡15・35
(バス) 椋取神宮前駅17・30(解
散)
やせ尾根の飯盛山ルートを避け、

赤岩尾山と比奈知ダム一廻
(サイクリング&登山14)
11月8日(出) ○山口説明
*雨天のため中止しました。
鈴鹿・雲仙山
11月8日(出) 雨のちくもり
(集合) J.R.柏原駅9・10―25―
車道終点の橋10・00―10―林道終
点10・20―合目二本杉10・45―
55―四合目避難小屋11・35―40―
マモク穴12・15(昼食)13・00―
雲仙小屋13・30―35―峠塚山13・

45―雲仙山三角点14・00―05―経
塚山14・15―見晴台14・40―45―
汗ふき峠15・30―カナ屋15・40―
林道出合15・50―55―醒ヶ井養鱒
場16・35―17・06(バス) 醒ヶ井
駅17・15(バス) 米原駅17・30
(解散)

(バス) 中畑8・59―君ヶ畑9・
12―大皇器地祖神社9・30―尾根
分岐10・04―15―天狗堂11・12
(昼食)12・20―休憩12・47―
13・05―大皇器地祖神社13・56―
君ヶ畑14・25(バス) 京都駅16・
16(解散)

(車) 貴船口駅10・15―30―貴船神
社奥社11・10―15―奥貴船橋11・
30―滝谷峠12・30(昼食)13・30
―貴船山14・10―15―雷岩15・40
―貴船口駅16・00(解散)

神社本殿で参拝し、ゆるやかな
尾根を30分程で荒神岳に着いた。
山頂の展望は良くなかったが、尾
根道から奥高野の山並がすばらし
かった。荒神社駐車場からバスで
渡摩スカイタワーへ向かう。渡摩
壇山から最高峰と観望路を歩き、
さらに小高山へと尾をのぼしてミ
二縦走を楽しんだ。
〔参加者〕 渡部和美 尾野吉幸
大林 進 西村静子 入江 勲
今泉 勲 加藤浩二 中尾博子
渡辺いく 岡本和子 本家洗子
高木忠夫 中島 隆 川村信子
川上久隆 ○前川和佳子
○西上利和 (計17名)

駅から車を逆して歩いたがすぐ
止んだ。曇り空だが展望がきき、
鈴鹿北部の山は紅葉がきれいに見
られた。山頂から伊吹山や眼下に
琵琶湖がかすんでいた。柏原道は
急登も少なく登りやすい。汗ふき
峠までの下山道はぬかるんでいて
滑りやすかった。*梓河内道は土
砂崩れで通行止めの看板を見た。
(参加者) 長沢佑美 水見真砂子
関田孝敏 岡崎知子 都築山美子
上田裕子 上野秀夫 渡部和美
本橋孟夫 楠原良彦 中嶋日出男
遠藤 幸 西脇 稔 青木一雄
吉野英子 磯田安弘 松村雅子
○村田智俊 (計18名)

神社からのコースはいきなり急
登だったが、紅葉は盛りで美しか
った。天狗堂頂上の大岩展望台か
らは御池岳やボクランブチがすばら
しい眺望だった。
(参加者) 多賀久子 仲谷礼司
栗岡克子 奥田剛夫 金森節子
林 正義 木村 豊 富松隆子
岩佐 修 若林文夫 船木裕巳子
藤本紀子 竹田勝美 水見真砂子
岩鶴健司 和田純子 市井ユリエ
栗栖崇吉 岡安紀征 野末あや子
志水明美 高橋壽治 君塚郁子
三野 旭 夏山春子 ○野野東彦
○森脇貞義 (計27名)

奥高野・雲神岳と渡摩壇山
11月11日(日) くもり
(集合) 近鉄富田駅8・05―10
(バス) 立理寛神社10・00―神社
本殿(登山口)10・20―荒神岳
10・50―立理寛神社11・40(バス)
レストラン鶴原12・00(昼食)
12・40(バス) 渡摩スカイタワー
13・00―渡摩壇山13・10―最高峰
13・25―小高山13・40(バス) 富
田林駅15・30(解散)

湖東
安土城址から藤山・猪子山
(金曜聖山ハイキング11)
11月14日(日) 晴れ
(集合) J.R.安土駅9・30―大手
前口10・00―天主閣跡10・30―40
―大手前口11・00―05―北原峠
11・15―峠山12・15(昼食)13・
00―地獄越13・30―兩宮神社
13・40―50―猪子山14・35―北向
岩屋観音14・40―50―能登川駅

鈴鹿・天狗堂
(近江の山シリーズ15)

11月9日(日) くもり
(集合) J.R.京都駅7・30―36

京都北山
貴船山から二ノ瀬ヨリ
(地図読み山行89)
11月9日(日) くもり
(集合) 飯電出町御駅9・45(電

11月9日(日) くもり
(集合) 飯電出町御駅9・45(電

11月9日(日) くもり
(集合) 飯電出町御駅9・45(電

15・30 (解散)

天主に登り、展望所から西の湖を眼下に見下ろしたのち、北麓峠からの急登を登山に登って昼食。午後は山火跡からの眺望を楽しんでから、猪子山への長い尾根をたどった。

- (参加者) 小谷和子 塩尻香織 若林文夫 村田洋子 木内純文 加藤浩二 水富律子 宮路ちへ子 岩本彩子 福本愛子 大園加代子 堀田輝子 加藤國計 小石清子 福本芳雄 渡部和美 武部美英子 木下朝子 岡 兼子 栗岡克子 針谷静子 ○谷 守 (計23名)

丹後・大江山

(週末ハイク86)

11月15日(出) 晴れのちくもり (集合) JR京都駅7・45 (バス) 鬼塚稲荷神社9・55→10・25→大江山(千丈ヶ嶽)10・55→11・05→鳩ヶ峰11・30(昼食)12・25→鳩ヶ峰・鍋塚のコレ12・45→55→鍋塚13・20→30→鬼の岩屋14・10→20→航空管制塔14・30→昔甲峠15・10→30(バス)京都駅18・25

(解散)

予報に反して好天に恵まれたので縦走コースに変更した。ブナ、ナラの黄葉、ドウタンツツジの紅葉、そして後編からの眺望を楽しみながらゆっくりと歩いた。

- (参加者) 中川光郎 中嶋日出男 沖 紀子 金森節子 岩村春子 白島忠子 園田孝敏 久保田玲子 岩城豊子 林 正義 中尾美智子 寺田久広 塚本忠次 野木あや子 小松志信 萩野暢子 都築由美子 岡崎知子 宮野哲郎 宮野絃子 上田裕子 中辻勝子 岡本和子 岡本正明 渡辺いく ○仲谷礼司 ○井野東彦 (計27名)

三田・有馬富士(北神戸の山)

11月15日(出) 晴れ

(集合) JR三田駅9・30→45(バス) 志手原10・05→清水山10・40→行者山11・10→神社11・30→芝生広場12・10(昼食)12・55→有馬富士13・50→南の芝生広場14・15→30→新三田駅15・20(解散) 志手原から清水山と行者山に登るがやぶ。志手原から尾寺までは

バス道を歩く。有馬富士山麓公園

の北ゲートから入る。広大な芝生広場で昼食。北尾根から有馬富士に登る。遊歩道が山頂まで付いている。南へ岩場を下り、南の芝生広場で小休止。福島大池を経て新三田駅まで歩く。

- (参加者) 鮫田二郎 熊田千夜子 木下朝子 岩本彩子 森安喜美子 磯田安弘 林 貞男 ○飯上義次 (計8名)

奥美濃・小津権現山

(自然観察山行259)

11月15日(出) くもり (集合) JR岐阜駅9・00(バス) 藤波登山口10・10→15→ブナの大木休憩所11・30→40→小津権現山12・45(昼食)13・25→高屋山14・10→杉谷林道終点15・10→15→小津公民館15・40(バス) 池田温泉16・40(入浴)17・20(バス) 大垣駅18・00(解散) 終日曇天で、平地では雨が降ったのに山は免れるというめずらしい天気。藤波谷からの新ルートに登り、小津登山口へと縦走した。新ルートでは日本山岳会が育てる

「権現の森」を歩いた。

(参加者) 荒木光雄 岩鶴健司 岡安紀征 沖 伸 萩野美紀恵 原田 弘 栗栖崇吉 加納由紀子 松村雅子 水谷陽子 三野 旭 若林文夫 ○三井敏一 (計14名)

飯高・熊ヶ池(三重の山100)

11月15日(出) くもり

(集合) 道の駅「飯高」9・30(車) 飯高西中学校10・20→熊ヶ池12・15(昼食)13・15→飯高西中学校14・40(車) 道の駅「飯高」15・20(解散) 曇り空で遠望がきかなかったが、切通しのリンドウやノギクを愛しんだ。池周辺の紅葉が見事だった。某さんが「三重の山100」を記念して焼いてきてくれたケーキがとてもおいしかった。解散後温泉に入り、有志は無酔帰へ。

滝谷山・大見晴・万野

(鈴鹿を歩く299)

11月16日(出) ◎岩野 明

*雨天のため中止しました。

打見山から雲満彦

(比良を歩く71)

11月16日(出) ◎秦 康夫

*雨天のため中止しました。

大峰・三本峠から大梅山

11月20日(出) 晴れ

(集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05→10(バス)トンネル東口10・05→奥砥道出合11・15→支尾根出合11・20→三本峠12・20(昼食)12・50→大梅山13・36→小谷林道14・30→ゲート前14・55(バス) 橿原神宮前駅16・40(解散) 季節はずれの雪景色と残り少ない黄葉を同時に楽しみ、冠雪の弥山を見送りながら晩秋の河合道を歩いた。

- (参加者) 渡部和美 沖 伸 奥田剛夫 栗岡克子 入江 勲 林 正義 志本明美 佐藤優美子 中尾博子 友田 聡 友田美保子 古山幸男 小栗大直 加納由紀子

森藤哲良 梶原泰彦 井上まら子 今泉 勲 池田 茂 市井ユリエ 馬越忠男 針野東彦 大園加代子 小松志信 ○竹田勝美 ○前川和佳子 ○西上利和 (計27名)

大峰奥砥道

11月21日(出) 夜123日(出) 前夜発1泊2日

(集合) JR京都駅22・30(バス) 近鉄橿原神宮前駅24・00→15(バス) (22日) 晴れ(バス) 白谷トンネル東口4・00(飯取・朝食)6・30→行仙岳7・20→40→行仙宿8・00→笠捨山9・30→35→葛川止9・50→地蔵岳タリ場10・40→11・40→四阿宿手前12・00(昼食)12・30→香積山13・50→具吹金剛14・20→30→上葛川15・20→30→葛川トンネル西口16・00→15(バス) 玉置神社駐車場16・40→手取神社17・00(泊)

大峰奥砥道

11月21日(出) 夜123日(出) 前夜発1泊2日

(集合) JR京都駅22・30(バス) 近鉄橿原神宮前駅24・00→15(バス) (22日) 晴れ(バス) 白谷トンネル東口4・00(飯取・朝食)6・30→行仙岳7・20→40→行仙宿8・00→笠捨山9・30→35→葛川止9・50→地蔵岳タリ場10・40→11・40→四阿宿手前12・00(昼食)12・30→香積山13・50→具吹金剛14・20→30→上葛川15・20→30→葛川トンネル西口16・00→15(バス) 玉置神社駐車場16・40→手取神社17・00(泊)

(23日) 晴れ) 玉置神社6・40→駐車場6・55→7・15→玉置山7・55→8・05→本宮辻8・40→大森山三角点10・20→五大尊岳11・40→五大尊岳南峰11・55→広場12・30(昼食)13・10→六道ノ辻13・30→大黒天神岳13・50→山在峠14・45→15・00(バス) わたらせ温泉15・30(入浴)16・40(バス) 田辺インター18・00(バス) 大阪駅23・00(解散) 今回、行仙岳から歩き出したのと、地蔵岳のタリ場通過に長時間を要したので玉置山までとても歩かず、具吹金剛から里に下りてバスで行った。翌日、玉置山へ登り返して出発したので山在峠までと決め、残念ながら最終のコースをカットした。「紀伊山地の参詣道を歩く」シリーズは延43日間を要したが、何と野末あや子さんが全コースを踏破された。補給、飯相道が大渋滞して遅くなった。

(参加者) 多賀久子 松上英代子 高松雅子 岩村春子 中嶋日出男 多田 徳 緒方由子 小川富士雄 堀越武敏 須藤清子 野末あや子 宮野絃子 岩鶴健司 武藤由美子

11月22日(出) 晴れ (集合) 中河内9・00→10(車) 長野尾崎10・00→池内山10・50(昼食)11・55→市道池内峠12・40→岳山手前鉄塔13・05(岳山往復)13・20→坂の頭13・45→池内集落13・55→長野尾崎15・10→中河内16・00(解散) 新しく開拓した周回ルート。3日前に降った初雪の上に散り敷く紅葉やブナの葉が、京都の名園に劣らずに美しかった。池内山頂上下の鉄塔からは飯高や西方ヶ岳を目前にして昼食を楽しんだ。

(参加者) 磯部 純 中嶋エリサ 岡近正男 松村雅子 神谷恵美子 堀江勇樹 細野次也 友田美保子 西村敏夫 小松志信 金谷 昭 ○高島伸尚 (計12名)

私の東山36峰(第1回) 第一峰から第4峰

(火曜ハイイク47)

11月25日(火) 晴れのち雨
(集合) 飯電八瀬比叡山口駅9:00

今回の東山36峰山行は、それに関連する神社仏閣を中心において案内している。本日は、旧道を利用して大比叡まで足をのばし、4峰を案内した。下山してから雨に遭ったが紅葉も楽しめた。

(参加者) 須藤浩子 入江 勲 金森節子 今泉 勲 宮路ちへ子 福 良万 大村 進 大岡加代子 大和 絳 中谷孝子 加納由紀子 鮫田二郎 夏山春子 船本哲巳子 林 正義 白鳥忠子 中川光郎

○沖 伸 ◎仲谷礼司(計19名)
京都東山
大文字山・打越滝と経塚山

花脊の二本杉から峰床山

(京都北山歩き129) 12月6日(日) 晴れ

(集合) J R京都駅8:00(バス) 峰定寺9:40 10:00 花脊の二本杉10:30 10:40 交流の森尾根歩道11:20 10:40の森展望休憩所11:30(昼食) 12:10 ナメラ尾根歩道 旗坂峠13:10 峰床山13:45 15:00 オログ坂峠14:30 八丁平温泉14:40 15:00 中村乗越15:10 伊賀谷林道終点15:40 15:45 葛川中村小学校前16:10 17:30(バス) 京都駅18:00(解散)

根元から二本の大杉がそびえる景観に圧倒された。冬晴れで風の無い日だが超低温の日、汗もかかず落ち葉道を快適に歩き峰床山へ。枯木の山頂からは展望抜群で比良の武岩ヶ岳がそびえ、北山の脈々も広がっていた。

(参加者) 渡部和美 中嶋日出男 白鳥忠子 小石浩子 濱本美和恵 上住忠雄 三野 旭 大岡加代子 岡本和子 渡辺いく 中尾美智子 上田裕子 島田 暎 武部美英子 塚本忠次 安良陽子 水見真砂子 畑 秀明 宮崎靖久 宮崎由美子

北山ちよつと歩き103

11月26日(水) 晴れ

(集合) 銀閣寺山門前9:30 10:18 23 打越滝10:45 11:35(昼食) 12:15 大文字山12:40 15:00 如意越12:55 経塚山13:20 25 後山階梯14:20 15:00 毘沙門堂14:30 山科駅15:00(解散)

ホビエラーな大文字山でもあまり歩かれない英大文字山の中尾城跡や打越滝、そして南面の経塚山の静かな雑木林の山行を楽しんだ。山中での紅葉には少し早かったが下りて来た毘沙門堂の紅葉は見頃であった。

(参加者) 仲谷礼司 中嶋日出男 入江 勲 大東 哲 宮路ちへ子 宮西利子 上田典子 大和 絳 武村千鶴 中谷孝子 武部美英子 小林 桂 萩野暢子 松上美代子 本岡 隆 本間黎子 福内預智 磯田安弘 川上久堅 志水明美 清 紀嘉 水下朝子 中尾博子 塚本忠次 青木一雄 林 弘毅 森 和久 児島安子 今村あやの 竹田善英 小松志信 ○磯部 純

杖杖秀賢 岡崎知子 久馬麻登河 下山 登 下山誠公 山高多恵子 山高義治 竹田善英 中尾博子 中川光郎 村井寿和 ○宮野哲郎 ○村田智俊 (計33名)

朽木の山・行者山

12月6日(日) 晴れ

(集合) 朽木支庁13:00(車) 桜峠登山口13:10 行者山14:45 15:00 桜峠登山口16:20(解散) 宿泊忘年会は小人数のため中止。午後のみ登山となった。青空だが水点下の山行。凍りついたナメコ採りに興じた。

(参加者) 山形 明 中嶋エルサ 岡近正男 川島勝美 石原君子 谷 守 堀江房隆 ○高島伸浩 (計8名)

谷 守 ◎金谷 昭(計34名)

12月4日(木) 晴れ

(集合) 近鉄桜原神宮前駅8:05 10(バス) 県道委谷線登山口9:50 10(二階台) 10:10 木ノ実ヤ 塚10:40 11:30(昼食) 12:30 大鏡池13:30 古池辻 委谷口15:00(バス) 桜原神宮前駅16:15(解散)

バス会社の事情により遅ルートから登ることになり、標高1120mの登山口から冬枯れのブナ林尾根を歩き、日だまりの山頂でのんびりと昼食をとった。終始、晴天に恵まれた山行日和だった。

(参加者) 渡部和美 奥田剛夫 中川光郎 岩村春子 久保田玲子 林 正義 志水明美 多田 隆 須藤浩子 栗栖崇吉 佐々木輝子 池田 茂 岡田孝雄 野末あや子 小栗大直 今泉 勲 市井ユリエ 森藤哲良 堀江房隆 船本哲巳子 松村雅子 高木忠夫 ○竹田善英 ○前川和佳子 ○西上利和 (計25名)

町山口忘年会会場12:40(昼食忘年会) 15:30(車) 関ヶ原駅16:00(解散)

好天に恵まれ、林道歩きで二山

を巡ってきたがとても寒かった。忘年会では持ち寄りの品を他の人が買い、会費とレンタカーの不足分を捻出した。泊まりは酒飲みの方が3名だった。

(参加者) 萩野暢子 林 正義 村田紀生 三井絳一 北村つねみ 沖 伸 石井照雄 伊藤忠英子 西村文男 馬場桂子 横田とも子 小林一世 春見重美 長坂佐知子 久米孝子 竹内正子 生越忠英子 佐治 登 佐治光江 緒方由子 高梨芳彦 朝倉松雄 松村雅子 山形 明 笹岡庄蔵 武藤由美子 高原 陸 石垣要三 石川志津加 山田妙子 ○山田明男(計31名)

梅現谷北尾根P71221 (鈴鹿を歩く300回記念山行) 12月7日(日) 晴れ (集合) あけ川原8:30 行者谷口8:55 嵐谷分岐9:45 小嵐前10:00 P598山頂広場11:05(昼食) 12:10 P713・8

美濃・金華山 (自然観察山行250)

12月6日(日) 晴れ

(集合) J R岐阜駅9:05 12(バス) 白山比咩神社9:40 10 現山10:15 13 洞山11:00 岩戸東山11:45 東坂ハイキングコース 七曲分岐12:00(昼食) 12:40 七曲道 金華山ドライブウェイドライブウェイ展望台 梅林公園14:30(解散) 勉勞福祉センターにて忘年会

金華山への最も長大な里山を縦走したが、昨年歩いた東坂ハイキングコースに達した時点で金華山を省略した。雑木林の樹木を観察しながら歩き、中腹の七曲分岐点でヤマガラたちと「交流」しながら昼食をとった。

(参加者) 佐々木三千代 長尾一令 福田輝子 萩野美紀恵 武藤由美子 ○三井絳一 ○鷺見守康 (計7名) 湖北・己富山(週末ハイイク87) 12月6日(日) ◎狩野東彦 *リーダーの都合で中止しました。

行者谷から重谷は水の無い石灰岩の荒れ谷を通行し、古い水平の仕事を戻ると、開放感にあふれるとっておきの598mの山頂広場であった。早めの昼食は至福のひとつ。午後もなだらかな落ち葉のじゅうたん地帯、明るい尾根道、アッシュの岩壁など変化に富んだルートで、晴天にも恵まれ鈴鹿の良き満喫の記念山行となった。(参加者) 武村千鶴 中澤與司博 磯部 純 多田 隆 森 美香子 木下朝子 一芝義隆 一芝美知子 吉村 昭 池田繁美 石田真由美 森村 守 栗本敏夫 奥野太一郎 水戸鉄治 北村 絳 網木美恵子 大西博郎 友田 毅 友田美保子 福澤謙治 豊田勝利 居原田幸弘 炭田明美 池田隆一 市井ユリエ 森本 勝 森本淳子 小林 桂 谷 守 北村正義 栗岡克子 堀 寿江 ○山田豊三 (計35名) ◎後藤康幸

私の東山36峰 (第2回) 第5峰〜第14峰

12月9日(火) ○仲谷礼司
*雨天のため中止しました。

台高・小嶽山

12月11日(木) 晴れ
(集合) 近鉄橋原神宮前駅8・05

(参加者) 渡部和美 奥田剛夫
岩村春子 志水明美 松上美代子
長沢佑美 木村 豊 佐藤優美子

竹村英樹 古山幸男 高木忠夫
沖 伸 加藤浩二 ○竹田勝美

奈良・春日山原結林と若草山

12月12日(金) 晴れ
(集合) 近鉄奈良駅9・30

(参加者) 村田洋子 中嶋日出男
水宮律子 福井清之 山盛加奈子

赤目四十八滝と普賢寺ダム
12月13日(土) 1泊2日

湖西・箱館山

12月14日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅8・00

(参加者) 仲谷礼司 松上美代子
沖 伸 渡部和美 多賀久子

林 正義 金森節子 水見真砂子
岩佐 修 松村雅子 岩崎健司

嵯峨嵐山

12月17日(水) くもりのち晴れ
(集合) JR嵯峨嵐山駅9・00

(参加者) 仲谷礼司 松上美代子
沖 伸 渡部和美 多賀久子

三重・白鷺山

12月18日(木) 晴れ
(集合) 近鉄橋原神宮前駅8・05

(参加者) 上田久子 西村静子
川上久堅 志水明美 村田はる江

熊野流は谷底広く明るいものの、

熊野流は谷底広く明るいものの、
三方切り立つ岩壁に囲まれた花厳

年末ロングコース

12月21日(日) ○村田智俊
*雨天のため中止しました。

(参加者) 三井敏一 森 美香子
武村千鶴 北村 聡 北村つねみ

中山寺から大峰山・武庫川溪谷

12月28日(日) 晴れ
(集合) 阪急中山駅8・00

(参加者) 長沢佑美 中嶋日出男
岩崎健司 上住忠雄 木村朝忠

熊野バス停8・35

熊野バス停8・35

熊野流を歩く3001忘年山行

12月21日(日) 晴れのちくもり

熊野バス停8・35

熊野バス停8・35

熊野流を歩く3001忘年山行

12月21日(日) 晴れのちくもり

会誌

大阪低山散歩会

大阪府産連加盟

主に近畿周辺の山々を日帰り楽しんでるグループです。今年で29年目になり、歴史ウオーケや山麓ハイキング等の軽ハイキング、及び初級、中級登山、時には道も無い登山にも登ります。例年は日曜・祝日だけでなく平日山行も開催しています。40〜70歳位までの山と自然が好きなた方ならどなたでも大歓迎。資料請求は葉書で左記へ。

〒565-0831
吹田市五月が丘第6番C-108
矢杉和彦まで

田中 明 福本愛子 池田美恵子
大和 敏 小林 桂 石田賢二
○狩野東彦 ○村田智俊(計22名)
(11・12月参加者 延777名)

13・50(道)
(12日)雪 本沢温泉8・00〜ミドリ池・しらび子小屋9・15〜25(入浴・昼食)
12・50(バス)草津駅19・30(解散)
麦草峠は通行止のため流の湯からの入山にした。(1日)途中で体調の優れない人があったので流の湯へ引き返し、温泉に入ってからリセットした。(2日)早朝から里合平へ登ったが、天狗岳は強風で登れず、ヒュッテ内で暖をとりに昼食をした。中山峠からの道で本沢温泉に早く着き、長湯(20〜30分)で温まった。(3日)本格的な降雪のなか、帽子湯へくだった入浴・昼食して帰路について。3日間大寒波に見舞われたが、雪量はまだまだ少なくトレースもあってコースは歩きやすく冬山入門としてみよかつた。箕州湯の三つをめぐった思い出の旅になった。(参加者) 富松雅子 村田はる江 三井敏一 萩野暢子 西谷真実子 小松志信 松村雅子 加納由紀子 岩田有士 高木忠夫 川田洋子 堀 和夫 川戸せつ 寺井博子

八ヶ岳・白駒池から天狗岳
1月10日(出)12日(返) 2泊3日
(集合) (10日)晴れ JR京都駅
7・30(バス)流の湯13・45
14・00〜八方台分岐手前14・30
15・00(撤退)流の湯(御殿湯)
15・30(道)
(11日)晴れ 流の湯7・15〜八方台分岐8・20〜25〜唐沢温泉分岐8・55〜黒百合ヒュッテ9・50(昼食) 11・00〜中山峠11・10〜ミドリ池分岐12・30〜本沢温泉

小林 桂 小林博子 岸 すみ子
堀内預智 宮野穂子 飯屋いずみ
鮫田二郎 山田景三 飯屋てるみ
龍田初雄 大東 哲 西谷真実子
高橋典治 木下朝子 村岡雄志郎
中川光郎 中島 隆 太田裕幸
富松雅子 吉植 清 吉植ミチコ
大和 敏 林 信男 岡崎知子
渡部想英 和田直樹 桑 康夫
小池一郎 大平 漸 森実喜英子
細津謙治 岩本彰子 河本美千子
山科邦彦 市岡晴美 小坂さゆり
国本英樹 瀧尾健治 三野 旭
川田洋子 上田直代 光川二美子
栗比緒美 松山みつ 桐本美恵子
兼田幸子 湯浅次男 ○宮野哲郎
○狩野東彦 ○村田智俊(計38名)

北河内・旗坂山から千鈴山
12月30日(返) 晴れ
(集合) JR津田駅9・00〜登山口9・35〜国見山9・55〜白旗池10・15〜交野山10・35〜権現山11・10〜野外活動センター11・20(昼食) 11・50〜傍示の山12・20〜笠上神社13・15〜千鈴山13・25〜くろんと池14・20〜京阪私市駅15・30(解散)

会 員 募 集

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で19年目に入りますが、すでに数千名の会員で活動しています。会員は当会のイベントに優先して参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。会員には「新ハイキング関西の山」を毎月お届けします。

第(リーダー)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買って茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。会員が何れ会に参加されることは、山行運営費として400円を支出していただきます。四季の自然に触れながらの山歩きから、ウオーキングまで、若々しい心と健康をいつまでも

保持するのはすばらしいことです。これから始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんご入会いただけます。

入会金 500円(ワッペン共)
年会費 3300円(送料共)
入会の申し込み(随時)は、この雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。第何号からの送本かを忘れずに記入ください。なお、定期購読をご希望される方も会員になつていただきます。と毎号確実にお手元に届きます。お友達のご住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイキング関西の山」最新号を見本誌として無料で送ります。

○山行係(リーダー)募集
係は2ヶ月に1〜2回程度山行例会を実施していただきます。経験のある方、やってみたいと思われる方は、「新ハイキング関西」までご連絡ください。「新ハイキングリーダー必携」をご参考にお送りします。

○新入会員(定期購読者)紹介

- 新しいお仲間のみなさんです。
会員番号5426番から5439番まで(敬称略)。
- 【愛知】中村通則
 - 【岐阜】松岡立雄
 - 【滋賀】中原晋吾 大嶋 勉
清水幸子
 - 【京都】鈴木 隆 中山 賢
東 利信
 - 【大阪】島野光代
 - 【奈良】林 慶一 岡本正明
 - 【和歌山】福本賢子
 - 【兵庫】重田仁志 西 國治 (14名)
- 別号(新巻)
- *13ページ目次13行目「西尾寿一」
 - *36ページ目次9行目「J.A.C.会長」
 - *50ページ目次19〜20行目「リーダー(か)歩き」
 - *53ページ目次1行目「51ページ上段1行目「シンソウ台」
 - *56ページ目次1行目「ふんだん」
 - *59ページ目次1行目「蛙子峠」

- (5・5・2) ↓「蛙子峠」(54頁)
- *82ページ目次22行目「3066」 ↓「3000」
- *91ページ目次2行目「22(田)」 ↓「25(田)」
- *98ページ目次2行目「鈴鹿を歩く303」 ↓「鈴鹿を歩く304」
- *107ページ目次6行目「ハウス」 ↓「ハウス」

【編集室からのお願い】
もともと皆さんの原稿を募集しています。「紀行」「コースガイド」「随想」「せせらぎ」を対象にした文章をお送りください。文章を書くのは苦手で、口絵ページも増やしました。よい原稿が掲載されましたらお送りください。

書店でお求めになりたい方へ、前もって郵送してほしいと「購読予約」をさせていただきます。の書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」は偶数月の20日頃(隔月刊)の発売